

|                       |   |         |                                      |
|-----------------------|---|---------|--------------------------------------|
| 1. 科目名 (単位数)          | 音楽基礎Ⅱ (2単位)   | 3. 科目番号 | JNNT2111                             |
| 2. 授業担当教員             | 松本 岳志   |         |                                      |
| 4. 授業形態               | 講義及び演習  | 5. 開講学期 | 秋期                                   |
| 6. 履修条件・他科目との関係       | 音楽基礎Ⅰを終えていること。  |         |                                      |
| 7. 講義概要               | 保育および幼児教育に携わる者にとって必要とされる音楽の基礎的知識および演奏技術について、音楽基礎Ⅰで学んだこと、身に付けた技術を更に深化させていきます。特に、ピアノ演奏と弾き歌いの技術は、常に継続して練習を行うことが重要です。少しでも高い技術を身に付けるとともに、演奏可能なレパートリーを増やしていきます。演奏技術の面では教育実習や採用試験に対応できるレベルまで上達することを最終目標とします。   |         |                                      |
| 8. 学習目標               | 1.音楽の基礎理論(楽典)を理解し、楽譜の読み書きが自由にできるようにする。<br>2.ピアノ演奏および弾き歌いの基礎的技術を習得する。<br>3.歌唱法の基礎的技術を習得する。   |         |                                      |
| 9. アサイメント(宿題)及びレポート課題 | 1. 毎回楽典の練習問題とピアノの練習課題等を出します。<br>2. ピアノ演奏および弾き歌いの発表を実施します。   |         |                                      |
| 10. 教科書・参考書・教材        | <b>【教科書】</b><br>・音楽基礎Ⅰで使用した教科書を継続して使用する。<br><br><b>【参考書】</b><br>・中・四国地区学会編著『歌う、弾く、表現する保育者になろう』保育士・幼稚園教諭養成テキスト 全国大学音楽教育学会、音楽之友社。<br>・小林美実監修『こどものうた200』チャイルド本社。<br>・小林美実監修『続こどものうた200』チャイルド本社。<br><b>【教材】</b> ※各自で必ず購入しておくこと。<br>・ヘッドフォン<br>・6.3mmジャック(先端が3.5mmジャックの場合、ステレオ変換ジャックが必要) |         |                                      |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法     | <b>●成績評価の基準</b><br>1.音楽の基礎理論(楽典)を理解し、楽譜の読み書きが自由にできるようにする。<br>2.ピアノ演奏および弾き歌いの基礎的技術を習得する。<br>3.歌唱法の基礎的技術を習得する。<br><b>●評定の方法</b><br>実技 50%、楽典 30%、授業への取り組み姿勢 20%   |         |                                      |
| 12. 受講生へのメッセージ        | ピアノ演奏や歌唱のような実技は、一夜漬けで習得できるようなものではなく毎日地道に練習を積み重ねていくことが重要です。必ず、短時間でも構わないので毎日ピアノに触れるよう心がけて下さい。将来、教育・保育実習や採用試験などでピアノ演奏や弾き歌いの技術が必ず必要になりますが、人前でその実力が発揮できなければ意味がありません。どんなに緊張しても心を平静に保って普段通りの演奏できるようにするのは、演奏技術を身に付ける以上に困難なことです。地道な練習と経験以外に、近道はないと思って下さい。                                    |         |                                      |
| 13. オフィスアワー           | 初回授業のオリエンテーションにおいて通知する。   |         |                                      |
| 14. 授業展開及び授業内容        |   |         |                                      |
| 講義日程                  | 授業内容  | 学習課題    |                                      |
| 第1回                   | ピアノ演奏レッスン：初級者：バイエル No. 66<br>弾き歌いレッスン：初級者：朝の歌<br>中・上級者：世界中のこどもたちが<br>楽典(音名：日本)  | 事前学習    | 教科書 p. 52 を読んで理解しておく。                |
|                       |   | 事後学習    | 課題曲の練習。日本の音名について理解し暗記すること。           |
| 第2回                   | ピアノ演奏発表：初級者：バイエル No. 66<br>弾き歌い発表：初級者：朝の歌<br>中・上級者：世界中のこどもたちが<br>楽典(音名：英語)  | 事前学習    | 課題曲の発表に向けて練習を重ねておく。                  |
|                       |   | 事後学習    | 英語の音名について理解し暗記すること。                  |
| 第3回                   | ピアノ演奏レッスン：初級者：バイエル No. 73<br>弾き歌いレッスン：初級者：やまのおんがくか<br>中・上級者：ふしぎなポケット<br>楽典(音名：幹音と派生音)   | 事前学習    | 課題曲の練習をしておく。                         |
|                       |   | 事後学習    | 音名について復習するとともに派生音の音名について暗記すること。      |
| 第4回                   | ピアノ演奏発表：初級者：バイエル No. 73<br>弾き歌い発表：初級者：やまのおんがくか<br>中・上級者：ふしぎなポケット<br>楽典(長音階)   | 事前学習    | 課題曲の発表に向けて練習を重ねておく。教科書 p. 59 を読んでおく。 |
|                       |   | 事後学習    | 長音階について復習しておくこと。                     |
| 第5回                   | ピアノ演奏レッスン：初級者：バイエル No. 78<br>弾き歌いレッスン：初級者：おはようのうた<br>中・上級者：あわてんぼうのサンタクロース<br>楽典(短音階：自然短音階)  | 事前学習    | 課題曲の練習をしておく。                         |
|                       |   | 事後学習    | 自然短音階について復習しておくこと。                   |
| 第6回                   | ピアノ演奏発表：初級者：バイエル No. 78<br>弾き歌い発表：初級者：おはようのうた<br>中・上級者：あわてんぼうのサンタクロース<br>楽典(短音階：和声および旋律短音階)   | 事前学習    | 課題曲の発表に向けて練習を重ねておく。                  |
|                       |   | 事後学習    | 和声および旋律短音階について復習しておくこと。              |

|      |  |      |  |
|------|--|------|--|
| 第7回  | ピアノ演奏レッスン：初級者：バイエル No. 88<br>弾き歌いレッスン：初級者及び中・上級者：ジングルベル<br>楽典（調性：長調） | 事前学習 | 課題曲の練習をしておく。教科書 pp. 60-62 を<br>読んでおく。        |
|      |  | 事後学習 | 調性について復習しておくこと。                              |
| 第8回  | 讃美歌およびクリスマスソングの合唱および合奏練習<br>楽典（調性：短調）                                | 事前学習 | クリスマス会の発表曲の楽譜を事前に読ん<br>でおく。                  |
|      |  | 事後学習 | 調性について復習しておくこと。                              |
| 第9回  | ピアノ演奏発表：初級者：バイエル No. 88<br>弾き歌い発表：初級者及び中・上級者：ジングルベル<br>楽典（調性：調号）     | 事前学習 | 課題曲の発表に向けて練習を重ねておく。教<br>科書 pp. 63-65 を読んでおく。 |
|      |  | 事後学習 | 調号について復習しておくこと。                              |
| 第10回 | ピアノ演奏レッスン：初級者：バイエル No. 91<br>弾き歌いレッスン：初級者及び中・上級者：お正月<br>楽典（調性の復習）    | 事前学習 | 課題曲の練習をしておく。                                 |
|      |  | 事後学習 | 調性および調号についてまとめておくこと。                         |
| 第11回 | ピアノ演奏発表：初級者：バイエル No. 91<br>弾き歌い発表：初級者及び中・上級者：お正月<br>楽典（移調と転調）        | 事前学習 | 課題曲の発表に向けて練習を重ねておく。教<br>科書 p. 67（下）を読んでおく。   |
|      |  | 事後学習 | 移調と転調について復習しておくこと。                           |
| 第12回 | ピアノ演奏レッスン：初級者：バイエル No. 104<br>弾き歌いレッスン：中・上級者：思い出のアルバム<br>楽典（近親調）     | 事前学習 | 課題曲の練習をしておくこと。教科書 p. 67<br>（上）を読んでおく。        |
|      |  | 事後学習 | 近親調について復習しておくこと。                             |
| 第13回 | ピアノ演奏発表：初級者：バイエル No. 104<br>弾き歌い発表：中・上級者：思い出のアルバム<br>楽典（これまでの総復習）    | 事前学習 | 課題曲の発表に向けて練習を重ねておく。                          |
|      |  | 事後学習 | これまで楽典で学んだ範囲を復習しておく<br>こと。                   |
| 第14回 | 弾き歌いレッスン：初級者：さよならのうた<br>中・上級者：一年生になったら                               | 事前学習 | 課題曲の練習をしておく。                                 |
|      |  | 事後学習 | 課題曲の発表に向けた練習を重ねておく。                          |
| 第15回 | 弾き歌いの発表：初級者：さよならのうた<br>中・上級者：一年生になったら                                | 事前学習 | 課題曲の発表に向けた練習を重ねておく。                          |
|      |  | 事後学習 | 将来に向けて演奏技術の向上を図ること。                          |

|                          |   |         |                           |
|--------------------------|---|---------|---------------------------|
| 1. 科目名 (単位数)             | 会計学入門 (2単位)   | 3. 科目番号 | GELA1351<br>GELA1356      |
| 2. 授業担当教員                | 喬 雪氷  |         |                           |
| 4. 授業形態                  | テキストの輪読とその解説が中心となるが、講師からの一方通行ではなく、ディスカッション (学生からの講師への質問、学生間のディスカッション等) を伴ったものにする。   | 5. 開講学期 | 秋期                        |
| 6. 履修条件・他科目との関係          | 「簿記」および「経営学」の関係が緊密です。   |         |                           |
| 7. 講義概要                  | 簿記や会計学は、数学的で技術的な側面が強く、苦手意識を持つ学生も少なくない。そこで、この講座では、会計を素材としたビジネス書や小説を題材に、数字に頼ることなく会計的思考法を学習することを試みる。会計的思考は簿記上の仕訳を前提とするものではなく、ビジネスを行うすべての人に必要な思考法であり、数字はその根拠を示すものとして用いられているに過ぎない。この講座を通じて、数字への苦手意識を持つことなく、会計的思考法を会得してもらいたい。 |         |                           |
| 8. 学習目標                  | 1. 会計に興味を持つことができる。<br>2. 会計的思考法を理解できるようになる。<br>3. 数字を根拠に経営を考えることができるようになる。  |         |                           |
| 9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題 | アサインメントを課すことはないが、短いレポートを1回ほど課す。レポート課題は講義中に提示する。   |         |                           |
| 10. 教科書・参考書・教材           | 【教科書】<br>小栗崇資編『スタートガイド会計学』中央経済社、2017年。  |         |                           |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法        | ○成績評価の規準<br>1. 会計的思考法で考えることができるか。<br>2. 会計上、問題となるのが何か、理解できているか。<br>○評定の方法<br>[授業への積極的参加度、期末試験、レポート等を総合して評価する。]<br>1 授業への積極的参加 総合点の30%<br>2 期末試験 総合点の30%<br>3 課題レポート 総合点の40%   |         |                           |
| 12. 受講生へのメッセージ           | 会計学は堅苦しく、専門性が強い科目だと考える学生が多いようです。会計の知識は社会に出てから大いに役立つ学問です。なるべくやさしい言葉を使い、受講生が日常生活の中でイメージしやすいように心がけています。時々、講義中ディスカッションを設け、議論によって理解を深めていきます。   |         |                           |
| 13. オフィスアワー              | 別途通知する  |         |                           |
| 14. 授業展開及び授業内容           |   |         |                           |
| 講義日程                     | 授業内容  | 学習課題    |                           |
| 第1回                      | オリエンテーション<br>簿記と会計について、会計の役割と会計学  | 事前学習    | 教科書の準備、(pp.1~8)を読んでくること   |
|                          |   | 事後学習    | 収入、支出、記録、報告の意味を理解する       |
| 第2回                      | 簿記・会計の歴史  | 事前学習    | 教科書 (pp.9~20) を読んでくること    |
|                          |   | 事後学習    | 複式簿記と株式会社の関係を考えてみる        |
| 第3回                      | 簿記と会計の仕組み   | 事前学習    | 教科書 (pp.21~29) を読んでくること   |
|                          |   | 事後学習    | 複式簿記と財務諸表の仕組みを理解する        |
| 第4回                      | 会計の制度   | 事前学習    | 教科書 (pp.30~38) を読んでくること   |
|                          |   | 事後学習    | 日本の会計制度の概要を理解する           |
| 第5回                      | 会計情報の活用   | 事前学習    | 教科書 (pp.39~45) を読んでくること   |
|                          |   | 事後学習    | 有価証券報告書をネットから入手してみる       |
| 第6回                      | 貸借対照表の見方① 資産  | 事前学習    | 教科書 (pp.46~56) を読んでくること   |
|                          |   | 事後学習    | 資産とは何かを理解する               |
| 第7回                      | 貸借対照表の見方② 負債・純資産  | 事前学習    | 教科書 (pp.57~64) を読んでくること   |
|                          |   | 事後学習    | 負債と純資産の本質を理解する            |
| 第8回                      | 損益計算書の見方  | 事前学習    | 教科書 (pp.65~70) を読んでくること   |
|                          |   | 事後学習    | 損益計算書の仕組みを理解する            |
| 第9回                      | キャッシュ・フロー計算書の見方   | 事前学習    | 教科書 (pp.71~75) を読んでくること   |
|                          |   | 事後学習    | キャッシュ・フロー計算書を理解する         |
| 第10回                     | 経営分析の方法   | 事前学習    | 教科書 (pp.76~83) を読んでくること   |
|                          |   | 事後学習    | 安全性、収益性の意味を理解する           |
| 第11回                     | 原価計算  | 事前学習    | 教科書 (pp.84~100) を読んでくること  |
|                          |   | 事後学習    | 原価計算の目的と種類を理解する           |
| 第12回                     | 管理会計  | 事前学習    | 教科書 (pp.101~116) を読んでくること |
|                          |   | 事後学習    | 管理会計の目的とコスト概念を理解する        |
| 第13回                     | 監査  | 事前学習    | 教科書 (pp.117~143) を読んでくること |
|                          |   | 事後学習    | 監査の必要性について考える             |
| 第14回                     | 税務会計  | 事前学習    | 教科書 (pp.144~165) を読んでくること |
|                          |   | 事後学習    | 税務会計と企業会計の違いを理解する         |
| 第15回                     | 社会福祉法人に関する会計の仕組み  | 事前学習    | 事前に配布した資料を読んでくること         |
|                          |   | 事後学習    | 一般企業と非営利組織の会計の違いを理解する     |
| 期末試験<br>記述式の試験を実施する      |   |         |                           |

|                          |  |         |                               |
|--------------------------|--|---------|-------------------------------|
| 1. 科目名 (単位数)             | カリキュラム論 (2単位)  | 3. 科目番号 | JNNT2418                      |
| 2. 授業担当教員                | 関口 はつ江   |         |                               |
| 4. 授業形態                  | 講義、演習  | 5. 開講学期 | 秋期                            |
| 6. 履修条件・他科目との関係          |  |         |                               |
| 7. 講義概要                  | 子どもの心と育ちを促すための教育とはどのようにあればよいのでしょうか。日々の教育計画の作成、実施の在り方、記録および省察や評価の方法を学び、子ども一人ひとりに即しつつ、上級学校につながるための教育の実践能力を培っていきます。   |         |                               |
| 8. 学習目標                  | 1 教育課程の基本的な理解を図る。<br>2 教育課程と指導計画との関係を理解する。<br>3 長期、短期の指導計画の立て方が分かり、作成することができるようになる。<br>4 計画と実践、反省評価の関係が分かる。<br>5 カリキュラム・マネジメントの意義と実際を理解する。<br>6 指導要録と就学期の連携について理解する。   |         |                               |
| 9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題 | 授業内容に関して、毎回ワークシートを作成します。提出日は指示します。<br>レポート課題<br>1. 短期指導計画の作成<br>2. 実践例についての考察と次の計画への活かし方についてのレポート  |         |                               |
| 10. 教科書・参考書・教材           | 【教科書】<br>資料配布<br>【参考書】<br>東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。<br>東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房。<br>幼稚園教育要領、幼稚園教育要領解 (平成 29 年 3 月告示 文部科学省)<br>幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 (平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)   |         |                               |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法        | ○成績評価の規準<br>1. 教育課程の基本が分かり、指導計画との関係を理解できるようになる。<br>2. 長期、短期の指導計画の作成の仕方が分かり、実際に行えるようになる。<br>3. 計画と実践、反省評価の関係を理解できるようになる。<br>○評定の方法<br>授業への積極的参加度、日常の受講態度、グループワークで協働する姿勢、提出物を総合して評価する。<br>1 授業への積極的参加 総合点の 25%<br>2 日常の受講態度 総合点の 25%<br>3 グループワークで協働する姿勢 総合点の 20%<br>4 提出物 総合点の 30%<br>本学の規定に定められている 3/4 以上の出席が単位の修得の条件であることに配慮する。 |         |                               |
| 12. 受講生へのメッセージ           | 保育士必修科目であり、授業中のマナー、意欲、教育者 (保育者) としての考え方などを大切にしたいと思えます。保育の計画は子どもの生活に根ざしています。自然環境、伝統行事などへの関心も深めましょう。   |         |                               |
| 13. オフィスアワー              | 授業時に伝えます   |         |                               |
| 14. 授業展開及び授業内容           |  |         |                               |
| 講義日程                     | 授業内容   | 学習課題    |                               |
| 第 1 回                    | 保育・教育におけるカリキュラムの必要性  | 事前学習    | 保育所保育指針・幼稚園教育要領における教育課程の考え方復習 |
|                          |  | 事後学習    | 子どもの生活とカリキュラムの関係の確認           |
| 第 2 回                    | 保育所保育指針・幼稚園教育における計画の考え方  | 事前学習    | 多様なカリキュラムの考え方があることについて資料で予習   |
|                          |  | 事後学習    | 教育要領、保育指針と教育課程意との関連を理解する      |
| 第 3 回                    | 小学校教育に教育課程教育方法と幼児教育・保育における教育課程。保育方法  | 事前学習    | 小学校教育と幼児期の保育との異同の理解           |
|                          |  | 事後学習    | 教育の系統性と生活性の確認                 |
| 第 4 回                    | 保育内容と保育・教育課程、保育・教育課程の編成の仕方   | 事前学習    | 「保育内容」と教科の違いについての予習           |
|                          |  | 事後学習    | 保育・教育課程の作成形式と内容の復習 (事例の考察)    |
| 第 5 回                    | 保育・教育課程から長期指導計画の作成 (年間計画と月案)   | 事前学習    | 事例から長期指導計画例の目的内容の予習           |
|                          |  | 事後学習    | 保育・教育課程と長期指導計画との違い、計画の実行性を確認  |
| 第 6 回                    | 長期指導計画から短期指導計画の作成 (週案)   | 事前学習    | 事例から短期指導計画の目的内容を確認する          |
|                          |  | 事後学習    | 長期と短期の指導計画の違いの復習。短期計画の具体性を理解  |
| 第 7 回                    | 短期指導計画の展開 (週案から日案へ)  | 事前学習    | 週案の例から週案の目的内容の予習              |
|                          |  | 事後学習    | 週案から日案作成法の復習。子どもの実態に即することを確認  |
| 第 8 回                    | 計画と実践との関係 (月の保育の例を通して)   | 事前学習    | 行事を例にして長期計画と実践の関係について予習       |
|                          |  | 事後学習    | 計画の修正の仕方を確認                   |
| 第 9 回                    | 計画と実践との関係 (1日の保育を通して)  | 事前学習    | 短期計画と実践の関係遊びの事例で予習            |
|                          |  | 事後学習    | 週案から日案作成 (課題)                 |
| 第 10 回                   | 保育の評価・反省の仕方 (子どもの経験から、保育の目標から、保育者の指導等から)   | 事前学習    | 保育の評価・反省のしかたについて教科書で予習        |
|                          |  | 事後学習    | 事例からの反省 (課題)                  |
| 第 11 回                   | 計画-実践-反省-計画のサイクル (反省の活かし方)。カリキュラムの評価、改善  | 事前学習    | 記録、反省、計画の関連を教科書で予習            |
|                          |  | 事後学習    | 事例からの復習                       |

|      |   |      |                                       |
|------|---|------|---------------------------------------|
|      | の意義理解   |      |                                       |
| 第12回 | カリキュラムの振り返りと幼児指導要録、<br>保育所児童保育要録の意義と書き方               | 事前学習 | 指導要録、児童保育要録の目的内容形式の確認                 |
|      |   | 事後学習 | 指導要領の書き方の事例評価                         |
| 第13回 | カリキュラムの基本に基づいて、事例または<br>課題による指導案作成例の発表・討論             | 事前学習 | 指導案作成                                 |
|      |   | 事後学習 | 指導案修正                                 |
| 第14回 | 教材別保育展開事例研究   | 事前学習 | 同一教材の年齢別活動例の学習                        |
|      |   | 事後学習 | 活動事例についての評価                           |
| 第15回 | まとめ（保育における計画と実践、幼小連携<br>等からのカリキュラム・マネジメントの重<br>要性の確認） | 事前学習 | 子どもの実態と保育のねらい、目標との関係についての考<br>え方をまとめる |
|      |   | 事後学習 | 保育におけるカリキュラムの意味をまとめる                  |

|                       |  |         |   |
|-----------------------|--|---------|---|
| 1. 科目名 (単位数)          | 韓国の文化と言語Ⅱ (2単位)  | 3. 科目番号 | GECM1316<br>GECM1326                      |
| 2. 授業担当教員             | 尹 文九   |         |   |
| 4. 授業形態               | 講義   | 5. 開講学期 | 秋期  |
| 6. 履修条件・他科目との関係       |  |         |   |
| 7. 講義概要               | 韓国の文化と言語Ⅰでは言語を中心に講義を行なったが、Ⅱでは言語と文化両方を学習する。言語については基本的な挨拶から日常会話をはじめ、漢数詞、固有数詞などを応用し、会話を深める。文化については一般的な理論講義と共にビデオや現地見学(コリアタウン、高麗神社)などを併行して講義を行ない、より深い韓国文化の理解を高めることも目的とする。したがって、本授業は基本的なハングル文字を理解し、韓国の文化に興味を持っている学生が授業の対象として望ましい。   |         |   |
| 8. 学習目標               | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ハングルの文字と単語を覚える</li> <li>2. 基本的な日常会話ができるように学習する</li> <li>3. 現代の韓国社会の政治・経済・社会・文化などについて理解する。</li> <li>4. 韓国の伝統文化・名節について理解する。</li> <li>5. 韓国の歴史や世界遺産などについて理解する。</li> <li>6. 韓国の文化を直接的に体験し、より深い文化を理解する。</li> </ol>  |         |   |
| 9. アサシメント(宿題)及びレポート課題 | 1. 個人レポート：韓国の文化の中、一つを選び、日本との相違点や類似点についてまとめる  |         |   |
| 10. 教科書・参考書・教材        | <b>【教科書】</b><br>李昌圭『韓国語を学ぼう(初級)』朝日出版社、2015。<br><b>【参考書】</b><br>斉藤明美『言葉と文化の日韓比較』世界思想社、2005。<br>韓国海外文化広報院『韓国のすべて』海外文化広報院、2011。<br>金真外『韓国文化を読む』朝日出版社、2011。  |         |   |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法     | ○成績評価の規準<br><ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己紹介と簡単な会話ができるのか</li> <li>2. 韓国の文化について理解し、日本と比べ類似点や相違点について理解されているのか</li> </ol> ○評定の方法<br><ol style="list-style-type: none"> <li>1. ミニテスト及び授業への参加度(発表など)：40%</li> <li>2. 課題レポート及び予習ノート：20%</li> <li>3. 総括テスト：40%</li> </ol>   |         |   |
| 12. 受講生へのメッセージ        | 本学の基本方針として学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を育成することを目的としている。受講生は上記の目的達成のため、下記の事を守ることが期待されている。<br><ol style="list-style-type: none"> <li>1) 授業中は常に緊張感と集中力を保ち、積極的な態度で授業に参加することや発音などの練習のときは大きな声を出すこと。</li> <li>2) 席は前から男女混合で座ること。</li> <li>3) 授業中に理解できなかったことをそのまま放っておかず、質問をすること。</li> <li>4) 授業中は私語、居眠り、また途中入出をしないこと(正当な理由以外は減点の対象になる)。</li> <li>5) 宿題及びレポートの提出期間を厳守すること。</li> <li>6) グループ討議にはメンバー全員が積極的に参加することと他人が発表するときはきちんと傾聴すること。</li> </ol> |         |   |
| 13. オフィスアワー           | 授業中に通知する。  |         |   |
| 14. 授業展開及び授業内容        |  |         |   |
| 講義日程                  | 授業内容   | 学習課題    |   |
| 第1回                   | シラバス説明と現代韓国社会の理解   | 事前学習    | 学習用ノートを準備し、シラバス・教科書に目を通し、講義に臨むこと          |
|                       |  | 事後学習    | 現代韓国社会について理解したことをノートにまとめる                 |
| 第2回                   | ハングル文字(母音と子音)について  | 事前学習    | テキストp.3の文字を10回ずつノートに書く                    |
|                       |  | 事後学習    | 覚えたハングル文字を確認する                            |
| 第3回                   | 挨拶の言葉と教室の言葉に関する基本文章練習  | 事前学習    | pp.34~38のハングルを10回ずつノートに書く                 |
|                       |  | 事後学習    | 授業で学習した基本文章を覚える                           |
| 第4回                   | 自己紹介に関する基本的な会話の練習  | 事前学習    | 自己章の際、必要な言葉を調べてノートに10回書いて、覚える             |
|                       |  | 事後学習    | 授業で練習した文章を覚える                             |
| 第5回                   | 韓国の伝統文化について(DVD)   | 事前学習    | 韓国の伝統文化の中でお歳暮とお盆について調べる                   |
|                       |  | 事後学習    | DVDと授業、グループ討議から韓国の伝統文化について理解したことをノートにまとめる |
| 第6回                   | 基本会話と韓国の歴史について   | 事前学習    | 韓国の歴史について理解された内容についてノートにまとめる              |
|                       |  | 事後学習    | 授業で理解したことをノートにまとめる                        |
| 第7回                   | 基本会話と韓国の大衆文化について   | 事前学習    | 韓国の大衆文化について調べてまとめる                        |
|                       |  | 事後学習    | 授業で理解したことをまとめる                            |

|      |                        |      |                                  |
|------|------------------------|------|----------------------------------|
| 第8回  | 儒教と韓国について              | 事前学習 | 韓国の儒教の特徴についてノートにまとめる             |
|      |                        | 事後学習 | 儒教が韓国社会に及ぼした影響についてノートにまとめる       |
| 第9回  | 基本会話と家族制度の日韓比較について     | 事前学習 | 韓国の家族制度の特徴についてまとめる               |
|      |                        | 事後学習 | 韓国と日本の家族制度の違いや類似点についてまとめる        |
| 第10回 | 基本会話と食文化の日韓比較について      | 事前学習 | 韓国の食文化の特徴についてノートにまとめる            |
|      |                        | 事後学習 | 授業で理解したことについてノートにまとめる            |
| 第11回 | 基本会話と韓国の教育制度(学歴社会)について | 事前学習 | 韓国の教育制度についてまとめる                  |
|      |                        | 事後学習 | 授業で理解した内容をノートにまとめる               |
| 第12回 | 基本会話と韓国の政治・経済・社会について   | 事前学習 | 韓国の社会について調べ、その内容をまとめる            |
|      |                        | 事後学習 | 授業で理解していることについてまとめる              |
| 第13回 | 基本会話と韓国の世界遺産について       | 事前学習 | 韓国の世界遺産にはどのようなものがあるかについてノートにまとめる |
|      |                        | 事後学習 | 授業で理解した内容をまとめる                   |
| 第14回 | 韓国の伝統文化の体験(ユッノリゲーム)    | 事前学習 | ユッノリのやり方(ルール)について調べてルールを理解する     |
|      |                        | 事後学習 | ゲームを通して分かったことについてまとめる            |
| 第15回 | 全体のまとめ                 | 事前学習 | 授業全体の感想をまとめる                     |
|      |                        | 事後学習 | 授業で理解した内容をまとめる                   |
| 期末試験 |                        |      |                                  |

|                          |   |         |                              |
|--------------------------|---|---------|------------------------------|
| 1. 科目名 (単位数)             | 基礎演習Ⅱ (2単位)   | 3. 科目番号 | JNCD1102                     |
| 2. 授業担当教員                | 松本 岳志、中村 裕  |         |                              |
| 4. 授業形態                  | 講義、演習   | 5. 開講学期 | 秋期                           |
| 6. 履修条件・他科目との関係          | 基礎演習Ⅰを終えていることが望ましい。   |         |                              |
| 7. 講義概要                  | この授業では、これからの社会を担う人材、特に子どもに関わる専門家に求められる基本的な態度や知識について学習する。いわゆる、一般教養的な知識からより個別的な内容を含めて、様々な事柄について学ぶ中で、受講者が自分の将来像について練り上げていくための機会となることをねらいとしている。   |         |                              |
| 8. 学習目標                  | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「社会人」としての必要な基礎的知識や態度を習得する。</li> <li>2. 「子どもに関わる専門家」としての必要な基礎的知識・考え方を習得する。</li> <li>3. 自己を知り、自己表現力を養う。</li> <li>4. 自己の職業観をはぐくみ、自分の将来像を練り上げる。</li> </ol>  |         |                              |
| 9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題 | それぞれの教員が、提出物及びレポート課題を課す。詳細は、それぞれの教員が授業中に指示する。   |         |                              |
| 10. 教科書・参考書・教材           | <p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石川昭義・小原敏郎編著『保育者のためのキャリア形成論』建帛社 2015</li> </ul> <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士採用試験情報研究会編著『スイスイわかる保育士採用 (専門試験)』一ツ橋書店</li> <li>・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領</li> <li>・東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規</li> </ul>       |         |                              |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法        | <p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「社会人」に求められる基礎的な知識や態度を習得できたか。</li> <li>2. 「子どもに関わる専門家」に求められる基礎的な知識・技能を習得し、自分の将来像への意欲を高めることができたか。</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <p>第2回～第8回<br/>授業への積極的参加 30%、演習・実技 40%、課題レポート 30%</p> <p>第9回～第15回<br/>授業への積極的参加 30%、演習・実技 40%、課題レポート 30%</p> |         |                              |
| 12. 受講生へのメッセージ           | この授業は、「基礎演習Ⅰ」で学んだ子どもに関わる専門家としての基礎的知識をさらに深め、質の高い保育者を目指す土台を作ることを目的としています。実習や就職試験、そしてその後の長いキャリアに直結する様々な事柄を扱っていきます。将来、質の高い保育者になるためにはたくさんの知識・技能を身に付けていかなければなりません。授業で学ぶ全てのことは近い将来必ず役立つので、積極的に授業に参加し自己を高める努力をしてください。   |         |                              |
| 13. オフィスアワー              | 後日通知する。   |         |                              |
| 14. 授業展開及び授業内容           |   |         |                              |
| 講義日程                     | 授業内容  | 学習課題    |                              |
| 第1回                      | 保育者の専門性①<br>・子育て支援者の多面性   | 事前学習    | 教科書 pp. 51～55 を熟読しておくこと。     |
|                          |   | 事後学習    | 保育者の専門性について復習し、理解を深める。       |
| 第2回                      | 保育者の専門性②<br>・子育て支援者の多様な機能   | 事前学習    | 教科書 pp. 56～58 を熟読しておくこと。     |
|                          |   | 事後学習    | 保育者の専門性について復習し、理解を深める。       |
| 第3回                      | 保育者の同僚性と協働①<br>・保育者の専門性と倫理観   | 事前学習    | 教科書 pp. 59～62 を熟読しておくこと。     |
|                          |   | 事後学習    | 保育者の専門性と倫理観について復習し、理解を深める。   |
| 第4回                      | 保育者の同僚性と協働②<br>・組織としての保育の専門性  | 事前学習    | 教科書 pp. 63～66 を熟読しておくこと。     |
|                          |   | 事後学習    | 組織としての保育者の専門性について復習し、理解を深める。 |
| 第5回                      | 保育における評価  | 事前学習    | 教科書 pp. 67～74 を熟読しておくこと。     |
|                          |   | 事後学習    | 保育における評価について復習し、理解を深める。      |
| 第6回                      | 保育者と保幼小の連携①<br>・保幼小連携<br>・特別な支援を要する子どもについての専門機関の連携  | 事前学習    | 教科書 pp. 75～79 を熟読しておくこと。     |
|                          |   | 事後学習    | 保幼小の連携について復習し、理解を深める。        |
| 第7回                      | 保育者と保幼小の連携②<br>・保幼小連携における「幼稚園幼児指導要録」と「保育所児童保育要録」  | 事前学習    | 教科書 pp. 80～84 を熟読しておくこと。     |
|                          |   | 事後学習    | 保幼小の連携について復習し、理解を深める。        |
| 第8回                      | 保育実習とキャリア形成   | 事前学習    | 教科書 pp. 85～92 を熟読しておくこと。     |
|                          |   | 事後学習    | 保育実習とキャリア形成について復習し、理解を深める。   |
| 第9回                      | 海外の保育を学ぶ①<br>・海外の保育を学ぶことの意義<br>・保育の潮流と社会・文化的背景  | 事前学習    | 教科書 pp. 93～96 を熟読しておくこと。     |
|                          |   | 事後学習    | 海外の保育について復習し、理解を深める。         |



|      |  |      |  |
|------|--|------|--|
| 第10回 | 海外の保育を学ぶ②<br>・諸外国の保育の動向<br>・保育者の成長と使命  | 事前学習 | 教科書 pp.97～102 を熟読しておくこと。                   |
|      |  | 事後学習 | 海外の保育について復習し、理解を深める。                       |
| 第11回 | 保育職における職位と施設長の責務   | 事前学習 | 教科書 pp.103～110 を熟読しておくこと。                  |
|      |  | 事後学習 | 保育者における職位と施設長の責務について復習し、理解を深める。            |
| 第12回 | 保育者としてのアイデンティティ  | 事前学習 | 教科書 pp.111～118 を熟読しておくこと。                  |
|      |  | 事後学習 | 保育者としてのアイデンティティについて復習し、理解を深める。             |
| 第13回 | 保育者としてのキャリア形成①<br>・保育者になること、保育者であり続けることとは<br>・保育者に求められる今日的な役割と養成段階での学び                   | 事前学習 | 教科書 pp.119～122 を熟読しておくこと。                  |
|      |  | 事後学習 | 保育者としてのキャリアについて復習し、理解を深める。                 |
| 第14回 | 保育者としてのキャリア形成②<br>・キャリア形成のために保育者が求める環境や条件<br>・保育者のキャリア形成を支える研修システム<br>・今後の保育者のキャリア形成に向けて | 事前学習 | 教科書 pp.123～128 を熟読しておくこと。                  |
|      |  | 事後学習 | 保育者としてのキャリアについて復習し、理解を深める。                 |
| 第15回 | まとめ(これまでの学びを振り返り、自らのキャリア形成について考える)   | 事前学習 | これまでの学習を振り返り、改めて保育職へと向かっていくことの意義等について熟考する。 |
|      |  | 事後学習 | 自らのキャリア形成について熟考し、次年度以降の目標をしっかりと定める。        |

|                          |  |      |   |          |
|--------------------------|--|------|---|----------|
| 1. 科目名 (単位数)             | 教職実践演習 (小学校) (2単位)   |      | 3. 科目番号   | JEEL3410 |
| 2. 授業担当教員                | 福島 裕   |      |   |          |
| 4. 授業形態                  | 講義、演習、実習等を適宜利用する   |      | 5. 開講学期   | 秋期       |
| 6. 履修条件・他科目との関係          | 教職に関する単位を取得してから履修することが望ましい   |      |   |          |
| 7. 講義概要                  | 教職実践演習 (小学校) は、本学の教員養成に必要な「理論と実践」の融合を目指す科目として設定されている。これまでの学習を通じて身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、最終的に確認する科目である。<br>この科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようになることを期待して実施される科目である。                                    |      |   |          |
| 8. 学習目標                  | 教員として求められる資質・能力の形成に関して、以下の目標を設定し、達成することができる。<br>① 職務遂行に必要な使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項を再確認する。<br>② 社会性や対人関係能力に関する事項の発揮に関しての再確認をする。<br>③ 実習等で得られた幼児・児童・生徒理解の仕方や学級経営の在り方に関する事項の再確認をする。<br>④ 教科・領域等教育課程の実施に当たっての指導力・実践力に関する事項の再確認をする。   |      |   |          |
| 9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題 | 授業の理解度、実践力を確認するために、以下を提出する。<br>1 授業内容に沿った、実践に結びつくレポート作成・提出<br>2 事例・資料の読み取りと感想、意見の提出<br>3 児童理解、実態に基づいた指導案の作成・提出   |      |   |          |
| 10. 教科書・参考書・教材           | 【教科書】<br>文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版社<br>「教育実習日誌」「教職履修カルテ」を持参する。<br>【参考書】<br>その他の参考資料は授業の中で提示する。   |      |   |          |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法        | ○成績評価の規準<br>学習目標の実現度において評価する。<br>○評定の方法<br>日々の授業態度、参加度 30%<br>レポート課題 40%<br>日常の学習状況 30%  |      |   |          |
| 12. 受講生へのメッセージ           | 指導案作成、教材研究、児童理解を行い、その中で、実践に結びつく支援の工夫、予想する大切さを学びます。<br>1 毎時間、すべての内容が大切です。体調管理をしっかりと行い、1時間の授業の重要性を意識して臨んでください。<br>2 授業実践の記録をもとに、感動や感想・注意事項等を蓄積し、実践に活かす努力をしてください。<br>3 計画・実践・評価のサイクルを通して身につけ、受講者が協力しながら情報を共有し、必要なものは自ら準備してください。<br>4 実習での取り組みをもとに、児童理解の重要性と「はじめに児童ありき」の発想を活かした指導のあり方を大切にしてください。 |      |   |          |
| 13. オフィスアワー              | 別途通知します  |      |   |          |
| 14. 授業展開及び授業内容           |  |      |   |          |
| 講義日程                     | 授業内容   | 学習課題 |   |          |
| 第1回                      | オリエンテーション 望ましい教師像を考える  | 事前学習 | 望ましい教師とはどのような要件を備えているか、これまでの経験を踏まえて考えておく        |          |
|                          |  | 事後学習 | 望ましい教師像について、身につけるべき要件を整理し自身の課題を含めてまとめておく        |          |
| 第2回                      | 学級開き、学級づくりの手立て   | 事前学習 | 「学級開き」や「学級づくり」の意味や役割について調べておく                   |          |
|                          |  | 事後学習 | 学級開き、学級づくりの意味と役割についてまとめ、今後の教育実践で生かせるように整理する     |          |
| 第3回                      | わかる授業を成立させる条件 実習のふり返り  | 事前学習 | 教育実習で学んだ「よい授業の条件」を整理し、発表できるよう準備する               |          |
|                          |  | 事後学習 | よい授業を展開するための条件について、教材研究、指導計画、発問、板書計画等の視点からまとめる。 |          |
| 第4回                      | 学級経営について (教師と児童)   | 事前学習 | 学級経営の意味と学級経営における教師の役割について考える。                   |          |
|                          |  | 事後学習 | 学級経営における「場」と「教師の具体的な役割」を整理してまとめる。               |          |
| 第5回                      | 学級経営について (児童理解)  | 事前学習 | 学級経営における児童理解の手立てや具体的な学級経営の場について考える。             |          |
|                          |  | 事後学習 | 学級経営の視点から捉えた具体的な場を想定し、児童理解の方法を身につける。            |          |
| 第6回                      | 授業づくりとルール  | 事前学習 | 望ましい授業の展開を図るために、学習指導を充実させるルールのあり方を考える。          |          |
|                          |  | 事後学習 | 学習指導を円滑に行い、授業の充実を図るためのルールについてまとめる。              |          |

|      |  |      |  |
|------|--|------|--|
| 第7回  | 学級のきまりやルール                                 | 事前学習 | 授業以外の教育活動を円滑に進めるためのルールについて考える。                   |
|      |  | 事後学習 | 教育活動を円滑に行い充実させるための具体的な活動やルールについてまとめる。            |
| 第8回  | 小学校教育における教師の役割                             | 事前学習 | 実習ノートを参考にして、教師の一週間の仕事の計画を立てる。                    |
|      |  | 事後学習 | 日誌の形式で、教師の一日の予定や一週間の計画を完成させる。                    |
| 第9回  | 模擬授業の検討① 配慮する児童への対応                        | 事前学習 | これまでの経験や学んできたことをもとに、配慮する児童の実態とその対応を想定する。         |
|      |  | 事後学習 | 指導上の配慮事項の中に、配慮する児童への対応を明記する。                     |
| 第10回 | 模擬授業の検討② 評価の視点と具体的な手立て                     | 事前学習 | 評価の観点と評価の場面や手立てを明確にしておく。                         |
|      |  | 事後学習 | 目標に照らし評価の視点を明確にして、具体的な評価の手立てを文章化し指導案に明記する。       |
| 第11回 | 模擬授業の検討③ 適切な発問                             | 事前学習 | 学習活動を促す発問のシナリオ案を作成する。                            |
|      |  | 事後学習 | 基本発問と補助発問を明確にしたシナリオを完成させ、模擬授業の準備をしておく。           |
| 第12回 | 模擬授業の実践①<br>検討した①②③の視点を取り入れた指導案をもとに模擬授業を行う | 事前学習 | 教育実習で行った指導案をもとに、検討課題の視点を取り入れた指導案を作成し、模擬授業の準備をする。 |
|      |  | 事後学習 | 自己評価、相互評価をもとに模擬授業の成果と課題をまとめる。                    |
| 第13回 | 模擬授業の実践②<br>検討した①②③の視点を取り入れた指導案をもとに模擬授業を行う | 事前学習 | 教育実習で行った指導案をもとに、検討課題の視点を取り入れた指導案を作成し、模擬授業の準備をする。 |
|      |  | 事後学習 | 自己評価、相互評価をもとに模擬授業の成果と課題をまとめる。                    |
| 第14回 | 模擬授業の実践③<br>検討した①②③の視点を取り入れた指導案をもとに模擬授業を行う | 事前学習 | 教育実習で行った指導案をもとに、検討課題の視点を取り入れた指導案を作成し、模擬授業の準備をする。 |
|      |  | 事後学習 | 自己評価、相互評価をもとに模擬授業の成果と課題をまとめる。                    |
| 第15回 | 教師に求められる資質（社会性・人間関係等）                      | 事前学習 | 教師に求められる資質とは何かを調べる。                              |
|      |  | 事後学習 | 教師に求められる資質について整理し、自分の今後の課題をまとめる。                 |

|                          |  |         |  |
|--------------------------|--|---------|--|
| 1. 科目名 (単位数)             | 健康科学 (2 単位)  | 3. 科目番号 | JNGL1104                                   |
| 2. 授業担当教員                | 澤田 晋一  |         |  |
| 4. 授業形態                  | 講義、ディスカッション、ならびに意見発表。身体活動について簡単な実験を行う。   | 5. 開講学期 | 秋期   |
| 6. 履修条件・他科目との関係          |  |         |  |
| 7. 講義概要                  | WHO は健康について、身体的、心理的、社会的に健全であると定義している。この定義を踏まえて、成人病と健康、身体の構造やその機能、運動の生理や心理等についての基礎的な知識を、現代社会との関わりから考え、健康で豊かな生活を送る方法を理解する。さらに、人の健康を阻害する病原体やストレス刺激など各種外部要因を理解し、健康の維持・増進に向けた意識の向上を目標とする。   |         |  |
| 8. 学習目標                  | 以下の項目について学び、説明できるようになることを学習目標とします。<br>1. 人体の構造と生理機能について学ぶ。<br>2. 生活習慣 (食事、運動、睡眠) の重要性について学ぶ。<br>3. ストレス刺激とストレス病について学ぶ。<br>4. 免疫と感染症について学ぶ。<br>5. 嗜好品・サプリメントの功罪について学ぶ。<br>6. 生体機能を健康的に維持する方策について、正しい知識を持てるようにする。  |         |  |
| 9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題 | 1. 授業内容の復習のために、適宜提出物を求める。<br>2. レポート課題: 「生活習慣と健康」について、1,000~1,200字 (A4版、横書き) でまとめる。  |         |  |
| 10. 教科書・参考書・教材           | 【教科書】竹内康浩他 (監) 『テキスト健康科学 (改訂第2版)』南江堂。<br>【参考書】森本兼囊 (監修) 『現代医学と社会—<医学概論>講義』朝倉書店。<br>鈴木庄亮 (監) 『シンプル衛生公衆衛生学 2017』南江堂。<br>森下玲児 (著) 『これからの健康科学』(改訂3版) 金芳堂。<br>東京福祉大学 (編) 『保育児童福祉要説』中央法規。  |         |  |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法        | ○成績評価の規準<br>1. 健康の概念について、身体的、心理的、社会的側面から理解しているか。<br>2. 健康増進の方策、健康悪化の原因について理解しているか。<br>○評定の方法<br>1. 授業への積極的参加 (授業態度、発言) 40%<br>2. 課題レポート・発表 30%<br>3. 期末試験 30%  |         |  |
| 12. 受講生へのメッセージ           | 1. 一方的な講義でなく、随所で発言を求め、ディスカッションをたくさん行います。<br>2. レポートは、簡潔かつ要点を掘り下げたものを求めます。<br>3. 解りやすい口頭発表の仕方を覚えてください。<br>4. 疑問点は後に残さず、講義時間内および直後に質問してください (研究室への来訪は大歓迎)。<br>5. 予習・復習を十分行ってください。<br>6. 関連図書をたくさん読んでください。<br>7. マスメディアの医療・健康関連情報を随時紹介しますが、皆さんも関心を持ってチェックしてください。<br>8. 授業時間の開始は厳守します。<br>9. 授業中の私語、携帯電話の使用を禁止します。 |         |  |
| 13. オフィスアワー              | 別途連絡する   |         |  |
| 14. 授業展開及び授業内容           |  |         |  |
| 講義日程                     | 授業内容   | 学習課題    |  |
| 第1回                      | イントロダクション 現代における健康・病気の見方・考え方、身体の構造と機能  | 事前学習    | 「健康科学」用の学習ノートを準備し、授業に臨む意識を高める。             |
|                          |  | 事後学習    | 配布資料をよく読んで「現代の健康と病気とはどういうものなのか」ということをまとめる。 |
| 第2回                      | 栄養と健康  | 事前学習    | 教科書の該当箇所をよく読んで、自分の日ごろの食生活について考えておく。        |
|                          |  | 事後学習    | 健康維持・向上に求められる食事 (栄養摂取、食事時間) についてまとめる。      |
| 第3回                      | 運動と健康  | 事前学習    | 教科書の該当箇所をよく読んで、運動の必要性、自分の運動量について把握しておく。    |
|                          |  | 事後学習    | 運動の身体面・精神面に及ぼす効果についてまとめる。                  |
| 第4回                      | 生活習慣と健康 (食事、身体活動、喫煙、飲酒、睡眠、休養、歯磨き行動)  | 事前学習    | 教科書の該当箇所をよく読んで、睡眠・覚醒、生活リズムについて把握しておく。      |
|                          |  | 事後学習    | 生活習慣の健康に対する影響をまとめる。                        |
| 第5回                      | 課題発表 (2 分間スピーチ)・ディスカッション   | 事前学習    | 健康をめぐる 2 分間スピーチの原稿を準備する。                   |
|                          |  | 事後学習    | スピーチした内容を文章化し、期限までに提出する。                   |

|      |                   |      |  |
|------|-------------------|------|--|
| 第6回  | 適応と環境             | 事前学習 | 教科書の該当箇所をよく読んで、適応の原理、メカニズム、適応不全について理解しておく。             |
|      |                   | 事後学習 | さまざまな適応とその限界について考察する。                                  |
| 第7回  | 免疫と生体防御機構         | 事前学習 | 教科書の該当箇所をよく読んで、病気、特に感染症に罹りやすい状況を考える。                   |
|      |                   | 事後学習 | 病原体や異物に対する防御機能の機序についてまとめる。                             |
| 第8回  | 生物学的環境（感染症）と健康    | 事前学習 | 教科書の該当箇所をよく読んで、病原体（細菌、ウイルス）について理解しておく。                 |
|      |                   | 事後学習 | 感染症発症の3要素（感染源、感染ルート、個人の感受性）をもとに、感染症予防策を考察する。           |
| 第9回  | 物理的環境と健康          | 事前学習 | 教科書の該当箇所をよく読んで、身の回りに存在する有害な物理的環境因子にはどのようなものがあるか、考える。   |
|      |                   | 事後学習 | 健康影響とその予防対策を考察する。                                      |
| 第10回 | 化学的環境と健康          | 事前学習 | 教科書の該当箇所をよく読んで、身の回りに存在する有害な化学的環境因子にはどのようなものがあるか、考える。   |
|      |                   | 事後学習 | 健康影響を理解して、予防対策をまとめる。                                   |
| 第11回 | ストレス刺激とストレス病、心と健康 | 事前学習 | 教科書の該当箇所をよく読んで、ストレスとはどういうことか把握しておく。                    |
|      |                   | 事後学習 | 当日配布資料をよく読んで、ストレス刺激の身体的・精神的影響をまとめる。                    |
| 第12回 | 心理的・社会的環境と健康（学校）  | 事前学習 | 教科書の該当箇所をよく読んで、身の回りに存在する有害な心理社会的環境因子にはどのようなものがあるか、考える。 |
|      |                   | 事後学習 | 健康影響を理解して、予防対策をまとめる。                                   |
| 第13回 | 心理的・社会的環境と健康（職場）  | 事前学習 | 教科書の該当箇所をよく読んで、身の回りに存在する有害な心理社会的環境因子にはどのようなものがあるか、考える。 |
|      |                   | 事後学習 | 健康影響を理解して、予防対策をまとめる。                                   |
| 第14回 | 嗜好品・サプリメントとその功罪   | 事前学習 | 教科書の該当箇所をよく読んで、嗜好品としての酒、茶、タバコやサプリメントについて、有効成分を把握しておく。  |
|      |                   | 事後学習 | 飲酒、喫茶、喫煙の功罪やサプリメントの効能の真偽についてまとめる。                      |
| 第15回 | 課題発表・ディスカッションと総括  | 事前学習 | 事前に提示された健康をめぐる課題について調べておく。                             |
|      |                   | 事後学習 | 提示課題について発表し、ディスカッションする。                                |
| 期末試験 |                   |      |  |

|                       |  |         |                             |
|-----------------------|--|---------|-----------------------------|
| 1. 科目名 (単位数)          | 子育て支援／保育相談支援演習 (2単位)   | 3. 科目番号 | JNCC2504                    |
| 2. 授業担当教員             | 山本 健志郎   |         |                             |
| 4. 授業形態               | 演習、グループ討議、ロールプレイング   | 5. 開講学期 | 秋期                          |
| 6. 履修条件・他科目との関係       |  |         |                             |
| 7. 講義概要               | 保育士の行う子育て支援の特性として、子どもの保育とともに行う保護者の支援、保護者との相互関係や信頼関係の形成、支援のニーズについての気づきと多面的理解、子どもと保護者が多様な他者とのかかわる機会や場を提供することなどを理解する。支援の展開として、子どもと保護者の状況・状態の把握、支援の計画と環境の構成、支援の実践・記録・評価・カンファレンス、職員間、関係機関との連携・協働を学ぶ。多様な支援ニーズを抱える子どもと家族への支援の実際(内容・方法・技術)を学ぶ。 |         |                             |
| 8. 学習目標               | 1. 保育士による子育て支援が求められる社会的状況について理解する。<br>2. 子育て支援の意義と原則について理解する。<br>3. 保護者支援の基本を理解する。<br>4. 子育て支援の実際について学び、内容や方法を理解する。<br>5. 保育所等の児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。   |         |                             |
| 9. アサシメント(宿題)及びレポート課題 | 小課題として小テストを課す。<br>現在の子育て支援の課題と支援方法についてのレポートを課す。  |         |                             |
| 10. 教科書・参考書・教材        | 教科書】大嶋恭二他著『保育相談支援』建帛社、2011年<br>【参考書】東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規<br>岡野雅子他著『新保育学 改訂5版』南山堂、2011年  |         |                             |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法     | ○成績評価の規準<br>1. 保護者支援の基本を理解し、説明できるか。<br>2. 子育て支援の実際について、内容や方法を理解し、説明できるか。<br>○評定の方法<br>授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。<br>1 授業への積極的参加 総合点の20%<br>2 期末試験(または期末レポート) 総合点の30%<br>3 課題レポート 総合点の30%<br>4 日常の学習状況 総合点の20%                  |         |                             |
| 12. 受講生へのメッセージ        | 現在の日本は少子化が進んでいる。その要因は様々あるが、その一つに子育てに対する不安や子育てし難い現状がある。保育者はその子育て支援を行っていく要となることが求められている。子育て支援の重要性を理解し、保育者となったときに生かせる知識と技術も学び、さらに自分自身が親になったときにも活用できるよう意識して受講してください。   |         |                             |
| 13. オフィスアワー           | 別途通知する。  |         |                             |
| 14. 授業展開及び授業内容        |  |         |                             |
| 講義日程                  | 授業内容   | 学習課題    |                             |
| 第1回                   | オリエンテーション、子育て支援とは  | 事前学習    | 子育て支援に関する新聞やニュースについて集めておく。  |
|                       |  | 事後学習    | 授業内容を振り返り、要点をまとめる。          |
| 第2回                   | 子育て支援の意義   | 事前学習    | いまなぜ子育て支援が必要かについて考えておく。     |
|                       |  | 事後学習    | 授業内容を振り返り、要点をまとめる。          |
| 第3回                   | 子育て支援の基本①<br>子どもの最善の利益   | 事前学習    | 子どもの人権と権利についてまとめておく。        |
|                       |  | 事後学習    | 子どもの最善の利益とはどういったものかまとめておく。  |
| 第4回                   | 子育て支援の基本②<br>保護者の気持ちに寄り添う  | 事前学習    | 保護者との信頼関係を築くことについて考えておく。    |
|                       |  | 事後学習    | 授業内容を振り返り、要点をまとめる。          |
| 第5回                   | 子育て支援の基本③<br>信頼関係の形成   | 事前学習    | 信頼関係形成のための姿勢と技術について考えておく。   |
|                       |  | 事後学習    | 授業内容を振り返り、要点をまとめる。          |
| 第6回                   | 子育て支援の基本④<br>関係機関との連携・協力   | 事前学習    | 関係機関にはどのようなものがあるかについて調べておく。 |
|                       |  | 事後学習    | 6回の振り返り小テストを見直す。            |
| 第7回                   | 子育て支援の実際①<br>保育現場の保護者に対する支援  | 事前学習    | 保育所の子育て支援について新聞等で事例を集めておく。  |
|                       |  | 事後学習    | 授業内容を振り返り、要点をまとめる。          |
| 第8回                   | 子育て支援の実際②<br>保護者支援の内容  | 事前学習    | 保護者支援のポイントや難しさについて調べておく。    |
|                       |  | 事後学習    | 授業内容を振り返り、要点をまとめる。          |
| 第9回                   | 子育て支援の実際③<br>保護者支援の方法と技術   | 事前学習    | 保護者支援の具体的な方法について調べておく。      |

|      |   |      |                                   |
|------|---|------|-----------------------------------|
|      |   | 事後学習 | 授業内容を振り返り、要点をまとめる。                |
| 第10回 | 子育て支援の実際④<br>保護者支援の計画、記録、評価、ケースカンファレンス        | 事前学習 | 保護者支援にあたり、計画や記録の重要性について考えておく。     |
|      |   | 事後学習 | 4回の振り返り小テストを見直す。                  |
| 第11回 | 児童福祉施設における子育て支援①<br>保育所における保育相談支援の実際          | 事前学習 | 保育実習での経験も参考に保育所における子育て支援の例を調べておく。 |
|      |   | 事後学習 | 授業内容を振り返り、要点をまとめる。                |
| 第12回 | 児童福祉施設における子育て支援②<br>保育所における特別な対応を要する家庭への支援    | 事前学習 | 特別な支援を要する家庭について調べておく。             |
|      |   | 事後学習 | 授業内容を振り返り、要点をまとめる。                |
| 第13回 | 児童福祉施設における子育て支援③<br>児童養護施設等における要保護児童の家庭に対する支援 | 事前学習 | 施設における子育て支援の目標について考えておく。          |
|      |   | 事後学習 | 授業内容を振り返り、要点をまとめる。                |
| 第14回 | 児童福祉施設における子育て支援④<br>障害児施設・母子生活支援施設における支援      | 事前学習 | 障害児施設や母子生活支援施設の支援の目標について考えておく。    |
|      |   | 事後学習 | 4回の振り返り小テストを見直す。                  |
| 第15回 | 保育者に求められる子育て支援                                | 事前学習 | 全体について確認事項・質問事項を拾い出しておく。          |
|      |   | 事後学習 | 授業内容を振り返り、要点をまとめる。                |

|                         |  |         |  |
|-------------------------|--|---------|--|
| 1. 科目名 (単位数)            | 子育て支援論 (2単位)   | 3. 科目番号 | JECC3504<br>JNCC2504                             |
| 2. 授業担当教員               | 山本 健志郎   |         |  |
| 4. 授業形態                 | 演習 (ディスカッション、グループワーク)、実習 (フィールドワーク)  | 5. 開講学期 | 秋期   |
| 6. 履修条件・他科目との関係         |  |         |  |
| 7. 講義概要                 | <p>現在の日本社会は子育てと社会の関係をめぐって大きな変化を経験しつつあり、それを象徴するのが「子育て支援」という言葉である。つまり、子育てを家族だけが担うのではなく、社会全体でサポートしていかうとする動きが顕著になってきている。この授業では、まず、①子育て支援について論じた文献の購読を通じて、基本的な知識やスタンスの獲得を目指す。そのうえで、②子育て支援を受ける立場にある子育て中の親、あるいは、子育て支援に携わっている実践家を対象としたフィールドワークを行い、いま求められている子育て支援のありかたについての理解を深めていく。したがって、①は演習形式 (ゼミ形式)、②は実習形式となる。</p> <p>なお、授業の内容とスケジュールは受講者の反応や授業の展開などに応じて変更することもあるので、この点、あらかじめ了承しておいてください。</p> |         |  |
| 8. 学習目標                 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子育て支援の理念について理解し、説明できる。</li> <li>2. 子育て支援の実際と課題を把握し、説明できる。</li> <li>3. 保育者が子育て支援において果たすことを求められる役割を理解し、説明できる。</li> <li>4. 今後の日本社会における子育て支援のあり方について問題意識を持ち、考えることができる。</li> </ol>  |         |  |
| 9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題 | 約3回の文献報告と実際に子育てひろばで観察とインタビュー調査を行った成果の報告を課す。なお、後者についてはレポートのかたちでも提出してもらう。  |         |  |
| 10. 教科書・参考書・教材          | <p>【教科書】<br/>子育て支援者コンピテンシー研究会編『育つ・つながる子育て支援 ―具体的な態度を身につける 32 のリスト』チャイルド本社、2009。</p> <p>【参考書】<br/>大日向雅美『「子育て支援が親をダメにする」なんて言わせない』岩波書店、2005。<br/>子育て支援プロジェクト研究会編『子育て支援の理論と実践』ミネルヴァ書房、2013。</p>  |         |  |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法       | <p>○ 成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子育て支援の理念、子育て支援の実際と課題を理解し、説明できるようになったか。</li> <li>2. 保育者が子育て支援において果たすことを求められる役割を理解し、説明できるようになったか。</li> <li>3. 今後の日本社会における子育て支援のあり方について問題意識を持ち、考えることができるようになったか。</li> </ol> <p>○ 評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業への参加姿勢等 50%</li> <li>2. レポート 50%</li> </ol>   |         |  |
| 12. 受講生へのメッセージ          | 受講者による発表を中心とした演習形式の授業では、発表者はもちろんのこと、発表を聴く側の姿勢がきわめて重要になる。具体的には、文献報告であれば、あらかじめ文献に目を通しておくこと、発表に対して積極的に質問をして議論の展開を促進することがそれぞれの受講者に求められる。これらが充分に実行されているかは成績評価の対象にもなる。   |         |  |
| 13. オフィスアワー             | 別途通知する。  |         |  |
| 14. 授業展開及び授業内容          |  |         |  |
| 講義日程                    | 授業内容   | 学習課題    |  |
| 第1回                     | ガイダンス：授業の概要と進め方  | 事前学習    | シラバスの確認。   |
|                         |  | 事後学習    | 配布資料を用いて授業の概要について確認する                            |
| 第2回                     | 講義：子育て支援サービスの理念と現実 1 (子育て支援とは何か)   | 事前学習    | 子育て支援の意味を調べる                                     |
|                         |  | 事後学習    | 配布資料を用いて子育て支援の意味についての学習内容を振り返る                   |
| 第3回                     | 講義：子育て支援サービスの理念と現実 2 (子育て支援の現状と問題点)  | 事前学習    | 子育て支援の課題を調べる                                     |
|                         |  | 事後学習    | 配布資料を用いて子育て支援の課題についての学習内容を振り返る                   |
| 第4回                     | 受講者による調べたことの発表：『育つ・つながる子育て支援』1-環境設定の方法   | 事前学習    | 教科書序章と第1章 (pp.8-34) を読んで子育て支援のスキルについて内容を確認しておく   |
|                         |  | 事後学習    | 配布資料を用いて子育て支援のスキルについての学習内容を振り返る                  |
| 第5回                     | 受講者による調べたことの発表：『育つ・つながる子育て支援』2-関係のつくり方   | 事前学習    | 教科書第2章と第3章 (pp.36-64) を読んで子育て支援のスキルについて内容を確認しておく |
|                         |  | 事後学習    | 配布資料を用いて子育て支援のスキルについての学習内容を振り返る                  |
| 第6回                     | 受講者による調べたことの発表：『育つ・つながる子育て支援』3-支援の方法   | 事前学習    | 教科書第4章と第5章 (pp.66-92) を読んで子育て支援のスキルについて内容を確認しておく |
|                         |  | 事後学習    | 配布資料を用いて子育て支援のスキルについての学習内容を振り返る                  |
| 第7回                     | 講義：子育て家庭の課題  | 事前学習    | 子育て家庭の課題について調べる。                                 |
|                         |  | 事後学習    | ワンオペ育児、育児ストレスについて学習内容を振り返る                       |



|      |   |      |  |
|------|---|------|--|
|      |   |      | 返る。                                    |
| 第8回  | 受講者による調べたことの発表：<br>『「子育て支援が親をダメにする」なんて言わせ<br>ない』1-子育て支援は誰のため？   | 事前学習 | 事前に配布した文献を読んで子育て支援の課題について<br>内容を確認しておく |
|      |   | 事後学習 | 配布資料を用いて子育て支援の課題についての学習内容<br>を振り返る     |
| 第9回  | 受講者による調べたことの発表：<br>『「子育て支援が親をダメにする」なんて言わせ<br>ない』2-子育て・家族支援の現場から | 事前学習 | 事前に配布した資料を読んで子育て支援の課題について<br>内容を確認しておく |
|      |   | 事後学習 | 配布資料を用いて子育て支援の課題についての学習内容<br>を振り返る     |
| 第10回 | 受講者による調べたことの発表：<br>『「子育て支援が親をダメにする」なんて言わせ<br>ない』3-子育て支援のこれから    | 事前学習 | 事前に配布した使用を読んで子育て支援の課題について<br>内容を確認しておく |
|      |   | 事後学習 | 配布資料を用いて子育て支援の課題についての学習内容<br>を振り返る     |
| 第11回 | 受講者による調べたことの発表：<br>『子育て支援の理論と実践』1-子育て支援の理論                      | 事前学習 | 事前に配布した資料を読んで子育て支援の実践について<br>内容を確認しておく |
|      |   | 事後学習 | 配布資料を用いて子育て支援の実践についての学習内容<br>を振り返る     |
| 第12回 | 受講者による調べたことの発表：<br>『子育て支援の理論と実践』2-子育て支援の実<br>践                  | 事前学習 | 事前に配布した資料を読んで子育て支援に実践について<br>内容を確認しておく |
|      |   | 事後学習 | 配布資料を用いて子育て支援の実践についての学習内容<br>を振り返る     |
| 第13回 | 子育てに不安のある親のロールプレイ 1   | 事前学習 | 子育てに不安のある親を想定してくる。                     |
|      |   | 事後学習 | どのような対応が良かったか振り返る。                     |
| 第14回 | 子育てに不安のある親のロールプレイ 2   | 事前学習 | 子育てに不安のある親を想定してくる。                     |
|      |   | 事後学習 | どのような対応が良かったか振り返る。                     |
| 第15回 | 授業のまとめ  | 事前学習 | これまでの配布資料を読み直して学習内容を振り返る               |
|      |   | 事後学習 | 授業全体の振り返り                              |

|                         |   |         |                  |
|-------------------------|---|---------|------------------|
| 1. 科目名 (単位数)            | 子ども家庭支援の心理学 (2 単位)  | 3. 科目番号 | SJMP3126         |
| 2. 授業担当教員               | 瑞穂 優  |         |                  |
| 4. 授業形態                 | 講義, ディスカッション  | 5. 開講学期 | 秋期               |
| 6. 履修条件・他科目との関係         |   |         |                  |
| 7. 講義概要                 | 子ども家庭支援の心理学では、まず、乳幼児期から老年期までの人の生涯発達のプロセスや、各時期の課題について学ぶ。さらに、家族・家庭の意義や機能を学び、親子関係や家族関係等について、子どもとその家族を、発達的な視点や、包括的に捉える視点を習得する。また、現代の子育て家庭に関する社会的状況や、家庭の多様性、特別な配慮を必要とする家庭などについて学び、子どもがうける生育環境からの影響、子どもの心や健康に関わる問題について学ぶ。   |         |                  |
| 8. 学習目標                 | ① 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の移行、発達課題に等について理解する。<br>② 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的に理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。<br>③ 子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を理解する。<br>④ 子どもの精神保健とその課題について理解する   |         |                  |
| 9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題 | 1. ワークシート (授業で配布します) を仕上げ提出する。<br>2. テスト  |         |                  |
| 10. 教科書・参考書・教材          | 【教科書】 新基本保育シリーズ 子ども家庭支援の心理学 白川 佳子 福丸 由佳 中央法規 2019<br>【参考書】 平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領   |         |                  |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法       | ○成績評価の規準<br>1. 生涯発達に関する基礎的な知識を有し、初期経験の重要性について理解できているか<br>2. 家族・家庭の意義や機能を理解し、家族がどのように発達していくか理解できているか。<br>3. 子育て家庭を取り巻く社会状況について十分な知識を有しているか<br>4. 子どもの精神保健に関する基本的な知識を有しているか<br>○評定の方法<br>1. 授業への積極的参加態度 総合点の 30%<br>2. 課題発表もしくはレポート 総合点の 30%<br>3. 小テスト 総合点の 40%                                  |         |                  |
| 12. 受講生へのメッセージ          | 児童福祉法には、保育士とは、「専門的知識及び技術をもって、児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことを業とする者をいう」とあるように、保育者は子どもを保育するだけでなく、保護者の子育て支援をすることが求められています。この授業を通して、人の生涯発達や家族の機能について学び、保育者として子どもにも保護者にも寄り添えるようになってほしいと思います。<br>そのために、1. 授業にきちんと出席する、2. 私語は慎む、3. スマートフォンや携帯電話は鞆の中にする、の3つは守ってください。また、授業に必要なものの準備が不十分ということがないようにしてください。 |         |                  |
| 13. オフィスアワー             | 別途連絡する  |         |                  |
| 14. 授業展開及び授業内容          |   |         |                  |
| 講義日程                    | 授業内容  | 学習課題    |                  |
| 第1回                     | 乳児期の発達  | 事前学習    | シラバスと第1講を読んでくる。  |
|                         |   | 事後学習    | 乳児期の発達をまとめる。     |
| 第2回                     | 幼児期の発達  | 事前学習    | 第2講を読んでくる。       |
|                         |   | 事後学習    | 幼児期の発達をまとめる      |
| 第3回                     | 学童期・青年期の発達  | 事前学習    | 第3・4講を読んでくる。     |
|                         |   | 事後学習    | 学童期・青年期の発達をまとめる。 |
| 第4回                     | 成人期～高齢期の発達  | 事前学習    | 第5・6講を読んでくる      |
|                         |   | 事後学習    | 成人期～高齢期の発達をまとめる  |
| 第5回                     | 家族・家庭の意義と機能   | 事前学習    | 第7講を読んでくる。       |
|                         |   | 事後学習    | ワークシートをまとめる。     |
| 第6回                     | 家族関係・親子関係の理解  | 事前学習    | 第8講を読んでくる。       |
|                         |   | 事後学習    | ワークシートをまとめる。     |
| 第7回                     | 子育ての経験と親としての育ち  | 事前学習    | 第9講を読んでくる。       |
|                         |   | 事後学習    | ワークシートをまとめる。     |
| 第8回                     | 子育てを取り巻く社会的状況   | 事前学習    | 第10講を読んでくる。      |
|                         |   | 事後学習    | ワークシートをまとめる。     |
| 第9回                     | ライフコースと仕事・子育て   | 事前学習    | 第11講を読んでくる。      |
|                         |   | 事後学習    | ワークシートをまとめる。     |

|      |                         |      |                      |
|------|-------------------------|------|----------------------|
| 第10回 | 多様な家庭とその理解              | 事前学習 | 第12講を読んでくる。          |
|      |                         | 事後学習 | 事例を読み、まとめる。          |
| 第11回 | 特別な配慮を要する家庭             | 事前学習 | 第13講を読んでくる。          |
|      |                         | 事後学習 | ワークシートをまとめる。         |
| 第12回 | 子どもの生活・生育環境とその影響        | 事前学習 | 第14講を読んでくる。          |
|      |                         | 事後学習 | ワークシートをまとめる。         |
| 第13回 | 子どもの生活・生育環境とその影響・・・事例研究 | 事前学習 | 事例を読んでくる。            |
|      |                         | 事後学習 | 事例研究をまとめる。           |
| 第14回 | 子どものこころの健康にかかわる問題       | 事前学習 | 第15講を読んでくる。          |
|      |                         | 事後学習 | ワークシートをまとめる。         |
| 第15回 | まとめ                     | 事前学習 | これまでのワークシートを読み返してくる。 |
|      |                         | 事後学習 | 全授業を振り返る。            |
| 期末試験 |                         |      |                      |

|                         |   |         |                                       |
|-------------------------|---|---------|---------------------------------------|
| 1. 科目名 (単位数)            | こどもの音楽Ⅱ (2単位)   | 3. 科目番号 | JNNT2513                              |
| 2. 授業担当教員               | 本野 洋子   |         |                                       |
| 4. 授業形態                 | 講義、実技   | 5. 開講学期 | 秋期                                    |
| 6. 履修条件・他科目との関係         |   |         |                                       |
| 7. 講義概要                 | 音楽基礎Ⅰ・音楽基礎Ⅱ・こどもの音楽Ⅰで身に付けた演奏技術を更に向上させ、保育士および幼稚園教諭に必要なとされるレベルまで到達させる。子どもの歌の特徴を熟知し、保育の音楽活動において適切に指導できる力をつける。   |         |                                       |
| 8. 学習目標                 | 1. ピアノ演奏および弾き歌いの技術を向上させる。<br>2. 歌からリズム遊び、楽器遊び、合奏に発展させる力をつける。  |         |                                       |
| 9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題 | ① ピアノ：課題曲を次週までによく練習しておくこと。<br>② こどもの歌：レパートリーを増やす。<br>③ こどもの歌の弾き歌い(コードネーム奏を含む)：練習を重ねて慣れる。<br>第5, 10, 13回に「弾き歌い」第15回にグループでの「アンサンブル」発表を行います。   |         |                                       |
| 10. 教科書・参考書・教材          | 【教科書】<br>・1年次で使用した教科書を継続使用する。<br>・上記の教科書以外に必要な楽譜等は、授業内でプリントにして配布予定。<br>【参考書】<br>・池田富造 著『幼児の楽器遊びと楽しい合奏 - 器楽/合奏/鼓隊の指導』ひかりのくに、1978。<br>・木許 隆・高橋 一行・三縄 公一・高倉 秋子 著『保育者のためのリズム遊び 幼児・小学校低学年の器楽指導』音楽之友社、2008。<br>【教材】※各自で必ず購入しておくこと。<br>・ヘッドフォン<br>・6.3mmジャック (先端が3.5mmジャックの場合、ステレオ変換ジャックが必要) |         |                                       |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法       | ○成績評価の規準<br>1. ピアノ演奏および弾き歌いの技術を向上させたか。<br>2. こどもの歌をアレンジし、リズム遊び、楽器遊び、合奏に発展させる力をつけたか。<br>○評定の方法<br>1. 弾き歌いの発表 総合点の40%<br>2. 授業への取り組み 総合点の30%<br>3. 提出物 総合点の20%<br>4. グループ発表 総合点の10%<br>1から4を総合的に判断して評価する。   |         |                                       |
| 12. 受講生へのメッセージ          | 幼稚園、保育園の現場でしっかりピアノで弾き歌いができるような演奏技能レベルの更なる向上を目指しましょう。ピアノ演奏技能の習得には少しずつでも毎日練習することが大事です。また手遊び歌、楽器遊び、アンサンブルなどを通じて幼稚園、保育園の現場で豊かな音楽活動が展開できるような力をつけていきましょう。   |         |                                       |
| 13. オフィスアワー             | 授業時に通知  |         |                                       |
| 14. 授業展開及び授業内容          |   |         |                                       |
| 講義日程                    | 授業内容  | 学習課題    |                                       |
| 第1回                     | グレード別弾き歌い課題曲の提示<br>子どもの歌のアレンジ<br>子どもの歌の歌唱①  | 事前学習    | 弾き歌いできるようになった子どもの歌の練習。                |
|                         |   | 事後学習    | 課題曲の練習。メジャーコードとマイナーコードの復習。            |
| 第2回                     | ピアノ弾き歌いレッスン(グループ別)<br>短調の曲の弾き方<br>子どもの歌の歌唱②   | 事前学習    | 課題曲の練習。                               |
|                         |   | 事後学習    | レッスンの復習。短調の復習。                        |
| 第3回                     | ピアノ弾き歌いレッスン(グループ別)<br>手遊び歌の実践①  | 事前学習    | 課題曲の練習。                               |
|                         |   | 事後学習    | レッスンの復習。手遊び歌の復習。                      |
| 第4回                     | ピアノ弾き歌いレッスン(グループ別)<br>オノマトペについて   | 事前学習    | 課題曲の練習。両手で弾き、歌うこと。                    |
|                         |   | 事後学習    | レッスンの復習。オノマトペの復習。                     |
| 第5回                     | ピアノ弾き歌い発表第1回<br>リズム楽器の扱い方   | 事前学習    | 課題発表曲の練習。演奏が停止することなく、しっかり歌って弾けるようにする。 |
|                         |   | 事後学習    | 課題発表曲の復習。リズム楽器の扱いについて復習。              |
| 第6回                     | ピアノ弾き歌いレッスン(グループ別)<br>身体を使ってリズムを楽しむ、  | 事前学習    | 課題曲の練習。                               |
|                         |   | 事後学習    | レッスンの復習。身体を使ったリズムの復習。                 |
| 第7回                     | ピアノ弾き歌いレッスン(グループ別)<br>楽器を使ってリズムを楽しむ   | 事前学習    | 課題曲の練習。両手で弾き、歌うこと。                    |
|                         |   | 事後学習    | レッスンの復習。楽器を使ったリズムの復習。                 |
| 第8回                     | ピアノ弾き歌いレッスン(グループ別)<br>子どもの歌を合奏にアレンジする(特徴的なリズムに着目して)   | 事前学習    | 課題曲の練習。                               |
|                         |   | 事後学習    | レッスンの復習。アレンジの復習。                      |
| 第9回                     | ピアノ弾き歌いレッスン(グループ別)<br>子どもの歌を合奏にアレンジする(創作・即興)  | 事前学習    | 課題曲の練習。                               |
|                         |   | 事後学習    | レッスンの復習。アレンジの復習。                      |
| 第10回                    | ピアノ弾き歌い発表第2回<br>楽器を使ったアンサンブルの実践   | 事前学習    | 課題発表曲の練習。両手で弾き、歌うこと。                  |
|                         |   | 事後学習    | 課題発表曲の復習。合奏について復習。                    |
| 第11回                    | ピアノ弾き歌いレッスン(グループ別)<br>総合的な音楽表現活動へ   | 事前学習    | 課題曲の練習。                               |
|                         |   | 事後学習    | レッスンの復習。総合的な音楽表現活動について復習。             |
| 第12回                    | ピアノ弾き歌いレッスン(グループ別)<br>総合的な音楽表現活動①   | 事前学習    | 課題曲の練習。音楽表現活動に必要な準備をする。               |
|                         |   | 事後学習    | レッスンの復習。グループごとに表現活動について復習。            |
| 第13回                    | ピアノ弾き歌い発表第3回<br>総合的な音楽表現活動②   | 事前学習    | 課題発表曲の練習。曲想を考えてしっかり歌いながら演奏する。         |
|                         |   | 事後学習    | 課題発表曲の復習。グループごとに表現活動について復習。           |

|      |   |      |                                    |
|------|---|------|------------------------------------|
| 第14回 | 総合的な音楽表現活動③（グループワーク）                                      | 事前学習 | 発表に向けてグループごとに準備する。                 |
|      |   | 事後学習 | 発表に向けての仕上げをグループで行う。                |
| 第15回 | 総合的な音楽表現活動の発表（グループ別）<br>保育現場における音楽活動、子どもと歌の関係<br>についてのまとめ | 事前学習 | 発表へ向けての練習をしっかりと行う。                 |
|      |   | 事後学習 | 保育現場における音楽活動、子どもの歌についての<br>まとめの復習。 |

|                            |   |      |                             |                                  |
|----------------------------|---|------|-----------------------------|----------------------------------|
| 1. 科目名 (単位数)               | こどもの健康と安全 (2 単位)  |      | 3. 科目番号                     | SSOT2414<br>SCOT2414<br>SJMP2123 |
| 2. 授業担当教員                  | 橋本 由利子・佐野 葉子  |      |                             |                                  |
| 4. 授業形態                    | 講義、演習、グループワーク、プレゼンテーション   |      | 5. 開講学期                     | 秋期                               |
| 6. 履修条件・<br>他科目との関係        |   |      |                             |                                  |
| 7. 講義概要                    | <p>保育環境を踏まえ、こどもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理の具体的な方法を学ぶ。衛生管理、事故の予防及び安全対策、危機管理、防災への備えについて理解する。こどもが体調不良になった場合の対処方法、救急処置と救急蘇生法などを身に付ける。また保育における保健的対応の基本的考え方や3歳未満児への対応、慢性疾患やアレルギー性疾患など個別的な配慮を必要なこどもへの対応を学ぶ。保護者や地域との連携を図る方法、保育における保健活動の計画と評価についても学ぶ。</p>   |      |                             |                                  |
| 8. 学習目標                    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. こどもの健康管理、健康観察の方法について理解し、実施できるようになる。</li> <li>2. 衛生管理の方法（感染症対策も含む）について理解し、実施できるようになる。</li> <li>3. 子どもに体調不良が発生した場合の対応について理解し、実施できるようになる。</li> <li>4. 救急処置および救急蘇生法について理解し、実施できるようになる。</li> <li>5. こどもの事故の特徴と事故防止の方法、危機管理について理解し、説明できるようになる。</li> <li>6. 3歳未満児への対応、慢性疾患やアレルギー性疾患など個別な配慮を要する子どもへの対応を理解し、説明できるようになる。</li> <li>7. 保護者や地域との連携方法、保健活動の計画と評価について理解し、説明できるようになる。</li> <li>8. 集団保育における健康管理・健康教育の実際を理解し、説明できるようになる。</li> </ol>   |      |                             |                                  |
| 9. アサイメント<br>(宿題) 及びレポート課題 | こどもの一次救命処置の重要性と手順についてまとめなさい。(1600字程度)   |      |                             |                                  |
| 10. 教科書・参考書・<br>教材         | <p>【教科書】小林美由紀編著『子どもの健康と安全 演習ノート』診断と治療社<br/> 【参考書】中根淳子・佐藤直子編著『子どもの保健』ななみ書房<br/> 小林美由紀編著『子どもの保健テキスト』診断と治療社<br/> 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規</p>   |      |                             |                                  |
| 11. 成績評価の規準<br>と評定の方法      | <p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. こどもの保健に関する個別対応について理解し実施できる。</li> <li>2. 集団保育における健康管理・健康教育の実際を理解し説明できる。</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <p>成績評価については、ミニテスト 20%、レポート 30%、日常の授業態度 50%とし総合的に評価を行う。</p>   |      |                             |                                  |
| 12. 受講生への<br>メッセージ         | <p>こどもの健康と安全は、保育中の乳幼児の命と健康を守るための技術を学ぶ重要な科目です。保育者は乳幼児の普段の状態をよく把握し、普段と少しでも異なる症状があった場合にはそれをいち早く察知し、適切に対処しなくてはなりません。また、乳幼児の養護や看護を行う場合には愛情を持って温かく接する事が大切です。一つ一つの実技を誠心誠意、真剣に行ってください。</p> <p>受講生は以下のことを必ず守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 授業は、常に高い緊張感と集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。</li> <li>2) 理解できないことはそのまましておかないで、積極的に質問すること。</li> <li>3) 欠席・遅刻・早退をしないこと（やむを得ない場合は必ず文書で申し出ること）。</li> <li>4) 授業中の私語、携帯電話の作動は絶対にしないこと。守れない場合は退出してもらいます。</li> <li>5) 実技・演習は、事故のないように気を引き締めて行うこと。</li> <li>6) 実習機材の準備・後片付けを積極的に行うこと。</li> </ol> <p>講師は以下のことを実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学生が積極的に授業に参加（発言、発表）できるように双方向対話型の学習環境を作る。</li> <li>2) 明らかに授業態度が悪いと判断された場合は厳格に対処する。（その場合、たとえすべて出席していてもF評価になることもあるので注意すること。）</li> </ol> |      |                             |                                  |
| 13. オフィスアワー                | 授業内で周知します。  |      |                             |                                  |
| 14. 授業展開及び授業内容             |   |      |                             |                                  |
| 講義日程                       | 授業内容  | 学習課題 |                             |                                  |
| 第1回                        | ガイダンス<br>妊娠、胎児期の発育、染色体異常  | 事前学習 | シラバスを読んでくる。                 |                                  |
|                            |   | 事後学習 | 妊娠の成立、胎児期の発育と染色体異常について整理する。 |                                  |
| 第2回                        | 子どもの発育の観察と評価<br>演習：身体測定   | 事前学習 | 子どもの発育状態の把握について調べてくる。       |                                  |
|                            |   | 事後学習 | 身体測定の方法について整理する。            |                                  |
| 第3回                        | 子どもの健康状態の観察方法<br>演習：バイタルサインの測定  | 事前学習 | 子どもの健康状態の観察について調べてくる。       |                                  |
|                            |   | 事後学習 | バイタルサインの測定について整理する。         |                                  |
| 第4回                        | 保育における保健的対応：母乳、人工栄養、離乳食<br>演習：人工乳の作り方、手洗い方法   | 事前学習 | 母乳、人工栄養、離乳食について読んでくる。       |                                  |
|                            |   | 事後学習 | 人工乳の作り方、手洗い方法を整理する。         |                                  |
| 第5回                        | 保育における保健的対応：口腔機能の発達と衛生<br>演習：口腔衛生   | 事前学習 | 口腔機能の発達と衛生について調べてくる。        |                                  |
|                            |   | 事後学習 | 口腔衛生の方法について整理する。            |                                  |
| 第6回                        | 衛生管理<br>演習：施設環境・嘔吐物の処理  | 事前学習 | 衛生管理について読んでくる。              |                                  |
|                            |   | 事後学習 | 施設環境・嘔吐物の処理について整理する。        |                                  |

|      |   |      |                                    |
|------|---|------|------------------------------------|
| 第7回  | 子どもの体調不良に対する適切な対応<br>演習：薬の与え方、おむつの処理      | 事前学習 | 子どもの体調不良に対する適切な対応について読んでくる。        |
|      |   | 事後学習 | 薬の与え方・おむつの処理について整理する。              |
| 第8回  | 傷害時の応急処置<br>演習：出血と止血法、骨折の手当て              | 事前学習 | 傷害時の応急処置について読んでくる。                 |
|      |   | 事後学習 | 止血法、骨折の手当てについて整理する。                |
| 第9回  | 救急処置および心肺蘇生法<br>演習：気道異物除去・エビペンの使用方法・心肺蘇生法 | 事前学習 | 気道異物除去・心肺蘇生法について読んでくる。             |
|      |   | 事後学習 | 気道異物除去・エビペンの使用方法・心肺蘇生法について整理する。    |
| 第10回 | 救急処置および心肺蘇生法<br>演習：心肺蘇生法・AED              | 事前学習 | AEDの使用方法について読んでくる。                 |
|      |   | 事後学習 | AEDの使用方法について整理する。                  |
| 第11回 | 子どもの事故の特徴と事故防止の方法、危機管理                    | 事前学習 | 子どもに多い事故について読んでくる。                 |
|      |   | 事後学習 | 事故防止と安全教育、危機管理について整理する。            |
| 第12回 | 集団保育における健康管理・健康教育<br>グループワーク：安全衛生教材作り     | 事前学習 | 安全衛生教育について確認し、授業内で教材が作成できるように準備する。 |
|      |   | 事後学習 | 次回教材が完成するように準備する。                  |
| 第13回 | 集団保育における健康管理・健康教育<br>グループワーク：安全衛生教材作り     | 事前学習 | 授業内で教材が完成できるように準備する。               |
|      |   | 事後学習 | 教材を完成させ発表に向けて準備する。                 |
| 第14回 | 安全衛生教育発表                                  | 事前学習 | 教材を完成させ発表に向けて準備する。                 |
|      |   | 事後学習 | 各グループの発表から安全衛生教育に必要なことを整理する。       |
| 第15回 | まとめ、内容の振り返り（ミニテスト）                        | 事前学習 | 授業内の疑問や質問を考えてくる。                   |
|      |   | 事後学習 | この科目で学習したことを振り返る。                  |

|                                |  |         |  |
|--------------------------------|--|---------|--|
| 1. 科目名 (単位<br>数)               | 在宅保育論 (2単位)  | 3. 科目番号 | JECC2409<br>JNCC1409   |
| 2. 授業担当教員                      | 堀 聡子・佐野 葉子・関 容子  |         |  |
| 4. 授業形態                        | 講義・演習  | 5. 開講学期 | 秋期   |
| 6. 履修条件・<br>他科目との関係            |  |         |  |
| 7. 講義概要                        | 保育を必要とする家庭環境及びその背景は多様化し、保育に携わる者には、高度な専門性が求められている。特に、家庭訪問型保育は、家族の支援、子どもの援助、地域の中でのコーディネーターとしての役割を担い、子ども・その家庭のアセスメントと援助には、高い専門性が必要となる。本講義では、ディスカッションや演習を通して、子どもの命を預かる責任を自覚するとともに、社会的なニーズの理解と家庭訪問保育の保育技術の習得を目指し、家庭訪問保育の意義と実際についての理解を深めることを目的とする。                 |         |  |
| 8. 学習目標                        | 1. 保育の社会的背景と地域における様々な子育て支援の現状を知り、家庭訪問保育の意義や社会的役割、法的責任について理解する。<br>2. 家庭訪問型保育における子育て支援についての基礎的知識を習得する。<br>3. 子どもの発達を理解し、子ども理解と様々な保育形態に応じた援助を理解し、基本的な保育技術を習得する。<br>4. 保護者や事業者との良い連携の中で、子どもの命を預かる責任を持ち職務を全うし、子どもの健やかな育ちをサポートする家庭訪問保育者の職業倫理を踏まえ、保育マインドと専門性を理解する。 |         |  |
| 9. アサイメント<br>(宿題) 及びレポ<br>ート課題 | レポート課題「子育ての社会的背景を踏まえ家庭訪問保育の意義について述べ、家庭訪問型保育の種類、及び具体的な援助と留意点について考えを述べよ。」  |         |  |
| 10. 教科書・参考<br>書・教材             | 【教科書】<br>公益社団法人全国保育サービス協会 (編)『家庭訪問保育の理論と実際』中央法規、2019年<br>【参考書】<br>西郷泰之『ホーム・ビジティング訪問型子育て支援の実際』簡井書房  |         |  |
| 11. 成績評価の規準<br>と評定の方法          | 授業の参加態度 (意欲、積極性、発表)  | 30%     |  |
|                                | リフレクションシート・小テスト等   | 30%     |  |
|                                | 期末レポート   | 40%     |  |
|                                | 本学の規定により、3/4以上の出席が確認できない場合には、単位の修得を認めない。   |         |  |
| 12. 受講生への<br>メッセージ             | 家庭訪問保育では、施設型の保育とは異なる保育の専門性も求められます。保育の基本的理解と子ども理解、そして家族支援の児童家庭福祉の観点から、家庭訪問保育の特徴とその意義を考えるよう努めましょう。また、ベビーシッターの資格をなぜ取得したいのか、しっかりと自己課題と向き合い、授業に参加することに期待します。ディスカッションやグループ発表に積極的に参加し、様々な視点から家庭訪問保育について理解を深めるよう努めましょう。  |         |  |
| 13. オフィスアワー                    | 授業内で別途通知する。  |         |  |
| 14. 授業展開及び授業内容                 |  |         |  |
| 講義日程                           | 授業内容   | 学習課題    |  |
| 第1回                            | オリエンテーション<br>家庭訪問保育とは  | 事前学習    | 子ども・子育て支援新制度について事前に調べ、事前学習シートにまとめる。                                  |
|                                |  | 事後学習    | 家庭訪問保育者が「保育所保育指針」を学ぶ必要性について、自身の考えをリフレクションシートにまとめる。                   |
| 第2回                            | 家庭訪問保育における保育マインドと職業倫理  | 事前学習    | 教科書 pp. 7-15 pp. 133-144 を読み、関心のあるキーワードを3つ挙げ、その理由を事前学習シートに記入する。      |
|                                |  | 事後学習    | 家庭訪問保育に求められる保育マインドについて、自身の考えをリフレクションシートにまとめる。                        |
| 第3回                            | 居宅訪問型保育の概要   | 事前学習    | 教科書 pp. 18- 27 を読み、居宅訪問型の特徴を事前学習シートにまとめる。                            |
|                                |  | 事後学習    | 地域子ども・子育て支援事業における居宅訪問型保育の意義について、自身の考えをリフレクションシートにまとめる。               |
| 第4回                            | 乳幼児の生活と遊び  | 事前学習    | 教科書 pp. 28-37 を読み、1対1で行う子どもの遊びについて事前学習シートにまとめる。                      |
|                                |  | 事後学習    | 1対1で子どもと遊ぶ際に配慮することについて、自身の考えをリフレクションシートにまとめる。                        |
| 第5回                            | 乳幼児の発達と心理  | 事前学習    | 教科書 pp. 38- 52 を読み、関心のあるキーワードを3つ挙げ、その理由を事前学習シートに記入する。                |
|                                |  | 事後学習    | 子どもの発達を支える保育者の役割について自身の考えをリフレクションシートにまとめる。                           |
| 第6回                            | 乳幼児の食と栄養   | 事前学習    | 教科書 pp. 53- 63 を読み、関心のあるキーワードを3つ挙げ、その理由を事前学習シートに記入する。                |
|                                |  | 事後学習    | 家庭訪問保育において、保育者は食と栄養についてどのようなことに配慮及び留意する必要があるか、自身の考えをリフレクションシートにまとめる。 |



|      |                             |      |  |
|------|-----------------------------|------|--|
| 第7回  | 小児保健ⅠⅡと子ども虐待                | 事前学習 | 教科書 pp.66- 88 、教科書 pp.158-168 を読み、家庭訪問保育において起こりうる事故・怪我・病気及び虐待について分からない用語を事前に調べておく。 |
|      |                             | 事後学習 | 家庭訪問保育において起こりうる事故・怪我・病気に対する留意点とその対応についてリフレクションシートにまとめる。                            |
| 第8回  | 実技講習 心肺蘇生法                  | 事前学習 | 異物除去法、心肺蘇生法について、教科書 pp.88-91 を読み、その方法をイメージしておく。                                    |
|      |                             | 事後学習 | 緊急時の対応をリフレクションシートに自身の言葉でまとめる。  |
| 第9回  | 環境整備と安全・リスクマネジメント           | 事前学習 | 教科書 pp.106-115 を読み、分からない用語を調べておく。  |
|      |                             | 事後学習 | 子どもの居宅で行われる保育の環境整備について配慮事項をリフレクションシートにまとめる。  |
| 第10回 | 特別に配慮を要する子どもへの対応            | 事前学習 | 教科書 pp.170-184 を読み、分からない用語を調べておく。  |
|      |                             | 事後学習 | 特別に配慮を要する子どもへの対応における居宅訪問型保育者の役割について、自身の考えをリフレクションシートにまとめる。                         |
| 第11回 | 保護者支援と対応                    | 事前学習 | 教科書 pp.145-156 を読み、分からない用語を調べておく。  |
|      |                             | 事後学習 | 居宅訪問型保育における保護者との信頼関係作りの具体的な方法を考え、リフレクションシートにまとめる。                                  |
| 第12回 | 保育内容と計画・記録                  | 事前学習 | 教科書 pp.93-105 を読み、分からない用語を調べておく。   |
|      |                             | 事後学習 | 居宅訪問型保育の特徴と保育内容・記録について本日の授業を踏まえ、気づいたことをリフレクションシートにまとめる。                            |
| 第13回 | 保育技術—遊びと生活—<br>①グループ発表準備    | 事前学習 | グループ発表に備え、これまで学習した保育技術について復習しておく。  |
|      |                             | 事後学習 | グループ毎に遊び、離乳食、授乳、着替え、排泄（おむつ替え）に分かれ、具体的な方法を他のグループに伝えられるように準備しておく。                    |
| 第14回 | 保育技術—遊びと生活—<br>②グループ発表      | 事前学習 | グループ発表がスムーズに行えるよう準備をしておく。  |
|      |                             | 事後学習 | 各グループの発表を踏まえ、家庭訪問保育の保育者に求められる保育技術について考えたことと自己課題をリフレクションシートにまとめる。                   |
| 第15回 | 様々な家庭訪問保育<br>業務の流れと運営（外部講師） | 事前学習 | 教科書 pp.116-123、pp.229-241 を読み、分からない用語を調べておく。                                       |
|      |                             | 事後学習 | 保育所保育士と居宅訪問型保育者の業務内容や運営の相違について、また、それぞれの保育サービスを実施する際の留意点について、自身の考えをリフレクションシートにまとめる。 |

|                          |  |         |   |
|--------------------------|--|---------|---|
| 1. 科目名 (単位数)             | 社会福祉 (2単位)   | 3. 科目番号 | JNGM1101  |
| 2. 授業担当教員                | 村本 浄司  |         |   |
| 4. 授業形態                  | 講義・ディスカッション  | 5. 開講学期 | 秋期  |
| 6. 履修条件・他科目との関係          |  |         |   |
| 7. 講義概要                  | <p>この科目は、保育士資格を取得するための必修科目であり、保育士実践に不可欠の知識・技能を学習するものである。</p> <p>具体的内容としては、社会福祉の現代的意義について、歴史、対象、制度、担い手の視点からとらえる。また、社会福祉に関する理論と制度の体系を学び、相談活動の方法や技術、保育における具体的な展開方法を学ぶことを目的とする。さらに、身近な事例を紹介しながら授業を進めつつ、社会福祉の現代的意義を平易に解説し、利用者の生活課題を理解する。これらを通じて保育士として必要な社会福祉に係る知識・技術を身につける。</p>   |         |   |
| 8. 学習目標                  | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代における社会福祉の意義と歴史の変遷から、福祉の思想と考え方を理解する。</li> <li>2. 現代の社会福祉における制度や実施体系を理解する。</li> <li>3. 社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかる仕組みを理解する。</li> <li>4. 利用者の生活ニーズが表出する社会的、個別的な背景を理解し、支援の際に活かせるようにする。</li> <li>5. 利用者の生活ニーズに対する具体的支援方法を理解する。</li> </ol> |         |   |
| 9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個人課題用プリントを授業中に作成し、毎回の授業終了後に提出を求める。</li> <li>2. レポート課題1500字以上「近年の家族を取り巻く子育ての状況と保育士に求められる相談援助について、あなたの考えを述べなさい」</li> </ol>   |         |   |
| 10. 教科書・参考書・教材           | <p>【教科書】</p> <p>橋本好一・宮田徹編集『シリーズ保育と現代社会 保育と社会福祉 第3版』(株)みらい、2019。</p>  |         |   |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法        | <p>○成績評価の規準</p> <p>5つの学習目標を達成することができたか</p> <p>○評定の方法</p> <p>1. 課題レポート 30%</p> <p>2. 平常点 (ディスカッションや授業への積極的参加度、提出物など) 40%</p> <p>3. 期末試験 30%</p>   |         |   |
| 12. 受講生へのメッセージ           | <p>社会福祉専門職として子どもや保護者に寄り添いながら支援を行っていくための基盤を自分の中に確立してください。授業を通して学んだ社会福祉の知識や専門職としての価値・倫理観は、みなさんが実際に支援の現場でさまざまな課題に直面した時に大きな支えになってくれるはずです。</p> <p>履修にあたっては、真摯かつ積極的な態度で授業に臨むことを期待します。シラバスに記載してある事前学習を必ずしておいてください。</p>  |         |   |
| 13. オフィスアワー              | 第1回の講義の際にお伝えします。   |         |   |
| 14. 授業展開及び授業内容           |  |         |   |
| 講義日程                     | 授業内容   | 学習課題    |   |
| 第1回                      | オリエンテーション (講義の概要、学習目標の説明、座席の決定)<br>テキスト第1章「保育と社会福祉」<br>—生活課題と社会福祉の概要について学ぶ   | 事前学習    | シラバスとテキスト第1章を熟読する。  |
|                          |  | 事後学習    | 講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (少子高齢社会、都市化と過疎化、保育や子育ての問題) についてまとめる。  |
| 第2回                      | テキスト第2章「社会福祉の考え方と役割」<br>—社会福祉の概念 (理念)、保育と社会福祉の関係について学ぶ   | 事前学習    | テキスト第2章を熟読する。   |
|                          |  | 事後学習    | 講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン等) についてまとめる。 |
| 第3回                      | テキスト第3章「社会福祉のあゆみ」<br>—欧米 (イギリス、アメリカ、スウェーデン) と日本の福祉のあゆみについて学ぶ   | 事前学習    | テキスト第3章を熟読する。   |
|                          |  | 事後学習    | 講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (諸外国やわが国の社会福祉の歴史等) についてまとめる。          |
| 第4回                      | テキスト第4章「生活を守る社会保障制度」<br>—社会保障の体系と社会保険制度について学ぶ  | 事前学習    | テキスト第4章を熟読する。   |
|                          |  | 事後学習    | 講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (社会保障、生存権、社会保険、生活保護等) についてまとめる。       |

|      |  |      |  |
|------|--|------|--|
| 第5回  | テキスト第5章「社会福祉の制度・法体系」<br>—福祉分野の法体系と、高齢者福祉の法制度及び障害者福祉の法制度について学ぶ                            | 事前学習 | テキスト第5章を熟読する。  |
|      |  | 事後学習 | 講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項(社会福祉法、介護保険、障害者総合支援法等)についてまとめる。                 |
| 第6回  | テキスト第6章「社会福祉の実施機関と行財政」<br>—社会福祉に関わる行政機関や民間組織・団体と、福祉の財源について学ぶ                             | 事前学習 | テキスト第6章を熟読する。  |
|      |  | 事後学習 | 講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項(福祉事務所、児童相談所、社会福祉協議会等)についてまとめる。                 |
| 第7回  | テキスト第7章「社会福祉の施設」<br>—社会福祉施設の概要(施設の意義、施設の種類、運営に関する基準等)について学ぶ                              | 事前学習 | テキスト第7章を熟読する。  |
|      |  | 事後学習 | 講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項(社会福祉施設、その設置基準等)についてまとめる。                       |
| 第8回  | テキスト第8章「子どもの人権と児童家庭福祉」<br>—児童福祉の理念、児童家庭福祉及び保育施策の実施状況について学ぶ                               | 事前学習 | テキスト第8章を熟読する。  |
|      |  | 事後学習 | 講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項(子どもの権利条約、社会的養護、児童福祉法、子どもの貧困等)についてまとめる。         |
| 第9回  | テキスト第9章「共生社会と障害者福祉」<br>—障害のICFモデル、共生社会、障害者自立支援制度について学ぶ                                   | 事前学習 | テキスト第9章を熟読する。  |
|      |  | 事後学習 | 講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項(ICF、共生社会、障害者自立支援制度)についてまとめる。                   |
| 第10回 | テキスト第10章「高齢者の福祉と介護保険」<br>—高齢者福祉と介護保険制度について学ぶ   | 事前学習 | テキスト第10章を熟読する。   |
|      |  | 事後学習 | 講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項(老人福祉法、介護保険制度、地域包括ケアシステム)についてまとめる。              |
| 第11回 | テキスト第11章「地域福祉の意味と推進方法」<br>—地域福祉の理念、社会福祉協議会、推進方法について学ぶ                                    | 事前学習 | テキスト第11章を熟読する。   |
|      |  | 事後学習 | 講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項(社会福祉協議会、ボランティア、民生委員、コミュニティソーシャルワーカー等)についてまとめる。 |
| 第12回 | テキスト第12章「社会福祉の専門職と倫理」<br>—保育士の職務と義務、社会福祉の専門職について学ぶ                                       | 事前学習 | テキスト第12章を熟読する。   |
|      |  | 事後学習 | 講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項(保育士、社会福祉士、精神保健福祉士、名称独占、業務独占、保育士の倫理綱領)についてまとめる。 |
| 第13回 | テキスト第13章「相談援助(ソーシャルワーク)の意味と方法」<br>—保育士に求められるソーシャルワーク、ソーシャルワークの原理、原則、ソーシャルワークの視点と動向について学ぶ | 事前学習 | テキスト第13章を熟読する。   |
|      |  | 事後学習 | 講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項(ソーシャルワークの定義、ストレングス、エンパワメント、アドボカシー等)についてまとめる。   |
| 第14回 | テキスト第14章「福祉サービスの利用支援と第三者評価」<br>—   | 事前学習 | テキスト第14章を熟読する。   |
|      |  | 事後学習 | 講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項(福祉サービス利用援助事業、福祉サービス利用方法、第三者評価等)についてまとめる。       |

|         |   |      |   |
|---------|---|------|---|
| 第 1 5 回 | テキスト第 15 章「権利擁護と苦情解決」<br>—利用者の権利擁護の仕組みと成年後見制度について学ぶ | 事前学習 | テキスト第 15 章を熟読する。<br>第 1 回～第 14 回の授業の重要事項の確認・見直しを行い、疑問点があればまとめておく。 |
|         |   | 事後学習 | これまで学習した内容について復習をしておく。必要に応じて参考書等を活用して知識の補足、整理を行い、疑問点については確認しておく。  |
| 期末試験    |   |      |   |

|                         |   |      |                            |          |
|-------------------------|---|------|----------------------------|----------|
| 1. 科目名 (単位数)            | 情報機器の操作 I (2 単位)  |      | 3. 科目番号                    | JNGL1101 |
| 2. 授業担当教員               | 森 正人  |      |                            |          |
| 4. 授業形態                 | 講義および演習   |      | 5. 開講学期                    | 秋期       |
| 6. 履修条件・他科目との関係         |   |      |                            |          |
| 7. 講義概要                 | 現代社会において、情報機器操作の習得は必須である。この講義では、ワードプロセッサや表計算ソフトの利用法やインターネットでの情報収集、電子メールを習得する。   |      |                            |          |
| 8. 学習目標                 | パーソナルコンピュータを使用した、文書作成、表計算等の基本操作を学習すると共に、コンピュータネットワークを利用した、コミュニケーションや情報収集について学ぶ。   |      |                            |          |
| 9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題 | ワードプロセッサや表計算ソフトウェアを用いて、課題の作成をし、その提出を求める。  |      |                            |          |
| 10. 教科書・参考書・教材          | 【教科書】<br>切田節子・三浦信宏・小林としえ・乙名健 共著『Microsoft Office 2016 を使った情報リテラシーの基礎』近代科学社。   |      |                            |          |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法       | ○成績評価の規準<br>1. 情報機器操作上必要な基本事項を身につけているか。<br>2. ワードプロセッサ、表計算ソフトウェアの基本的な知識、操作技能を身につけているか。<br>3. コンピュータネットワークの基礎事項を身につけているか。<br>○評定の方法<br>受講姿勢 40%、演習・課題提出 20%、期末試験 40%で評価。 |      |                            |          |
| 12. 受講生へのメッセージ          | ・現在の社会生活においてコンピュータを避けて通るのは難しいのが現状です。どうせ付き合わざるを得ないのであれば、むしろ便利に使いこなしてみましよう。<br>・私が提供する話題以外でも、普段、皆さんがコンピュータに関して疑問に思っていることがあれば、どんどん質問してください。                                |      |                            |          |
| 13. オフィスアワー             | 別途連絡する  |      |                            |          |
| 14. 授業展開及び授業内容          |   |      |                            |          |
| 講義日程                    | 授業内容  | 学習課題 |                            |          |
| 第 1 回                   | 講義概要、コンピュータ操作習熟度アンケート、基本的な用語等の確認  | 事前学習 | 教科書の第 1 章 (1.2 項以外) を読んでおく |          |
|                         |   | 事後学習 | 基本的な語句等を確認し、覚える            |          |
| 第 2 回                   | 解説 OS (Windows) の基本、操作法   | 事前学習 | 教科書の第 2 章を読んでおく            |          |
|                         |   | 事後学習 | 基本的な語句等を確認し、基本操作を練習しておく    |          |
| 第 3 回                   | コンピュータネットワークとインターネット  | 事前学習 | 配布資料をよんでおく                 |          |
|                         |   | 事後学習 | 基本的な語句と概念を確認しておく           |          |
| 第 4 回                   | WWW と Web 検索  | 事前学習 | 配布資料を読んでおく                 |          |
|                         |   | 事後学習 | 基本的な操作を練習しておく              |          |
| 第 5 回                   | 電子メールの使い方   | 事前学習 | 配布資料を読んでおく                 |          |
|                         |   | 事後学習 | 基本的な操作を練習しておく              |          |
| 第 6 回                   | ワードプロセッサ (1: 基本概念・操作)   | 事前学習 | 教科書 3.1 項を読んでおく            |          |
|                         |   | 事後学習 | 習った操作を確実に実行できるように復習        |          |
| 第 7 回                   | ワードプロセッサ (2: 書式設定等)   | 事前学習 | 教科書 3.2 項を読んでおく            |          |
|                         |   | 事後学習 | 習った操作を確実に実行できるように復習        |          |
| 第 8 回                   | ワードプロセッサ (3: 図などの取り扱い)  | 事前学習 | 教科書 3.5 項を読んでおく            |          |
|                         |   | 事後学習 | 習った操作を確実に実行できるように復習        |          |
| 第 9 回                   | ワードプロセッサ (4: 総合演習)  | 事前学習 | 課題ファイル提出に向けて、作業を進める        |          |
|                         |   | 事後学習 | 教科書の章末問題に挑戦する              |          |
| 第 10 回                  | 表計算ソフト (1: 基本概念。操作)   | 事前学習 | 教科書 4.2~4.3 項を読んでおく        |          |
|                         |   | 事後学習 | 習った操作を確実に実行できるように復習        |          |
| 第 11 回                  | 表計算ソフト (2: 書式設定等)   | 事前学習 | 教科書 4.4~4.5 項を読んでおく        |          |
|                         |   | 事後学習 | 習った操作を確実に実行できるように復習        |          |
| 第 12 回                  | 表計算ソフト (3: 関数の取り扱い)   | 事前学習 | 教科書 4.6 項を読んでおく            |          |
|                         |   | 事後学習 | 習った操作を確実に実行できるように復習        |          |
| 第 13 回                  | 表計算ソフト (4: 総合演習)  | 事前学習 | 課題ファイル提出に向けて、作業を進める        |          |
|                         |   | 事後学習 | 教科書の章末問題に挑戦する              |          |
| 第 14 回                  | 著作権問題   | 事前学習 | 著作権の基本的な概念と語句を確認しておく       |          |
|                         |   | 事後学習 | 配布資料を読んでおく                 |          |
| 第 15 回                  | 個人情報の取り扱い   | 事前学習 | 個人情報の基本概念と身近な個人情報に関して検討を行う |          |
|                         |   | 事後学習 | 著作権の基本的な概念と語句を確認しておく       |          |
| 期末試験                    |   |      |                            |          |

|                         |   |         |   |
|-------------------------|---|---------|---|
| 1. 科目名 (単位数)            | 情報機器の操作Ⅱ (2単位)  | 3. 科目番号 | JEGL3302<br>JNGL2302                        |
| 2. 授業担当教員               | 森 正人  |         |   |
| 4. 授業形態                 | 講義および演習   | 5. 開講学期 | 秋期  |
| 6. 履修条件・他科目との関係         |   |         |   |
| 7. 講義概要                 | <p>保育士や教員は、様々な場面で、写真や画像、音声等を取り扱います。現在では、これらの多くをコンピュータ上で処理する機会が増えていますが、上手に取り扱えない人も少なくありません。</p> <p>本講義では、様々なマルチメディア素材の取り扱いに関する基礎知識と、技能を学習すると共に、他者の作成した素材を活用する上で、避けては通れない著作権に関する基礎事項を学ぶ。さらに、これらの学習成果を踏まえた上で、プレゼンテーションにおける活用に関する学習を行う。</p>   |         |   |
| 8. 学習目標                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータ上での、画像や音声の取り扱いに関する基礎知識・技能の習得</li> <li>・著作権に関する基礎知識の習得</li> <li>・プレゼンテーションの基礎事項の理解・習得</li> </ul>   |         |   |
| 9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・画像処理、音声処理の演習成果作品の提出を求める。</li> <li>・実際にプレゼンテーションを行い、これを提出物として取り扱う。</li> </ul>  |         |   |
| 10. 教科書・参考書・教材          | <p>【教科書】<br/>切田節子・三浦信宏・小林としえ・乙名健 共著『Microsoft Office 2016を使った情報リテラシーの基礎』近代科学社。</p>  |         |   |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法       | <p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各種マルチメディアデータに関する基礎知識を身につけているか。</li> <li>2. マルチメディアデータ処理ソフトウェアの操作技能を身につけているか。</li> <li>3. プレゼンテーションの基礎的事項を理解しているか。</li> </ol> <p>○評定の方法<br/>講義勢 40%、演習・課題提出 20%、期末試験 40%で評価。</p> |         |   |
| 12. 受講生へのメッセージ          | <p>パソコンやインターネットの普及および高機能化により、一般の人々も、様々なマルチメディア素材を扱う機会が増えていますが、より上手く使うためには、基礎的な理論などの学習は不可欠です。少々、堅い話も出てきますが、若い内に身につけてしまいましょう。</p>   |         |   |
| 13. オフィスアワー             | 別途通知する。   |         |   |
| 14. 授業展開及び授業内容          |   |         |   |
| 講義日程                    | 授業内容  | 学習課題    |   |
| 第1回                     | 講義概要、ガイダンス等   | 事前学習    | 高校の教科書や、ネット上の情報を参考に、自分の携帯電話やカメラの機能に関して調べてみる |
|                         |   | 事後学習    | 基本的な語句等を確認し、覚える                             |
| 第2回                     | 画像処理 (1) 描画ソフトの活用   | 事前学習    | 配布資料を読んでおく                                  |
|                         |   | 事後学習    | 演習ファイルの作成                                   |
| 第3回                     | 画像処理 (2) 画像処理ソフトの活用 (写真など)  | 事前学習    | 配布資料を読んでおく                                  |
|                         |   | 事後学習    | 演習ファイルの作成                                   |
| 第4回                     | 画像処理 (3) 総合演習   | 事前学習    | 前時までの操作を復習しておく                              |
|                         |   | 事後学習    | 演習ファイルの作成                                   |
| 第5回                     | デジタルカメラ等の周辺機器の取り扱い  | 事前学習    | 自分のカメラ等の説明書を準備                              |
|                         |   | 事後学習    | 操作を復習しておく                                   |
| 第6回                     | 音声データ処理 (1) 音声データとコンピュータのファイル   | 事前学習    | 配布資料を読んでおく                                  |
|                         |   | 事後学習    | 演習ファイルの作成                                   |
| 第7回                     | 音声データ処理 (2) 音声データの加工  | 事前学習    | 配布資料を読んでおく                                  |
|                         |   | 事後学習    | 演習ファイルの作成                                   |
| 第8回                     | プレゼンテーションソフト (1) 基本操作   | 事前学習    | 教科書 5.1~5.4 項を読んでおく                         |
|                         |   | 事後学習    | 習った操作を確実に実行できるように復習しておく                     |
| 第9回                     | プレゼンテーションソフト (2) 画像・音声・アニメーションなどの貼り付け   | 事前学習    | 教科書 5.5 項を読んでおく                             |
|                         |   | 事後学習    | 習った操作を確実に実行できるように復習しておく                     |
| 第10回                    | プレゼンテーションソフト (3) 効果的なプレゼンテーションの基礎知識   | 事前学習    | 教科書 5.6~5.8 項を読んでおく                         |
|                         |   | 事後学習    | 習った操作を確実に実行できるように復習しておく                     |
| 第11回                    | 総合演習 (1) 自己プレゼンテーションファイルの作成   | 事前学習    | 前時までの内容に習熟しておく                              |
|                         |   | 事後学習    | 演習ファイルを作成                                   |
| 第12回                    | 総合演習 (2) 自己プレゼンテーションファイルの作成   | 事前学習    | 課題ファイル提出に向けて、作業を進める                         |
|                         |   | 事後学習    | 課題ファイル提出に向けて、作業を進める                         |
| 第13回                    | 総合演習 (3) 自己プレゼンテーションファイルの作成   | 事前学習    | 課題ファイル提出に向けて、作業を進める                         |
|                         |   | 事後学習    | 課題ファイル提出に向けて、作業を進める                         |
| 第14回                    | プレゼンテーション実践 (1)   | 事前学習    | プレゼンテーションの準備をしておく                           |
|                         |   | 事後学習    | 指摘事項を参考にプレゼンテーションの改良を行う                     |
| 第15回                    | プレゼンテーション実践 (2)   | 事前学習    | プレゼンテーションの準備をしておく                           |
|                         |   | 事後学習    | 指摘事項を参考にプレゼンテーションの改良を行う                     |
| 期末試験                    |   |         |   |

|                         |   |         |   |
|-------------------------|---|---------|---|
| 1. 科目名 (単位数)            | 心理学的支援法 (基礎) / カウンセリングの基礎 (2 単位)  | 3. 科目番号 | JECC2506  |
| 2. 授業担当教員               | 八重樫 幸雄  |         | JNCC2506  |
| 4. 授業形態                 | 講義、討議、発表、演習   | 5. 開講学期 | 秋期  |
| 6. 履修条件・他科目との関係         |   |         |   |
| 7. 講義概要                 | <p>カウンセリングの土台となる人間の心のメカニズムについて理解し、面接中に生起する様々な現象とカウンセリングのプロセスについて基礎的な内容を学ぶ。また、カウンセラーの基本的態度や面接技法、心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援について、討議や演習を通して実践的に理解する。プライベートへの配慮などの倫理的側面、精神衛生や予防など心の健康教育についても理解する。</p> |         |   |
| 8. 学習目標                 | <p>1. カウンセリングの基本的な概念やプロセスを理解し、説明できる。<br/> 2. カウンセリングの面接技法、関係者への支援等について実践的な演習を行う。<br/> 3. カウンセリングにおける倫理的側面、心の健康教育について理解する。</p>   |         |   |
| 9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題 | <p>・アサイメント<br/> 事前学習、事後学習で取り組んだ内容を毎回のアサイメントシートに記述する。<br/> ・レポート課題<br/> 講義を通して学んできたカウンセリングをあなたはどのように生かそうとするか、場面や対象者を明確にしてより具体的に分かるようにあなたの考えを述べなさい。1200字程度</p>                                  |         |   |
| 10. 教科書・参考書・教材          | <p>【教科書】<br/> ・長尾 博著『やさしく学ぶカウンセリングの 26 のレッスン』金子書房、2012 年<br/> 【参考書】<br/> ・諸富祥彦・富田久枝『保育現場で使えるカウンセリング・テクニック (全 2 巻)』ぎょうせい、2015 年。</p>   |         |   |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法       | <p>○成績評価の規準<br/> 1. 授業に熱心に取り組み、積極的に発言・発表・ノート作りをしたか。<br/> 2. レポートは、要点を分かりやすくまとめる力がついたか。<br/> ○評定の方法<br/> 授業への参加度 (学習態度、発表、ノート等) 50%<br/> レポート課題 50%</p>  |         |   |
| 12. 受講生へのメッセージ          | <p>保育・教育だけでなく、家庭や職場、地域での人間関係につまずいて様々な課題を抱えている。本科目では、カウンセリングの理論と方法を学ぶことを通して人間関係の改善につなげようとするものである。職場内での関係性、子どもや保護者との関係性をどのように持つことがよいのか、カウンセリングの演習を通してカウンセリングの態度やスキルを楽しく体験的に学べる授業にしていきたい。</p>    |         |   |
| 13. オフィスアワー             | 第 1 回の時に知らせる。連絡先 yae123@nifty.com   |         |   |
| 14. 授業展開及び授業内容          |   |         |   |
| 講義日程                    | 授業内容  | 学習課題    |   |
| 第 1 回                   | オリエンテーション: カウンセリングとは何か  | 事前学習    | シラバスを読んで、自分の関心のあるところを説明できるようにしておく。                                    |
|                         |   | 事後学習    | カウンセリングについて説明できるように、アサイメントシートにまとめ、確認テストの準備をする。                        |
| 第 2 回                   | 人間関係を改善のために<br>～対人認知や自己認知の変化の取り組み～  | 事前学習    | 教科書 pp. 2～6 を読んで認知療法や論理情動行動療法について調べ、説明できるようにアサイメントシートにまとめておく。         |
|                         |   | 事後学習    | 人間関係改善にかかわる様々な心理療法について説明できるように、アサイメントシートにまとめ、確認テストの準備をする。             |
| 第 3 回                   | カウンセリングの理論<br>～なぜ来談者中心カウンセリングなのか～   | 事前学習    | 教科書 pp. 7～12 を読んでロジャーズや来談者中心カウンセリングについて調べ、説明できるようにアサイメントシートにまとめておく。   |
|                         |   | 事後学習    | 来談者中心カウンセリングの重要性や長所、短所について説明できるように、アサイメントシートにまとめ、確認テストの準備をする。         |
| 第 4 回                   | カウンセラーの基本的な態度とカウンセリングの流れ<br>～場面構成及び傾聴、共感の重要性～   | 事前学習    | 教科書 pp. 13～17 を読んで場面構成や傾聴、共感を調べ説明できるようにアサイメントシートにまとめておく。              |
|                         |   | 事後学習    | カウンセラーの基本的な態度とカウンセリングの流れで学んだことについて説明できるように、アサイメントシートにまとめ、確認テストの準備をする。 |
| 第 5 回                   | カウンセリング演習①<br>ラポール形成のレッスン   | 事前学習    | 教科書 pp. 20～25 を読んでラポール形成を調べ、説明できるようにアサイメントシートにまとめておく。                 |
|                         |   | 事後学習    | ラポール形成のレッスンで学んだことについて説明できるように、アサイメントシートにまとめ、確認テストの準備をする。              |

|      |   |      |  |
|------|---|------|--|
| 第6回  | カウンセリング演習②<br>ことばによるコミュニケーションのレッスン            | 事前学習 | 教科書 pp. 26～32 を読んでことばによるコミュニケーションを調べ、説明できるようにアサシメントシートにまとめておく。         |
|      |   | 事後学習 | ことばによるコミュニケーションのレッスンで学んだことについて説明できるように、アサシメントシートにまとめ、確認テストの準備をする。      |
| 第7回  | カウンセリング演習③<br>非言語によるコミュニケーションのレッスン            | 事前学習 | 教科書 pp. 32～38 を読んで非言語によるコミュニケーションを調べ、説明できるようにアサシメントシートにまとめておく。         |
|      |   | 事後学習 | 非言語によるコミュニケーションのレッスンで学んだことについて説明できるように、アサシメントシートにまとめ、確認テストの準備をする。      |
| 第8回  | カウンセリング演習④<br>グループでのロールプレイのレッスン               | 事前学習 | 教科書 pp. 39～45 を読んでロールプレイを調べ、説明できるようにアサシメントシートにまとめておく。                  |
|      |   | 事後学習 | ロールプレイのレッスンで学んだことについて説明できるように、アサシメントシートにまとめ、確認テストの準備をする。               |
| 第9回  | カウンセリング演習⑤<br>カウンセリングスキルのレッスン (1)<br>～共感と純粋性～ | 事前学習 | 教科書 pp. 46～60 を読んで共感と純粋性を調べ、説明できるようにシートにまとめておく。                        |
|      |   | 事後学習 | 共感と純粋性のレッスンで学んだことについて説明できるように、アサシメントシートにまとめ、確認テストの準備をする。               |
| 第10回 | カウンセリング演習⑥<br>カウンセリングスキルのレッスン (2)<br>～沈黙とリード～ | 事前学習 | 教科書 pp. 60～67 を読んで沈黙とリードを調べ、説明できるようにアサシメントシートにまとめておく。                  |
|      |   | 事後学習 | 沈黙とリードのレッスンで学んだことについて説明できるように、アサシメントシートにまとめ、確認テストの準備をする。               |
| 第11回 | カウンセリング演習⑦<br>カウンセリングスキルのレッスン (3)<br>～繰り返し～   | 事前学習 | 教科書 pp. 68～70 を読んで繰り返しを調べ、説明できるようにアサシメントシートにまとめておく。                    |
|      |   | 事後学習 | 繰り返しのレッスンで学んだことについて説明できるように、アサシメントシートにまとめ、確認テストの準備をする。                 |
| 第12回 | カウンセリング演習⑧<br>カウンセリングスキルのレッスン (4)<br>～明確化～    | 事前学習 | 教科書 pp. 70～76 を読んで明確化を調べ、説明できるようにアサシメントシートにまとめておく。                     |
|      |   | 事後学習 | 明確化のレッスンで学んだことについて説明できるように、アサシメントシートにまとめ、確認テストの準備をする。                  |
| 第13回 | カウンセリング演習⑨<br>カウンセリングスキルのレッスン (5)<br>～対決と直面～  | 事前学習 | 教科書 pp. 76～85 を読んで対決と直面を調べ、説明できるようにアサシメントシートにまとめておく。                   |
|      |   | 事後学習 | 対決と直面のレッスンで学んだことについて説明できるように、アサシメントシートにまとめ、確認テストの準備をする。                |
| 第14回 | カウンセリング演習⑩<br>カウンセリングスキルのレッスン (6)<br>～支持～     | 事前学習 | 教科書 pp. 85～93 を読んで支持を調べ、説明できるようにアサシメントシートにまとめておく。                      |
|      |   | 事後学習 | 支持のレッスンで学んだことについて説明できるように、アサシメントシートにまとめ、確認テストの準備をする。                   |
| 第15回 | まとめ 授業及びカウンセリングスキルの振り返り                       | 事前学習 | これまでに学んだカウンセリングに関することで印象に残っていることや不明確なことを振り返り、説明できるようにアサシメントシートにまとめておく。 |
|      |   | 事後学習 | 課題レポートを指定された日までに文書で提出できるようにする。   |
| 期末試験 |   |      |  |



|                         |   |         |  |
|-------------------------|---|---------|--|
| 1. 科目名 (単位数)            | 図画工作 I (2 単位)   | 3. 科目番号 | JNNT1114                                     |
| 2. 授業担当教員               | 井上 昌樹   |         |  |
| 4. 授業形態                 | 実技、講義   | 5. 開講学期 | 秋期   |
| 6. 履修条件・他科目との関係         | 図画工作 I → 図画工作 II の履修が望ましい   |         |  |
| 7. 講義概要                 | 乳・幼児の造形の特徴および幼児教育における造形活動の役割を理解することを目的とする。また、具体的な素材体験や題材研究を通して、造形に関する用具・道具の基礎的知識・技能の習得をめざす。併せて、乳幼児の感性や創造性を受け止められるよう、保育者自身の感性と創造性を育成する。  |         |  |
| 8. 学習目標                 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳・幼児期の造形および表現による「遊び」と「学び」の特色について理解できる。</li> <li>2. 乳・幼児の各発達段階における身体性・造形表現の特質を理解し、具体的な手立てを考えることができる。</li> <li>3. 素材や用具・道具の理解・技能の習得を通して、安全面に配慮した造形活動を構想することができる。</li> <li>4. 乳・幼児の感性や創造性を受け止められる保育者になれるよう、自身の感覚をはたかせることができる。</li> <li>5. 乳・幼児の感性や創造性をひらく造形活動の展開を構想できるようにする。</li> </ol>  |         |  |
| 9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ポートフォリオ (振り返りカード) の作成と提出</li> <li>2 【レポート課題】「保育者や教師が材料研究をすることの重要性について、授業での体験を例示しながら、自身の考えを述べなさい。」…1200字程度</li> </ol>   |         |  |
| 10. 教科書・参考書・教材          | 【教科書】大橋功監修編著、新聞伸也他編著『美術教育概論 (新訂版)』日本文教出版<br>【教材・道具など】各自で準備が必要なものは事前に通知する。   |         |  |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法       | ○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳・幼児期の造形および表現による「遊び」と「学び」の特色について理解できたか。</li> <li>2. 乳・幼児の各発達段階における身体性・造形表現の特質を理解し、具体的な手立てを考えることができたか。</li> <li>3. 素材や用具・道具の理解・技能の習得を通して、安全面に配慮した造形活動を構想することができたか。</li> <li>4. 乳・幼児の感性や創造性を受け止められる保育者になれるよう、自身の感覚をはたかせることができたか。</li> <li>5. 乳・幼児の感性や創造性をひらく造形活動の展開を構想できたか。</li> </ol> ○評定の方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>●授業への取り組み・態度 30% : 欠席 - 2%、遅刻 - 1% の減点法で評価する。</li> <li>●ポートフォリオ 40% : 授業と学習の記録、学習のふり返り、自己評価が毎時間記載されているか。</li> <li>●レポート 30% : 設題に対し、自分のことばで考えをまとめることができているか。</li> </ul> |         |  |
| 12. 受講生へのメッセージ          | 現代の情報化が進化した社会環境において子どもの実体験不足が叫ばれています。幼少期における多様な素材体験や造形体験が子どもの豊かな人間的成長を促してくれます。この授業では、様々な造形体験を通して、造形に関する用具・道具の基礎的知識・技能の習得をめざすと同時に、乳幼児の感性や創造性を受け止められるよう、保育者自身の感性と創造性を育みます。  |         |  |
| 13. オフィスアワー             | 別途通知する。   |         |  |
| 14. 授業展開及び授業内容          |   |         |  |
| 講義日程                    | 授業内容  | 学習課題    |  |
| 第 1 回                   | ガイダンス<br>幼児の造形表現を学ぶとは、保育者の役割とは  | 事前学習    | ・自身の造形体験を振り返る。                               |
|                         |   | 事後学習    | ・学習内容を振り返りカードにまとめる。                          |
| 第 2 回                   | 造形遊び①「フィンガーペインティング ～自分を感じる～」(講義+演習)   | 事前学習    | ・テキスト第 II 部第 2 章 pp. 52-55 を読む。              |
|                         |   | 事後学習    | ・学習内容を振り返りカードにまとめる。                          |
| 第 3 回                   | 造形遊び②「フロッタージュ ～環境との関わりを深める～」(講義+演習)   | 事前学習    | ・テキスト第 II 部第 4 章第 1 節および第 2 節 pp. 68-70 を読む。 |
|                         |   | 事後学習    | ・学習内容を振り返りカードにまとめる。                          |
| 第 4 回                   | 造形遊び③「紙をつかった造形 ～マイナスの造形とプラスの造形～」(講義+演習)   | 事前学習    | ・テキスト第 II 部第 4 章第 3 節および第 4 節 pp. 70-73 を読む。 |
|                         |   | 事後学習    | ・学習内容を振り返りカードにまとめる。                          |
| 第 5 回                   | 幼児造形の理解 (講義)  | 事前学習    | ・テキスト第 II 部第 3 章 pp. 56-67 を読む。              |
|                         |   | 事後学習    | ・学習内容を振り返りカードにまとめる。                          |
| 第 6 回                   | 材料研究①-1 生活廃材を使った造形表現 (講義+演習)  | 事前学習    | ・材料を集める。                                     |
|                         |   | 事後学習    | ・学習内容を振り返りカードにまとめる。                          |
| 第 7 回                   | 材料研究①-2 生活廃材を使った造形表現 (演習+プレゼンテーション)   | 事前学習    | ・集めた材料でできる造形活動をグループごとにまとめる。                  |
|                         |   | 事後学習    | ・学習内容を振り返りカードにまとめる。                          |
| 第 8 回                   | 材料研究②-1 粘土を使った造形表現 (講義+演習)  | 事前学習    | ・配布資料を読む。                                    |
|                         |   | 事後学習    | ・学習内容を振り返りカードにまとめる。                          |
| 第 9 回                   | 材料研究②-2 粘土を使った造形表現 (演習+プレゼンテーション)   | 事前学習    | ・粘土表現の可能性についてグループごとにまとめる。                    |
|                         |   | 事後学習    | ・学習内容を振り返りカードにまとめる。                          |
| 第 10 回                  | 材料研究③-1 絵の具を使った造形表現 (講義+演習)   | 事前学習    | ・絵の具を使った表現技法を 3 つ調べてくる。                      |
|                         |   | 事後学習    | ・学習内容を振り返りカードにまとめる。                          |

|      |  |      |  |
|------|--|------|--|
| 第11回 | 材料研究③-2 絵の具を使った造形表現（演習＋プレゼンテーション）              | 事前学習 | ・絵の具表現の可能性についてグループごとにまとめる。             |
|      |  | 事後学習 | ・学習内容を振り返りカードにまとめる。                    |
| 第12回 | 題材開発①材料の表現可能性の探求（グループ学習）                       | 事前学習 | ・グループごとに取り組みたい材料を決め、材料研究できる十分な量を集めてくる。 |
|      |  | 事後学習 | ・学習内容を振り返りカードにまとめる。                    |
| 第13回 | 題材開発②材料の題材化（グループ学習）                            | 事前学習 | ・第12回で撮った写真を模造紙貼付用にプリントアウトしてくる。        |
|      |  | 事後学習 | ・学習内容を振り返りカードにまとめる。                    |
| 第14回 | 題材開発③題材のプレゼンテーション（グループ学習）                      | 事前学習 | ・発表用模造紙を完成させ、発表の準備をする。                 |
|      |  | 事後学習 | ・学習内容を振り返りカードにまとめる。                    |
| 第15回 | 授業のまとめと振り返り<br>「造形表現を育むものとして子どもと向き合う保育者の基本的姿勢」 | 事前学習 | ・これまでの学習内容を整理し、ポートフォリオにまとめてくる。         |
|      |  | 事後学習 | ・授業での学んだことをもとにレポート課題に取り組む。             |

|                         |  |         |                          |
|-------------------------|--|---------|--------------------------|
| 1. 科目名 (単位数)            | 図画工作Ⅱ (2単位)  | 3. 科目番号 | JENT2515<br>JNNT1515     |
| 2. 授業担当教員               | 井上 昌樹  |         |                          |
| 4. 授業形態                 | 実技、講義  | 5. 開講学期 | 秋期                       |
| 6. 履修条件・他科目との関係         | 図画工作Ⅰ→図画工作Ⅱの順で履修するのが望ましい。  |         |                          |
| 7. 講義概要                 | 図画工作Ⅰを踏まえ、より実践的な題材例に取り組むことを通して、幼児の造形の特徴および幼児教育における造形活動の役割を理解していくとともに、具体的な造形活動の展開について構想・実践することを通して、保育の実践力を高めていく。併せて、乳幼児の感性や創造性を受け止められるよう、保育者自身の感性と創造性を育成する。   |         |                          |
| 8. 学習目標                 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳・幼児期の造形および表現による「遊び」と「学び」の特徴について理解できる。</li> <li>2. 乳・幼児の各発達段階における身体性・造形表現の特質を理解し、具体的な手立てを考えることができる。</li> <li>3. 素材や用具・道具の理解・技能の習得を通して、安全面に配慮した造形活動を構想することができる。</li> <li>4. 乳・幼児の感性や創造性を受け止められる保育者になれるよう、自身の感覚をはたかせることができる。</li> <li>5. 乳・幼児の感性や創造性をひらく造形活動の展開を構想できるようにする。</li> </ol>   |         |                          |
| 9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ポートフォリオ (振り返りカード) の作成と提出</li> <li>2 【レポート課題】「幼児の特定の発達段階を対象とした造形活動を構想し、そこでの保育者・教師の直接的・間接的援助を、具体例を示しながら述べなさい。」…1200字程度</li> </ol>   |         |                          |
| 10. 教科書・参考書・教材          | <b>【教科書】</b> 槇英子『保育をひらく造形表現』萌文書林<br><b>【教材・道具など】</b> 各自で準備が必要なものは事前に通知する   |         |                          |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法       | ○成績評価の規準<br><ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳・幼児期の造形および表現による「遊び」と「学び」の特徴について理解できたか。</li> <li>2. 乳・幼児の各発達段階における身体性・造形表現の特質を理解し、具体的な手立てを考えることができたか。</li> <li>3. 素材や用具・道具の理解・技能の習得を通して、安全面に配慮した造形活動を構想することができたか。</li> <li>4. 乳・幼児の感性や創造性を受け止められる保育者になれるよう、自身の感覚をはたかせることができたか。</li> <li>5. 乳・幼児の感性や創造性をひらく造形活動の展開を構想できたか。</li> </ol> ○評定の方法<br>●授業への取り組み・態度 30%：欠席－2%、遅刻－1%の減点法で評価する。<br>●ポートフォリオ 40%：授業と学習の記録、学習のふり返り、自己評価が毎時間記載されているか。<br>●レポート 30%：設題に対し、自分のことばで考えをまとめることができているか。 |         |                          |
| 12. 受講生へのメッセージ          | 現代の情報化が進化した社会環境において子どもの実体験不足が叫ばれています。幼少期における多様な素材体験や造形体験が子どもの豊かな人間の成長を促してくれます。この授業では、様々な造形体験を通して、造形に関する用具・道具の基礎的知識・技能の習得をめざすとともに、乳幼児の感性や創造性を受け止められるよう、保育者自身の感性と創造性を育みます。   |         |                          |
| 13. オフィスアワー             | 別途通知する。  |         |                          |
| 14. 授業展開及び授業内容          |  |         |                          |
| 講義日程                    | 授業内容   | 学習課題    |                          |
| 第1回                     | ガイダンス：造形表現における援助のあり方について (ディスカッション)  | 事前学習    | ・テキストを一通り確認しておく。         |
|                         |  | 事後学習    | ・学習内容を振り返りカードにまとめる。      |
| 第2回                     | 自然素材を使った造形 (講義＋演習)   | 事前学習    | ・テキスト第3章④pp. 57-59を読む。   |
|                         |  | 事後学習    | ・学習内容を振り返りカードにまとめる。      |
| 第3回                     | 造形と音楽～手づくり楽器の製作～ (講義＋演習)   | 事前学習    | ・テキスト第6章①pp. 127-140を読む。 |
|                         |  | 事後学習    | ・学習内容を振り返りカードにまとめる。      |
| 第4回                     | 動きを生かしたおもちゃの製作① (講義＋演習)  | 事前学習    | ・テキスト第6章②pp. 141-154を読む。 |
|                         |  | 事後学習    | ・学習内容を振り返りカードにまとめる。      |
| 第5回                     | 動きを生かしたおもちゃの製作② (講義＋演習)  | 事前学習    | ・授業内で終わらなかった製作を進める。      |
|                         |  | 事後学習    | ・学習内容を振り返りカードにまとめる。      |
| 第6回                     | 造形活動における季節感と壁面構成① (講義＋演習)  | 事前学習    | ・テキスト第6章③pp. 155-165を読む。 |
|                         |  | 事後学習    | ・学習内容を振り返りカードにまとめる。      |
| 第7回                     | 造形活動における季節感と壁面構成② (講義＋演習)  | 事前学習    | ・グループごとに必要な材料を集める。       |
|                         |  | 事後学習    | ・学習内容を振り返りカードにまとめる。      |
| 第8回                     | 造形活動における季節感と壁面構成③ (プレゼンテーション)  | 事前学習    | ・グループごとに製作を進める。          |
|                         |  | 事後学習    | ・学習内容を振り返りカードにまとめる。      |
| 第9回                     | 年少児を対象とした造形表現題材① (講義＋演習)   | 事前学習    | ・年少児の発達段階についてまとめる。       |
|                         |  | 事後学習    | ・学習内容を振り返りカードにまとめる。      |
| 第10回                    | 年少児を対象とした造形表現題材② (講義＋演習)   | 事前学習    | ・グループごとに題材に必要な材料を集める。    |
|                         |  | 事後学習    | ・学習内容を振り返りカードにまとめる。      |
| 第11回                    | 年少児を対象とした造形表現題材③ (プレゼンテーション)   | 事前学習    | ・グループごとに題材案をまとめる。        |
|                         |  | 事後学習    | ・学習内容を振り返りカードにまとめる。      |
| 第12回                    | 年長児を対象とした造形表現題材① (講義＋ディスカッション)   | 事前学習    | ・年長児の発達段階についてまとめる。       |
|                         |  | 事後学習    | ・学習内容を振り返りカードにまとめる。      |

|      |                             |      |                              |
|------|-----------------------------|------|------------------------------|
| 第13回 | 年長児を対象とした造形表現題材②（講義＋演習）     | 事前学習 | ・グループごとに題材に必要な材料を集める。        |
|      |                             | 事後学習 | ・学習内容を振り返りカードにまとめる。          |
| 第14回 | 年長児を対象とした造形表現題材③（プレゼンテーション） | 事前学習 | ・グループごとに題材案をまとめる。            |
|      |                             | 事後学習 | ・学習内容を振り返りカードにまとめる。          |
| 第15回 | 授業のまとめとふりかえり                | 事前学習 | ・これまでの学習内容を整理し、ポートフォリオにまとめる。 |
|      |                             | 事後学習 | ・授業での学んだことをもとにレポート課題に取り組む。   |

|   |   |         |          |
|---|---|---------|----------|
| 1. 科目名 (単位数)  | 専門演習Ⅱ (2単位)   |         |          |
| 2. 授業担当教員   | 井上 昌樹、酒井 博美、佐藤 友樹、鈴木 美子、高木 麻衣子、田口 雅夫、中村 裕、西田 太郎、林 麻由美、原 久美子、本野 洋子、森 正人、八重樫 幸雄、山口 恵美子、山本 健志郎   | 3. 科目番号 | JNPR2102 |
| 4. 授業形態   | 演習  | 5. 開講学期 | 秋期       |
| 6. 履修条件・他科目との関係   | 「専門演習Ⅰ」を履修していること。   |         |          |
| 7. 講義概要   | 本授業では、これまでの大学での授業や実習中の体験から学んできた子どもや子育て、家族、保育・幼児教育などから各ゼミ共通のテーマを選択して協働研究し、その成果を口頭発表やポスター発表、パフォーマンスの上演などの方法で発表することを通して、現代社会のニーズにかなわった「こどもの専門家」としての専門性を高めることを目的とする。<br>なお、本授業は原則として本科目担当教員が分担して受け持ち、ゼミ形式で行うが、内容によっては複数ゼミ合同での協働研究・成果発表でもよい。 |         |          |
| 8. 学習目標   | 1. 主体的に調べたり考えたりすることができるようにする。<br>2. 研究を通して理解したことや考察したことを整理して発表できるようにする。<br>3. 選択したテーマに基づく研究内容を説明できるようにする。   |         |          |
| 9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題  | 担当教員による。  |         |          |
| 10. 教科書・参考書・教材  | 特に指定しない。  |         |          |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法   | ○成績評価の規準<br>1. 主体的に調べたり考えたりすることができるようにする。<br>2. 研究を通して理解したことや考察したことを整理して発表できるようにする。<br>3. 選択したテーマに基づく研究内容を説明できるようにする。<br>○評定の方法<br>4分の3の出席を前提に、①課題に取り組む態度30%、②発表の質70%を総合的に判断する。   |         |          |
| 12. 受講生へのメッセージ  | こども学科での学びを活かして、卒業研究に取り組むことを期待する。  |         |          |
| 13. オフィスアワー   | 担当教員による。  |         |          |
| 14. 授業展開及び授業内容  |   |         |          |
| 01  | 井上 昌樹   |         |          |
| 本ゼミでは、世界と響き合える「からだ」(身体感覚)を育むための造形のあり方を探るため、先行研究の調査および幼児を対象としたワークショップの企画・実践を行います。その際、子どもを取り巻く環境の様々な要素(素材)を広く「メディア(媒介物)」と捉え、子どもとメディアの相互的な関係性に焦点を当てます。実践的なゼミのため授業時間外での調査、準備等に費やす時間が多くなります。ゼミでの活動を通して「アートによる学び(Education through Art)」に対する理解を深め、保育現場での実践力を高めることを目指します。  |   |         |          |
| 02  | 酒井 博美   |         |          |
| 近年、保育および幼児教育の現場において、障害児に関する知識やかかわりの実践がますます必要となっています。そこで、本ゼミでは、発達心理学や障害児心理学の知見に基づき、発達障害をもつ子どもについての学びを深めるとともに、そのかかわり方について、音楽を媒体とすることを基本に取り上げたいと思います。実際の活動を考えたり、場合によっては現場に出て実践することにも挑戦してみたいという学生を歓迎します。  |   |         |          |
| 03  | 佐藤 友樹   |         |          |
| 幼児期における様々な運動の体験はとて重要であり、それがこどもの健康問題にも大きく影響してきます。したがって、保育者には「運動」や「健康」について、正しい知識を持つことが必要であるといえます。本授業では、「こども」×「運動」、「こども」×「健康」、「運動」×「健康」などの視点から研究を実施することを目的とします。なお、研究の実施において、授業時間外でのゼミ活動も多くなります。以上のことを踏まえ、受講を希望する学生を歓迎します。  |   |         |          |
| 04  | 鈴木 美子   |         |          |
| 乳幼児期の保育施設では、様々な行事が行われています。子どもの日、十五夜、節分、ハロウィン等々、行事には、それぞれ由来や意味があります。本講座では、保育の現場で実際にどのような行事が行われているかを調べ、自分の興味関心のある行事についてその由来や意味を調べます。<br>そして子どもたちと共に生活する中で、その行事を行うには、どのような環境を用意したらよいかを研究し、手作り教材を作って実践できるようにし、発表し合うことで学び合ひましょう。研究の内容は紙媒体に編集し、メンバーの共有資料にいたしましょう。   |   |         |          |
| 05  | 高木 麻衣子  |         |          |
| 本授業では、受講前までに習得してきたピアノ演奏技術を更に発展させ、ピアノ演奏の可能性を追求します。具体的には、連弾等(1台4手、1台6手、1台8手等)を体験し、アンサンブル能力を高めることにより、『音楽を皆で感じる喜び』、『相手と呼吸を合わせる楽しみ』を学びます。保育現場では、ピアノを弾きながら様々なことを同時にこなす力が必要となります。そのような実践での応用力を養うために、連弾を用い、音楽を多角的に捉えることを目標とします。また、授業最終日にゼミ発表として、学習した曲目の発表会を行います。ピアノの技術向上を望んでおり、通常授業以外の曲目を幅広く学びたい学生であれば、進度は問いません。<br>※田口ゼミとの協働研究・成果発表を予定しています。 |   |         |          |

|    |        |  |
|----|--------|--|
| 06 | 田口 雅夫  | この授業は、保育現場で日常的に行われている、手あそび・身体あそび・リズムあそび等の「音楽あそび」の創作を行います。保育の現場では様々な音楽あそびが行われていますが、その多くは既に子ども達が知っているもののようです。そこで、本ゼミではオリジナルの「音楽あそび」を創作し、それを基に子どもの年齢や遊びの形態による変化等、展開方法の研究を行い、実習の場で子ども達と楽しく実践できることを目標とします。  |
| 07 | 中村 裕   | 近年、子どもの体力・運動能力の低下が問題となっています。その背景には外あそびに不可欠な要素の減少や子どもを取り巻く環境の問題、生活全体の変化、生活習慣の乱れが主な原因とされています。この授業では「健康」に焦点をあて、子どもにとって健康そのものを追求していきたいと思っています。健康に必要な大きな要素として身体活動、生活習慣の知識を習得し、子どもが健康な生活を送るためにはどのような支援が必要なのかを各グループで研究、発表します。また、演習授業として身体活動や運動遊びにおける指導技術も習得します。   |
| 08 | 西田 太郎  | 読書の入り口として、絵本はとても重要な役割を果たしています。絵本では、文字の大きさや色、フォント、絵との関連など、言葉は様々な形式で子どもたちに届きます。しかし、小学校で使用する教科書掲載の物語は、統一された書式によって整然としたカタチで並びます。就学によって子どもたちが出会う物語のカタチは、それまでのものと大きな隔たりがあるということです。本ゼミでは、様々な絵本における言葉の提示方法を参考にしながら、未就学児の出会う物語に新しいカタチを創っていきます。  |
| 09 | 林 麻由美  | 本授業では、子どもの表現を支える保育者としての総合的な表現力（身体表現、言語表現、音楽表現、造形表現）を高めるために、様々な表現活動の中から関心のあるテーマを見つけ出し、演習、研究を深めていきましょう。そしてその表現活動を保育現場で活かせるように練習を繰り返し、一人一人の学生が、子ども達の前で表現することの楽しさを実感できるように、またその楽しさを子ども達にも伝えられるようにしていきましょう。今年度は、特に「歌唱」に興味のある学生を歓迎します。   |
| 10 | 原 久美子  | 保育現場では日常的、かつ様々な行事に合わせて音楽活動が行われています。そのため、保育者には音楽の楽しさを味わい表現できる「技術」と豊かな「感性」が求められます。本演習では、これまでに習得したピアノの実技の技術を発展させ、ゼミメンバーと協同で音楽表現活動の実践（連弾等）を行います。取り組むテーマや楽曲については春期中に相談し、メンバーの関心に基づき決定します。実践的な演習となるため演習以外での準備時間が必要となります。発表に向け意見を出し合い、より良いものに改善していくという過程を通し、音楽表現という角度から保育の表現技術を高めていくことを目標としています。        |
| 11 | 本野 洋子  | この授業では保育現場における音楽についての調査・研究をします。こどもと音楽にはどのような関わりがあるか、こどもの歌、リズム遊び、手遊び歌など実践的なものから、ピアノ演奏法、発声、音楽理論、リトミックなどの方法論まで、幅広い視点の中から自分で関心のあるテーマを見つけ、調査・研究をしていきます。開講時間は相談したうえで決定します。   |
| 12 | 森 正人   | 幼児教育の現場では、工作などの活動が行われる事が多いです。ゼミでは、将来、現場に出たときに役立つような工作に関する技能等を取り扱います。工作技能の検討においては、理論等の机上学習のみでは理解や、自身の考えに深みが出ません。そこで、実際の基本的な工作体験も通して理解を深めていきます。  |
| 13 | 八重樫 幸雄 | 本ゼミでは、福祉の心を持ち、子どもや保護者の気持ちを理解でき、気概をもって働ける人を目指して卒業研究に取り組みます。インクルージョンとしてのムーブメント教育・療法、障がい児者への支援や親への教育相談、園の相談体制などについて、現場でのフィールドワークも取り入れながら調査・研究に取り組みます。また、幼稚園や保育園、放課後デイサービスなどへ向かって、ムーブメント教育・療法の実習にも取り組みます。これまでの卒論テーマとしては「保育におけるムーブメント教育の活用」「親の障害受容過程について」「現代の障がい児保育とリトミック」「障害者総合支援法から支援につなげる」などがあります。 |
| 14 | 山口 恵美子 | 子どもにとって遊びは、発達の原動力となります。保育者は、子どもの「面白そう」という気持ちを大切に、その場に即した実践力が求められています。本演習では、保育現場に直結する保育技術について取り上げていきます。保育者として必要となる知識、技術を深め、保育現場で即役立つ内容、応用力を身に付けられるような実践研究を行っていきます。様々な保育技術の中で、興味や関心のある方向性に沿った内容を深めていきます。   |
| 15 | 山本 健志郎 | 乳幼児期は子どもの生涯において重要な時期であり、子どもと関わる保育者は特に影響力があります。子どもたちのためにより良い保育を行うには保育者に「知識」と「実践力」が求められます。本ゼミでは幼児教育をテーマに個々の学生の興味を基にした調査・研究を行ってもらい、ゼミ活動を通して「保育に関する基礎知識」、「実践力の向上」、「保育者としての自己研鑽力」を身につけてもらいたいと思っています。積極的に楽しんで取り組む姿勢で臨んでください。   |

|   |  |         |          |
|---|--|---------|----------|
| 1. 科目名 (単位数)  | 専門演習Ⅱ (2単位)  | 3. 科目番号 | JEPR3102 |
| 2. 授業担当教員   | 長谷川 有香、福島 裕、堀 聡子、松本 岳志、山内 健次   |         |          |
| 4. 授業形態   | 演習   | 5. 開講学期 | 秋期       |
| 6. 履修条件・他科目との関係   | 「専門演習Ⅰ」を履修していること。  |         |          |
| 7. 講義概要   | 本授業では、これまでの大学での授業や実習中の体験から学んできた子どもや子育て、家族、保育・幼児教育などのテーマを中心に、専門演習Ⅰで学んだ研究手法を基に研究し、レポートを作成することを通して、現代社会のニーズにかなった「こどもの専門家」としての専門性を高めることを目的とする。選択したテーマについて、①自分で調べて、②考察し、③考えたことを整理して他人に伝えるという経験を通して、子ども・子育てに関する課題を理解し、知識を深められるようにする。<br>なお、本授業は、原則として本科目担当教員が分担して受け持ち、ゼミ形式で行う。 |         |          |
| 8. 学習目標   | 1. 主体的に調べたり考えたりすることができるようにする。<br>2. 研究を通して理解したことや考察したことを整理してレポートにまとめることができるようにする。<br>3. 自分が選択したテーマや作成したレポートの内容を説明することができるようにする。  |         |          |
| 9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題  | 担当教員による。   |         |          |
| 10. 教科書・参考書・教材  | 特に指定しない。   |         |          |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法   | ○成績評価の規準<br>1. 主体的に調べたり考えたりすることができるか。<br>2. 研究を通して理解したことや考察したことを整理してレポートにまとめることができるか。<br>3. 自分が選択したテーマや作成したレポートの内容を説明することができるか。<br>○評定の方法<br>4分の3の出席を前提に、①課題に取り組む態度30%、②レポートの質70%を総合的に判断する。  |         |          |
| 12. 受講生へのメッセージ  | 3年間子ども学科で学んできた成果を活かして卒業研究的に取り組むことを期待する。  |         |          |
| 13. オフィスアワー   | 担当教員による。   |         |          |
| 14. 授業展開及び授業内容  |  |         |          |
| 01  | 長谷川 有香   |         |          |
| 本ゼミでは、今日の子どもや家庭を取り巻く諸問題について、心理学的な手法を用いて検討していきます。テーマの内容は、子どもの発達や、育児ストレスや仕事と家庭の両立などの現代の子育て世代を取り巻く諸問題、あるいは青年や成人のキャリア発達といった内容を中心に、各自の関心に応じて決定されます。本演習では、文献調査やデータの収集・分析を通して、自らの主張を他者にわかりやすく伝えることが求められます。偏見や思い込みにとらわれず、根拠に基づき論理的に物事を考える態度や、答えのない様々な社会的問題について、問題の中心を見抜き、それに対する解決方法を考える力を高めることを目指します。   |  |         |          |
| 02  | 福島 裕   |         |          |
| 保育者や教師の視点から幼児・児童を取り巻く教育環境を概観するとき、教育制度や経済格差等の社会的な問題、虐待やいじめ、養育等に関する人権問題、子どもの権利条約の周知・・・等様々な課題が見えてきます。また、教育環境の一つとして指導者として自らの資質や能力についての課題も浮かび上がってきます。子ども達の教育環境を、広い視野から認識を深めるとともに、身近な視点からも捉えながら、ゼミ生が取材や議論を通して各自の課題に向き合い、考察を深めていきます。   |  |         |          |
| 03  | 堀 聡子   |         |          |
| 本演習では、今日の子ども・子育ての状況とその背景にある社会環境の変化について理解したうえで、現代社会における子ども・子育てをめぐる問題に取り組めます。例えば、育児不安、児童虐待、仕事と子育ての両立困難、子どもの貧困、多文化保育・子育てなど課題は多岐にわたっています。各自が最も関心のあるテーマを選び、調査研究を行い、卒業レポートにまとめることで、知識、理解を深めていきます。   |  |         |          |
| 04  | 松本 岳志  |         |          |
| 保育所、幼稚園、認定こども園や小学校では、日常的に歌唱、器楽、鑑賞などの音楽活動が盛んに行われています。このゼミにおける研究分野は、乳幼児や児童を対象とした「音楽教育」です。ただ一言で音楽教育といっても、その研究分野におけるテーマは様々です。歌唱指導、器楽指導、音楽教材、子どもの音楽的発達、リズム学習、音感教育、子どもの歌（その作曲家や作詞者を含む）、わらべうた、療法的音楽活動、音楽教育の本質と意義、音楽教育メソッド（リトミック等）、諸外国の音楽教育、音楽教育におけるICT活用、教材としてのポピュラー音楽、音楽教育史等々、枚挙にいとまがないと言えます。本ゼミにおいて研究活動を行う者は、春期中にゼミ担当教員と相談しながら自分の興味あるテーマを決定し、そのテーマに合った調査・研究を行っていきます。 |  |         |          |
| 05  | 山内 健次  |         |          |
| 現代社会に生きる子どもたちは、昔の生活は異なった生活時間で過ごすようになり多くの問題を抱えるようになりました。例えば夜も眠気がなく就寝時間が短くなっている、お腹があまり減らないので朝食を摂らない、朝から活気がなくぼっとしている（これらを不定愁訴と呼んでいます）。これらは子どもたちの身体活動量が極端に減少していることが、大きな原因となっていると言われてます。この演習では、子どもたちが楽しく身体を使って楽しめる遊びを学生自身が現場で提供できるよう、その引き出しを多く持ってもらうことを目的としています。   |  |         |          |

|                                 |   |         |   |
|---------------------------------|---|---------|---|
| 1. 科目名 (単位<br>数)                | 多文化コミュニケーション (2単位)  | 3. 科目番号 | GELA1336<br>GELA1329<br>GELA1136<br>JNGL2309              |
| 2. 授業担当教員                       | 志手 和行   |         |   |
| 4. 授業形態                         | 講義、ペアワーク、グループディスカッション、グループ発表  | 5. 開講学期 | 秋期  |
| 6. 履修条件・<br>他科目との関係             | 多文化理解入門を受講していることが望ましい。  |         |   |
| 7. 講義概要                         | グローバル化が進むにつれ、異なる母語・習慣・価値観をもった人たちが同士の多文化コミュニケーションは日常的になりつつある。本講義は、自分の視野をこのような多文化「共生社会」にむけて広げ、必要とされるコミュニケーション能力を修得することを目的とする。具体的には、多文化コミュニケーションを構成する「言語」「コミュニケーション」「文化」の3つの基本的概念を理解し、多文化コミュニケーションのしくみを理解する。次に、様々なコミュニケーション活動や教科書のエクササイズを行い、多文化コミュニケーションのスキルを理解し養っていく。最後にグローバル時代における多文化コミュニケーションの役割と多文化共生の在り方について自分なりの意見を発信する。   |         |   |
| 8. 学習目標                         | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多文化コミュニケーションを構成する基本概念とそのしくみについて理解する。</li> <li>2. 多文化コミュニケーションのスキルを理解し身につける。</li> <li>3. グローバル時代の多文化コミュニケーションの役割と多文化共生の在り方について自分の意見を発信できる。</li> </ol>  |         |   |
| 9. アサインメント<br>(宿題) 及びレポ<br>ート課題 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前学習課題として指定された教科書の課題を実施した上で授業に臨むこと。</li> <li>2. 事後学習課題では、授業内で扱った内容の理解を定着できるよう教科書を再度よく読み、各章に応じて作成された「振り返りプリント」に取り組むこと。</li> <li>3. グループ発表は、「グローバル時代の多文化コミュニケーション」をテーマとして1グループ5人を限度として10分程度の発表をグループで行うこととする。詳細は授業時に説明する。</li> </ol>   |         |   |
| 10. 教科書・参考<br>書・<br>教材          | <b>【教科書】</b> 八代京子その他著 『異文化コミュニケーションワークブック』 三修社、2001年<br><b>【参考書】</b> 授業時に指示する。  |         |   |
| 11. 成績評価の規準<br>と評定の方法           | ○成績評価の規準<br><ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多文化コミュニケーションを構成する基本概念とそのしくみについて理解できたか。</li> <li>2. 多文化コミュニケーションのスキルを理解し身につけることができたか。</li> <li>3. グローバル時代の多文化コミュニケーションの役割と多文化共生の在り方について自分の意見を発信できたか。</li> </ol> ○評定の方法<br>以下の点を総合して評価する<br><ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業への参加態度 総合点の 30%</li> <li>2 試験 (小テスト・期末テスト・口頭発表試験 等) 総合点の 30%</li> <li>3 提出課題 (レポート等) 総合点の 40%</li> </ol> |         |   |
| 12. 受講生への<br>メッセージ              | グローバル化の進展に伴い、異文化・多文化理解は今後益々重要視されることとなる。「文化」という用語に我々は日常当たり前のように接するが、それを定義することは容易でない。よって「異文化・多文化とは何か」という問いは非常に深い思考を必要とする。この授業では、実生活における例を豊富に参照しながら異文化・多文化理解がより身近なものとなるように目指していく。自身の経験を振り返りながら受講生同士で共有する過程を重要視するので、積極的な授業参加を期待する。  |         |   |
| 13. オフィスアワー                     | 第1回の講義の際に指示をする。   |         |   |
| 14. 授業展開及び授業内容                  |   |         |   |
| 講義日程                            | 授業内容  | 学習課題    |   |
| 第1回                             | この科目を受講するにあたっての留意点  | 事前学習    | 教科書の「はじめに」と目次を読み、異文化コミュニケーションについて考えてみる。                   |
|                                 |   | 事後学習    | 講義の流れをつかみ、学習計画を立てる。                                       |
| 第2回                             | 自己紹介1:自由に自分を紹介する  | 事前学習    | 1分間で自己紹介できるよう準備してくる。                                      |
|                                 |   | 事後学習    | 他の学生の自己紹介内容と気づいた点をまとめ整理しておく。                              |
| 第3回                             | 第1章 異文化コミュニケーションとは 1:新しい常識とステレオタイプ(pp. 9-16)  | 事前学習    | 教科書 pp. 9-16の「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を教科書またはノートに書き込んでおく。 |
|                                 |   | 事後学習    | 授業で学んだことを振り返りプリントに記入する。                                   |
| 第4回                             | 第1章 異文化コミュニケーションとは 2:異文化理解への態度(pp. 17-21)   | 事前学習    | pp. 17-21の「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を教科書またはノートに書き込んでおく。    |
|                                 |   | 事後学習    | 授業で学んだことを振り返りプリントに記入する。                                   |
| 第5回                             | 第1章 異文化コミュニケーションとは 3:文化とコミュニケーション(pp. 22-35)  | 事前学習    | pp. 22-35の「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を教科書またはノートに書き込んでおく。    |
|                                 |   | 事後学習    | 授業で学んだことを振り返りプリントに記入する。                                   |



|      |   |      |  |
|------|---|------|--|
| 第6回  | 自己紹介2: お互いの文化を紹介し合う                         | 事前学習 | 今まで学んだことを参考に1分間で自分の文化について紹介できるよう準備してくる。                  |
|      |   | 事後学習 | 様々な学生の自文化紹介内容と気づいた点を振り返りプリントに記入する。                       |
| 第7回  | 第2章 コミュニケーションスタイル: 自己開示とパラ言語 (pp. 46-57)    | 事前学習 | pp. 46-57の「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を教科書またはノートに書き込んでおく。   |
|      |   | 事後学習 | 様々な文化のコミュニケーションスタイルについて気づいたことを振り返りプリントに記入する。             |
| 第8回  | 第3章 言語コミュニケーション 1: ほめ方・叱り方・謝り方 (pp. 61-72)  | 事前学習 | pp. 61-72の「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を教科書またはノートに書き込んでおく。   |
|      |   | 事後学習 | ほめ方・叱り方・謝り方の多様性について気づいたことを振り返りプリントに記入する。                 |
| 第9回  | 第3章 言語コミュニケーション 2: 自己紹介と誘い方・断り方 (pp. 73-77) | 事前学習 | pp. 73-77の「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を教科書またはノートに書き込んでおく。   |
|      |   | 事後学習 | 自己紹介や誘い方・断り方の多様なスタイルについて気づいたことを振り返りプリントに記入する。            |
| 第10回 | 自己紹介3: 自己のコミュニケーションスタイルを意識しながら自己紹介し合う       | 事前学習 | 自分のコミュニケーションスタイルを意識しながら1分間で自己紹介できるよう準備してくる。              |
|      |   | 事後学習 | お互いの自己紹介を通し気づいたコミュニケーションスタイルの文化多様性について振り返りプリントに記入する。     |
| 第11回 | 第4章 非言語コミュニケーション (pp. 81-100)               | 事前学習 | pp. 81-100の「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を教科書またはノートに書き込んでおく。  |
|      |   | 事後学習 | 非言語コミュニケーションの文化多様性について気づいたことを振り返りプリントに記入する。              |
| 第12回 | 第5章 価値観 (pp. 103-113)                       | 事前学習 | pp. 103-113の「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を教科書またはノートに書き込んでおく。 |
|      |   | 事後学習 | 価値観の文化多様性について気づいたことを振り返りプリントに記入する。                       |
| 第13回 | 第7章 異文化コミュニケーションスキル 1: (pp. 137-149)        | 事前学習 | pp. 137-149の「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を教科書またはノートに書き込んでおく。 |
|      |   | 事後学習 | D. I. E. メソッドとアサーティブ・コミュニケーションについて学んだ内容を振り返りプリントに記入する。   |
| 第14回 | 第7章 異文化コミュニケーションスキル 2: (pp. 150-157)        | 事前学習 | pp. 150-157の「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を教科書またはノートに書き込んでおく。 |
|      |   | 事後学習 | エポケーについて学んだ内容を振り返りプリントに記入する。                             |
| 第15回 | グループ発表                                      | 事前学習 | グループ発表のリハーサルをして本番に備える。                                   |
|      |   | 事後学習 | 自分のグループと他グループの発表で得た学びについて整理しておく。                         |

|                         |   |         |  |
|-------------------------|---|---------|--|
| 1. 科目名 (単位数)            | 多文化保育・子育て演習 (2単位)   | 3. 科目番号 | JECC3508<br>JNCC2508                           |
| 2. 授業担当教員               | 堀 聡子  |         |  |
| 4. 授業形態                 | 演習、ディスカッション、グループ学習、発表   | 5. 開講学期 | 秋期   |
| 6. 履修条件・他科目との関係         | 保育内容総論で保育形態を学習しておくことが望ましい。  |         |  |
| 7. 講義概要                 | 国籍、宗教、人種、性別、障害、経済的事情などの背景を交じり合っ形成されるのが「文化」であるとの理解のもとに、それらの違いを子育ての場面で専門家としてどのように扱って親たちを平等に支えていくかをテーマに演習形式で学習する。また現場実習を通して外国籍のこどもや保護者への対応をまなんでいく。   |         |  |
| 8. 学習目標                 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実践の基礎となる「保育観」「児童観」を確認し、説明できる。</li> <li>2. 多様な子育て支援ニーズの実際について理解し、説明できる。</li> <li>3. 児童福祉行政についての問題点や課題を提示し理解を深める。</li> </ol>  |         |  |
| 9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題 | 各自、身近な地域の多文化保育・子育て支援の実態あるいは海外の保育・子育て支援について調査し、発表してもらう。  |         |  |
| 10. 教科書・参考書・教材          | <b>【教科書】</b> 咲間まり子編著『多文化保育・教育論』みらい社。<br><b>【参考書】</b> 『保育所保育指針』、『幼稚園教育要領』。   |         |  |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法       | ○成績評価の規準<br>・多文化共生の視点と多様な福祉ニーズを理解し、説明できるようになったか<br>・多文化保育・教育における保育者・教師の専門性と役割を理解し、実践で活かせるようになったか<br>・多文化保育・教育の課題を理解し、多文化共生に向けて発信できるようになったか<br>○評定の方法<br>・授業への参加姿勢等 20%<br>・多文化保育・子育て支援等についてのプレゼン 50%<br>・レポート 30% |         |  |
| 12. 受講生へのメッセージ          | 日常的な生活のなかで、多文化保育・子育て支援について興味・関心を持ちましょう。例えば、自分が住んでいる町の多文化者の割合を確認したり、多文化保育が記載されている新聞記事や論文を収集したり、県庁や市役所の国際課に行き担当者から多文化保育の現状を聞くなど、常に多文化保育・子育て支援を意識し、関心を持って日常生活を送ってほしい。  |         |  |
| 13. オフィスアワー             | 別途通知する。   |         |  |
| 14. 授業展開及び授業内容          |   |         |  |
| 講義日程                    | 授業内容  | 学習課題    |  |
| 第1回                     | ガイダンス：授業の概要と進め方<br>第1章 多文化保育・教育とは何か<br>第1節 多文化共生社会の必要性  | 事前学習    | シラバスの確認  |
|                         |   | 事後学習    | 多文化共生社会の必要性について振り返る                            |
| 第2回                     | 第1章 多文化保育・教育とは何か<br>第2節 多文化保育・教育の必要性と意義<br>第2章 在日外国人の動向と福祉ニーズ<br>第1節 在日外国人の人口的動向<br>第2節 多文化共生の視点と外国人等の福祉ニーズ   | 事前学習    | 多文化家庭の子育ての問題点を新聞等で事前にリサーチしておく                  |
|                         |   | 事後学習    | 多文化共生の視点と外国人等の福祉ニーズについて振り返る                    |
| 第3回                     | 第3章 外国につながる子どもの保育・教育と保護者への支援<br>第1節 言葉に関する事例：保育<br>第2節 食事に関する事例：保育  | 事前学習    | 第3章の第1節・2節を読み、外国につながる子どもの保育・教育と保護者への支援について確認する |
|                         |   | 事後学習    | 言葉・食事に関する事例を振り返る                               |
| 第4回                     | 第3章 外国につながる子どもの保育・教育と保護者への支援<br>第3節 保護者への支援の事例：保育<br>第4節 入学に関する事例：小学校   | 事前学習    | 第3章の第3節・4節を読み、外国につながる子どもの保育・教育と保護者への支援について確認する |
|                         |   | 事後学習    | 保護者への支援の事例、入学に関する事例を振り返る                       |
| 第5回                     | 第3章 外国につながる子どもの保育・教育と保護者への支援<br>第5節 授業・学力に関する事例：小学校<br>第6節 保護者への支援の事例：小学校   | 事前学習    | 第3章の第5節・6節を読み、外国につながる子どもの保育・教育と保護者への支援について確認する |
|                         |   | 事後学習    | 授業・学力に関する事例、保護者への支援の事例を振り返る                    |
| 第6回                     | 第4章 多文化保育・教育における保育者・教師の専門性と役割<br>第1節 多文化保育・教育のめざすもの<br>第2節 多様性に応じた保育・教育に必要な知識   | 事前学習    | 第4章の第1節・2節を読み、多文化保育・教育における保育者・教師の専門性と役割を確認する   |
|                         |   | 事後学習    | 多文化保育・教育のめざすもの、多様性に応じた保育・教育に必要な知識を振り返る         |
| 第7回                     | 第4章 多文化保育・教育における保育者・教師の専門性と役割<br>第3節 保育者・教師の専門性としての省察力と多様性への応答的対応   | 事前学習    | 第4章の第3節を読み、多文化保育・教育における保育者・教師の専門性と役割を確認する      |
|                         |   | 事後学習    | 保育者・教師の専門性としての省察力と多様性への応答的対応を振り返る              |
| 第8回                     | 第4章 多文化保育・教育における保育者・教師の専門性と役割<br>第4節 保育者・教師の姿が子どもを育てる   | 事前学習    | 第4章の第4節を読み、多文化保育・教育における保育者・教師の専門性と役割を確認する      |
|                         |   | 事後学習    | 多文化保育・教育における保育者・教師の姿を振                         |

|      |   |      |   |
|------|---|------|---|
|      |   |      | り返る                                     |
| 第9回  | 第5章 行政の多文化共生への取り組み<br>第1節 1戸町の国際交流<br>第2節 多文化共生への取り組み<br>第3節 今後の課題                | 事前学習 | 第5章を読み、行政の多文化共生への取り組みを読み確認する            |
|      |   | 事後学習 | 行政の多文化共生への取り組みを振り返り、身近な地域の多文化行政について調べる  |
| 第10回 | 第6章 海外の子育て支援の現状<br>第1節 ノルウェーの子育て支援の現状<br>第2節 フィンランドの子育て支援の現状<br>第3節 アメリカの子育て支援の現状 | 事前学習 | 第6章の第1節・2節・3節を読み、海外の子育て支援の現状を確認する       |
|      |   | 事後学習 | ノルウェー、フィンランド、アメリカの子育て支援の現状を振り返り、日本と比較する |
| 第11回 | 第6章 海外の子育て支援の現状<br>第4節 中国の子育て支援の現状<br>第5節 韓国の子育て支援の現状                             | 事前学習 | 第6章の第4節・5節を読み、海外の子育て支援の現状を確認する          |
|      |   | 事後学習 | 中国、韓国の子育て支援の現状を振り返り、日本と比較する             |
| 第12回 | 第7章 今後の多文化保育・教育の課題と展望<br>第1節 今後の多文化保育・教育の課題                                       | 事前学習 | 第7章の第1節を読み、今後の多文化保育・教育の課題を確認する          |
|      |   | 事後学習 | 今後の多文化保育・教育の課題について振り返る                  |
| 第13回 | 第7章 今後の多文化保育・教育の課題と展望<br>第2節 今後の多文化保育・教育の展望                                       | 事前学習 | 第7章の第2節を読み、今後の多文化保育・教育の展望を確認する          |
|      |   | 事後学習 | 今後の多文化保育・教育の展望について振り返る                  |
| 第14回 | まとめ①調査報告  | 事前学習 | 報告準備をする                                 |
|      |   | 事後学習 | 報告を振り返る                                 |
| 第15回 | まとめ②調査報告  | 事前学習 | 報告準備をする                                 |
|      |   | 事後学習 | 授業全体の振り返り                               |

|                          |   |         |  |
|--------------------------|---|---------|--|
| 1. 科目名 (単位数)             | 中国の文化と言語Ⅱ (2単位)   | 3. 科目番号 | GECM1314<br>GECM1324                   |
| 2. 授業担当教員                | 秋谷 幸治   |         |  |
| 4. 授業形態                  | 講義、ディスカッション、グループ学習等   | 5. 開講学期 | 秋期                                     |
| 6. 履修条件・他科目との関係          | 中国の文化と言語Ⅰの単位を修得した後に履修することが望ましい。   |         |  |
| 7. 講義概要                  | 「中国の文化と言語Ⅰ」の学習を基礎に、中国の人びとの暮らし、伝統文化、風俗習慣を盛り込んだ教材を精読する。簡単な日常会話と文型を学び、生きた中国語会話の体験学習を必要に応じ適宜おこなう場合もある。例えば、ビデオを用いて、中国の大学生活や庶民の暮らしを紹介するなどはその一例である。これらのことを通して、日本に身を置くわたしたちの暮らしや考え方と比べてみる。  |         |  |
| 8. 学習目標                  | <ol style="list-style-type: none"> <li>1.中国語の入門から初級につながる会話を聞き取ることができ、話せることができるようになる。</li> <li>2.中国語で書かれた、ある程度まとまった文章を理解できる。</li> <li>3.中国語の表現から、中国語話者のものの見方、考え方、価値観を読み取ることができる。</li> </ol> 4.3を通して中国の文化、社会、歴史的背景について理解を深めることができる。   |         |  |
| 9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題 | <b>【宿題】</b><br>授業前にテキストの例文を7回以上音読練習しておいてください。<br><b>【レポート課題】</b><br>日本に伝わった中国の食文化について各自レポートし、15回目に提出してください。   |         |  |
| 10. 教科書・参考書・教材           | <b>【教科書】</b><br>最新版 塚本慶一監修 劉穎著『1年生のコミュニケーション中国語』白水社 2015。<br>※中国の文化・風俗習慣については、プリントを配付して学習します。   |         |  |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法        | ○成績評価の規準 (学習目標)<br><ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中国語の入門から初級につながる会話を聞き取ることができ、話せることができたか。</li> <li>2. 中国語で書かれた、ある程度まとまった文章を理解できたか。</li> <li>3. 中国語の表現から、中国語話者のものの見方、考え方、価値観を読み取ることができたか。</li> <li>4.3を通して中国の文化、社会、歴史的背景について理解を深めることができたか。</li> </ol> ○評定の方法<br>事前学習・事後学習の状況も含め、授業への参加度、小テスト、レポート等を総合して評価する。<br><ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業への積極的な参加 総合点の30%</li> <li>2. 小テスト 総合点の40%</li> <li>3. 課題レポート 総合点の30%</li> </ol> |         |  |
| 12. 受講生へのメッセージ           | 語学を修得するには、とにかく声を出すことが大切です。授業では間違いを恐れず、大きな声で発音するように心がけよう。理解できなかったことや質問があったら、遠慮なく来て下さい。   |         |  |
| 13. オフィスアワー              | 授業終了後、教員控え室に来て下さい。  |         |  |
| 14. 授業展開及び授業内容           |   |         |  |
| 講義日程                     | 授業内容  | 学習課題    |  |
| 第1回                      | 中国語について知ろう<br>中国で使われる漢字(簡体字と繁体字)、発音表記の仕方(ピンイン)などについて復習します。  | 事前学習    | シラバスをよく読んでおく。                          |
|                          |   | 事後学習    | 授業内で配布したプリント「中国語とは？」を繰り返し読み直しておく。      |
| 第2回                      | 発音の復習① 単母音・子音・声調の復習<br>【中国の生活を知ろう】中国の学校制度   | 事前学習    | テキスト pp. 6～9 を繰り返し読んでおく。               |
|                          |   | 事後学習    | 自分の名前を中国語で10回以上音読しよう。                  |
| 第3回                      | 発音の復習② 複母音・鼻母音・軽声の復習  | 事前学習    | テキスト pp. 6～9 を繰り返し読んでおく。               |
|                          |   | 事後学習    | 自分の名前を中国語で10回以上音読しよう。                  |
| 第4回                      | どこにありますか<br>場所指示代名詞などの使い方について練習します。【中国の生活を知ろう】中国の交通事情   | 事前学習    | テキスト pp. 28～29 をしっかり読み、新たな文法事項を捉えておく。  |
|                          |   | 事後学習    | テキスト p. 28 の会話を7回以上音読練習する。             |
| 第5回                      | 何がありますか<br>動詞“有”などの使い方について練習します。  | 事前学習    | テキスト pp. 32～33 をしっかり読み、新たな文法事項を捉えておく。  |
|                          |   | 事後学習    | テキスト p. 32 の会話を7回以上音読練習する。             |
| 第6回                      | 第1～5回の総復習、小テスト  | 事前学習    | テキスト pp. 28～33 を読み直し、小テストに向けて総復習をしておく。 |
|                          |   | 事後学習    | 小テストで答えられなかった部分を復習しておく。                |
| 第7回                      | ホテルにチェックイン<br>完了を表す“了”などの使い方について練習します。【中国の生活を知ろう】中国の住宅事情  | 事前学習    | テキスト pp. 36～37 をしっかり読み、新たな文法事項を捉えておく。  |
|                          |   | 事後学習    | テキスト p. 36 の会話を7回以上音読練習する。             |
| 第8回                      | 何時に行きますか<br>経験を表わす“過”などの使い方について練習します。   | 事前学習    | テキスト pp. 40～41 をしっかり読み、新たな文法事項を捉えておく。  |
|                          |   | 事後学習    | テキスト p. 40 の会話を7回以上音読練習する。             |
| 第9回                      | タクシーに乗る<br>前置詞“從”、“到”などの使い方について練習します。【中国の生活を知ろう】中国の若者文化   | 事前学習    | テキスト pp. 44～45 をしっかり読み、新たな文法事項を捉えておく。  |
|                          |   | 事後学習    | テキスト p. 44 の会話を7回以上音読練習する。             |
| 第10回                     | 試着と支払い<br>助動詞“可以”などの使い方について練習します。   | 事前学習    | テキスト pp. 48～49 をしっかり読み、新たな文法事項を捉えておく。  |
|                          |   | 事後学習    | テキスト p. 48 の会話を7回以上音読練習する。             |

|      |  |      |   |
|------|--|------|---|
| 第11回 | 第7～10回の総復習、小テスト                              | 事前学習 | テキスト pp. 36～49 を読み直し、小テストに向けて総復習をしておく。    |
|      |  | 事後学習 | 小テストで答えられなかった部分を復習しておく。                   |
| 第12回 | 中国映画を見よう                                     | 事前学習 | 付属CDを使ってリスニングの練習をしておく。                    |
|      |  | 事後学習 | 聞き取れた言葉をまとめてみよう。                          |
| 第13回 | 中国の食文化を学ぼう①（グループ学習）<br>【日本に伝わる中国の食文化—麺類】     | 事前学習 | 事前に配布した「中国の食文化を学ぼう！」のNo.1のプリントをよく読んでおくこと。 |
|      |  | 事後学習 | 中国から伝わった麺類にどのようなものがあるのか、自分で調べてみよう。        |
| 第14回 | 中国の食文化を学ぼう②（グループ学習）<br>【日本に伝わる中国の食文化—お菓子】    | 事前学習 | 事前に配布した「中国の食文化を学ぼう！」のNo.2のプリントをよく読んでおくこと。 |
|      |  | 事後学習 | 中国から伝わったお菓子にどのようなものがあるのか、自分で調べてみよう。       |
| 第15回 | 中国の食文化を学ぼう③（グループ学習）<br>【日本に伝わる中国の食文化—お茶】課題提出 | 事前学習 | 事前に配布した「中国の食文化を学ぼう！」のNo.3のプリントをよく読んでおくこと。 |
|      |  | 事後学習 | 中国から伝わったお茶にどのようなものがあるのか、自分で調べてみよう。        |

|                          |   |         |  |
|--------------------------|---|---------|--|
| 1. 科目名 (単位数)             | 特別ニーズ教育論 (初等) (2 単位)  | 3. 科目番号 | SJTC2413<br>EDTE2310                             |
| 2. 授業担当教員                | 柳本 雄次   |         |  |
| 4. 授業形態                  | 講義だけでなく様々な形態のグループ討議など、アクティブラーニングに基づいた履修者同士の実践的な学び合いを重視する。※可能であれば補講期間に関連施設の見学なども予定する。  | 5. 開講学期 | 秋期   |
| 6. 履修条件・他科目との関係          |   |         |  |
| 7. 講義概要                  | 障害の有無に関わらず特別の教育的ニーズのある児童を理解するために、(1) インクルーシブ教育の理念とシステム構築の具体化の模索、(2) わが国の特別支援教育の理念、制度及び展開、(3) 特別支援学校や特別支援学級、通級による指導、地域連携支援などの特別支援教育の各形態の現状と課題、についてそれぞれ講述する。  |         |  |
| 8. 学習目標                  | 1. 特別の支援を必要とする児童の障害の特性及び心身の発達について理解し、説明することができる。<br>2. 特別の支援を必要とする児童に対する教育課程や支援の方法について理解し、説明することができる。<br>3. 障害の有無に関わらず特別な教育的ニーズのある児童の学習上の困難とその支援について理解を深める。   |         |  |
| 9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題 | 【アサインメント】<br>毎回テーマに関連した事前・事後学習の結果を記述したノートの作成<br>【レポート課題】<br>特別支援教育制度の歴史と課題、②インクルーシブ教育の理念と通常学校教育における具現化  |         |  |
| 10. 教科書・参考書・教材           | 【教科書】<br>玉村公二彦・清水貞夫・黒田学・向井啓二(2017)『キーワードブック特別支援教育-インクルーシブ教育時代の障害児教育』クリエイツかもがわ<br>【参考資料】<br>特別支援学校 小学部・中学部学習指導要領 (平成 29 年 4 月告示 文部科学省)<br>小学校学習指導要領 (平成 29 年 3 月告示 文部科学省)  |         |  |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法        | ○成績評価の規準<br>・障害の有無に関わらず特別の教育的ニーズのある児童の発達や学習の過程について理解できたか。<br>・インクルーシブ教育と特別支援教育に関する基本的な用語や概念を理解することができたか。<br>・インクルーシブ教育の理念とシステム構築の具体化について模索できたか。<br>・わが国の特別支援教育の理念、制度及び展開について理解できたか。<br>・発達障害の児童や障害を抱える児童の心身の発達や学習の過程を展望することができたか。<br>・特別支援学校や特別支援学級、通級による指導、地域連携支援などの特別支援教育の各形態の現状と課題について自らの考え方をもちことができたか。<br>・通常学級における授業のユニバーサル化について理解できたか。<br>○評定の方法<br>・平常点 (積極的参加度・授業態度・発表・発言等) 30%<br>・課題 (中間レポート・ワークシート等) 30%<br>・期末評価 (レポート・試験等) 40% |         |  |
| 12. 受講生へのメッセージ           | 現在小学校等の教育機関において、障害の有無を超えて特別な配慮・支援の必要な児童が在学しています。今後のインクルーシブ保(教)育システム構築に向け、必要とされる支援の内容・方法を具体的に学んでいきましょう。  |         |  |
| 13. オフィスアワー              |   |         |  |
| 14. 授業展開及び授業内容           |   |         |  |
| 講義日程                     | 授業内容  | 学習課題    |  |
| 第 1 回                    | オリエンテーション<br>障害児教育の歴史と変遷<br>母国語や貧困等の問題から教育的ニーズを抱えた児童への対応  | 事前学習    | 教科書「第 5 章」(pp. 247-281) を熟読しておく。                 |
|                          |   | 事後学習    | 特別ニーズ教育論を学ぶ意義について考える。本時の授業のポイントや用語についてノートに整理する。  |
| 第 2 回                    | インクルーシブ教育の国際動向 (サラマンカ声明と障害者の差別、合理的配慮)   | 事前学習    | 教科書「第 1 章」(pp. 12-29) を熟読しておく。                   |
|                          |   | 事後学習    | 授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。わからないことは教員に質問する。 |
| 第 3 回                    | 特別支援教育とインクルーシブ教育 (わが国の特別支援教育の理念と制度、交流及び共同学習)  | 事前学習    | 教科書「第 1 章」(pp. 30-47) を熟読しておく。                   |
|                          |   | 事後学習    | 業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。                  |
| 第 4 回                    | 特別支援教育とインクルーシブ教育 (通常学級における合理的配慮とユニバーサルデザイン教育)   | 事前学習    | 教科書「第 1 章」(pp. 48-69) を熟読しておく。                   |
|                          |   | 事後学習    | 授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。                 |
| 第 5 回                    | 特別支援教育の学習指導要領と教育課程、個別の教育支援計画、個別の指導計画  | 事前学習    | 教科書「第 2 章」(pp. 71-89) を熟読しておく。                   |
|                          |   | 事後学習    | 授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。                 |
| 第 6 回                    | 障害児の教育課程と方法 (特別支援学級や通級指導教室)   | 事前学習    | 教科書「第 2 章」(pp. 90-111) を熟読してお                    |

|      |   |      |                                  |
|------|---|------|----------------------------------|
|      | の教科指導（読み・書き）作業学習・自立活動）  |      | く。                               |
|      |   | 事後学習 | 授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。 |
| 第7回  | 障害児の教育課程と方法（通常学級での授業づくりの手法としての授業のユニバーサルデザイン化・特別支援学級や通級指導教室における教材教具の役割・授業研究） | 事前学習 | 教科書「第2章」（pp.112-123）を熟読しておく。     |
|      |   | 事後学習 | 授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。 |
| 第8回  | 障害児の教育課程と方法（ICTを用いたコミュニケーションの光と影、発達障害や軽度知的障害を抱えた生徒に対するソーシャルスキルトレーニング）       | 事前学習 | 教科書「第2章」（pp.124-143）を熟読しておく。     |
|      |   | 事後学習 | 授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。 |
| 第9回  | 特別支援学校の制度（視覚障害教育と聴覚障害教育、病弱教育）と障害をあわせ有する重複障害の知的代替の教育課程                       | 事前学習 | 教科書「第2章」（pp.144-153）を熟読しておく。     |
|      |   | 事後学習 | 授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。 |
| 第10回 | 障害と発達の基礎概念（発達保障の考え方、障害者の自立、発達と教育の関係）  | 事前学習 | 教科書「第3章」（pp.155-161）を熟読しておく。     |
|      |   | 事後学習 | 授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。 |
| 第11回 | 障害と発達の基礎概念（いじめや非行、不登校と障害の関連、QOLを高めるための教育的な支援）                               | 事前学習 | 教科書「第3章」（pp.162-171）を熟読しておく。     |
|      |   | 事後学習 | 授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。 |
| 第12回 | 障害の診断・判断・支援（知能検査とダウン症の行動特性の観点からの課題と支援）                                      | 事前学習 | 教科書「第3章」（pp.172-185）を熟読しておく。     |
|      |   | 事後学習 | 授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。 |
| 第13回 | 障害の診断・判断・支援（読み書き障害、ADHD、自閉症スペクトラム）  | 事前学習 | 教科書「第3章」（pp.186-195）を熟読しておく。     |
|      |   | 事後学習 | 授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。 |
| 第14回 | 障害の診断・判断・支援（弱視、難聴、ろう文化と手話）  | 事前学習 | 教科書「第3章」（pp.198-206）を熟読しておく。     |
|      |   | 事後学習 | 授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。 |
| 第15回 | 就学前から就学へ（児童発達支援、障害児と学童保育、相談事業）  | 事前学習 | 教科書「第4章」（pp.207-245）を熟読しておく。     |
|      |   | 事後学習 | 授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。 |
| 期末試験 |   |      |                                  |

|                         |   |      |                                      |          |
|-------------------------|---|------|--------------------------------------|----------|
| 1. 科目名 (単位数)            | 乳児保育Ⅱ (2単位)   |      | 3. 科目番号                              | JNNT2508 |
| 2. 授業担当教員               | 山口 恵美子  |      | 5. 開講学期                              | 秋期       |
| 4. 授業形態                 | 講義・演習   |      |                                      |          |
| 6. 履修条件・他科目との関係         | 「乳児保育Ⅰ」を履修していることが望ましい   |      |                                      |          |
| 7. 講義概要                 | 「乳児保育」で学習したことを基礎とし、保育所及び児童福祉施設等における、乳児あるいは低年齢児にかかわる保育内容について実践的な視点から具体的・総合的に理解する。  |      |                                      |          |
| 8. 学習目標                 | 1. 乳児の発達過程および乳児保育の実際を事例の考察・演習・諸記録等により理解し、実践的な能力を身に付ける。<br>2. 乳児が、健康で楽しく、安心して生活できる環境について保育施設および家庭のあり方について考察することができる。<br>3. 育児相談への対応の仕方について学びあう。  |      |                                      |          |
| 9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題 | ・授業内容で感じたこと、気づいたこと、疑問に思ったことをまとめ、提出すること。<br>・乳児期の発達過程について表を作成し、それを踏まえて保育実践で生かしたい事柄について自分の考えをまとめること。<br>・乳児の遊びに適した素材を見つける。<br>レポート課題設題<br>1) 「乳児期の発達過程を踏まえて保育実践で生かしたい事柄」について<br>2) 「乳児が、健康で楽しく、安心して生活できる環境と保育施設および家庭のあり方」について |      |                                      |          |
| 10. 教科書・参考書・教材          | 【教科書】『新訂 見る・考える・創り出す 乳児保育』萌文書林<br>【参考書】厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館  |      |                                      |          |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法       | ○成績評価の規準<br>グループの課題や発表に積極的に参加すること。期末試験は授業で学んだことや体験から、乳児保育における保育者の役割について、実践的な知見を身につけること。<br>○評定の方法<br>授業態度 (発言等) 20% 提出物 (課題等) 20% 発表 20% 期末試験 40%   |      |                                      |          |
| 12. 受講生へのメッセージ          | 乳児保育Ⅱでは乳児保育で学習したことを基礎に、より実践的な内容について学びます。近年、乳児保育への需要が増加し、保育の質も問われています。子どもの幸福を第一に考えつつ、父母および子どもを取り巻く社会との連携は欠くことは出来ません。保育の知識、技術の研鑽はもちろんのこと、豊富な感性と人間性が求められます。他の教科とも関連性を持ちながら専門性を高めてください  |      |                                      |          |
| 13. オフィスアワー             | 授業前後の休憩時間   |      |                                      |          |
| 14. 授業展開及び授業内容          |   |      |                                      |          |
| 講義日程                    | 授業内容  | 学習課題 |                                      |          |
| 第1回                     | オリエンテーション<br>「乳児保育Ⅰ」の振り返り   | 事前学習 | 「乳児保育Ⅰ」で学んだことの復習をしておく。               |          |
|                         |   | 事後学習 | 乳児保育の環境についてまとめる。                     |          |
| 第2回                     | 運動発達の神秘～寝返りから歩行まで～  | 事前学習 | 教科書 pp. 52～60 を読んでおく。                |          |
|                         |   | 事後学習 | 乳幼児期の心身の発達についてまとめる。                  |          |
| 第3回                     | 乳児期の発達と保育 第1期 (グループ演習)  | 事前学習 | 教科書 pp. 99～106 を読んでおく。               |          |
|                         |   | 事後学習 | 第1期の発達過程を踏まえ、乳児保育における養護と教育を整理する。     |          |
| 第4回                     | 乳児期の発達と保育 第2～3期 (グループ演習)  | 事前学習 | 教科書 pp. 107～114 を読んでおく。              |          |
|                         |   | 事後学習 | 第2～3期の発達過程を踏まえ、乳児保育における養護と教育を整理する。   |          |
| 第5回                     | 乳児期の発達と保育 第4～5期 (グループ演習)  | 事前学習 | 教科書 pp. 115～122 を読んでおく。              |          |
|                         |   | 事後学習 | 第4～5期の発達過程を踏まえ、乳児保育における養護と教育を整理する。   |          |
| 第6回                     | 乳児期の発達と保育 第6～7期 (グループ演習)  | 事前学習 | 教科書 pp. 124～138 を読んでおく。              |          |
|                         |   | 事後学習 | 第6～7期の発達過程を踏まえ、乳児保育における養護と教育を整理する。   |          |
| 第7回                     | 乳児期の発達と保育 第8～9期 (グループ演習)  | 事前学習 | 教科書 pp. 131～138 を読んでおく。              |          |
|                         |   | 事後学習 | 第8～9期の発達過程を踏まえ、乳児保育における養護と教育を整理する。   |          |
| 第8回                     | 乳児の遊びを考える①  | 事前学習 | 新聞紙を準備する。                            |          |
|                         |   | 事後学習 | 遊びのねらい、内容、活動の展開をまとめる。                |          |
| 第9回                     | 乳児の遊びを考える②  | 事前学習 | 乳児が遊びに使用できそうな素材を見つける。                |          |
|                         |   | 事後学習 | 指導計画を作成しておく。                         |          |
| 第10回                    | 乳児の遊びを考える③ 発表   | 事前学習 | 発表の準備をする                             |          |
|                         |   | 事後学習 | 遊びの発表で感じたこと、気づいたこと、改善点などをまとめる。       |          |
| 第11回                    | 保育実技 おむつ交換  | 事前学習 | おむつ交換の方法について確認する。                    |          |
|                         |   | 事後学習 | おむつ交換における留意点、配慮を整理する。                |          |
| 第12回                    | 保育施設と家族のあり方   | 事前学習 | 市町村で子育てに関する資料等を収集してくる。               |          |
|                         |   | 事後学習 | 保育施設と家族のあり方について気づいたこと、疑問に思ったことをまとめる。 |          |
| 第13回                    | 保護者支援 連絡ノートの活用  | 事前学習 | 前回収集した資料、教科書 pp. 149～154 を読んでおく。     |          |
|                         |   | 事後学習 | 保護者支援と連絡ノートの                         |          |
| 第14回                    | 育児相談とその対応   | 事前学習 | 育児相談の内容について調べる                       |          |
|                         |   | 事後学習 | 育児相談とその対応について整理する。                   |          |
| 第15回                    | まとめ   | 事前学習 | 授業で学んだことを振り返る                        |          |
|                         |   | 事後学習 | 乳児保育において実践的な視点から重要な内容をまとめる。          |          |
| 期末試験                    |   |      |                                      |          |





|                         |  |         |                                      |
|-------------------------|--|---------|--------------------------------------|
| 1. 科目名 (単位数)            | 乳幼児の脳機能 (2 単位)   | 3. 科目番号 | JEGL2205<br>JNGL2205                 |
| 2. 授業担当教員               | 澤田 晋一  |         |                                      |
| 4. 授業形態                 | 講義、ディスカッション、ならびに意見発表   | 5. 開講学期 | 秋期                                   |
| 6. 履修条件・他科目との関係         |  |         |                                      |
| 7. 講義概要                 | 胎児期は身体と脳の基本形成、乳幼児期は脳機能の発達、小児期は脳機能の完成にとって重要な時期であり、適切な刺激の提示と栄養の供給が欠かせない。「乳幼児の脳機能」の授業では、人体の大部分の機能をコントロールする脳について、その構造と機能分化について学習する。保育士、幼稚園教諭、小学校教諭を目指す学生にあっては、乳幼児・小児の成長に直接関わることになるので、脳の発達を考慮した保育・教育の大切さを認識できるようにする。  |         |                                      |
| 8. 学習目標                 | 以下の項目について学び、説明できるようになる。<br>1. 進化の過程の中で、ヒトはどのように脳を巨大化させたのかについて学ぶ。<br>2. ヒトの脳の構造と機能分化について学ぶ。<br>3. 胎児期、乳幼児期、小児期の脳の発達について学ぶ。<br>4. 脳機能の形成・発達に悪影響を及ぼす各種因子について学ぶ。<br>5. 脳の栄養について学ぶ。<br>6. 脳の大切さを認識し、乳幼児と関わる際の心構えを認識する。  |         |                                      |
| 9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題 | レポート課題：乳幼児の脳機能発達における外部刺激の影響について (1,000字以上、横書き)<br><ポイント>：脳の神経細胞は、出生時までにはほぼ全てが形成される。しかし、細胞間の情報伝達に関与するシナプスは出生後に刈り込みが行われて効率化が進み、複雑な神経回路網を形作って、脳機能は高まってくる。これには外部刺激の有無が強く関わっている。刺激に対する高感受性期について、また脳の発達に及ぼす刺激の有無、および過剰な刺激提示の影響について考察すること。<br>授業内容の復習のために、適宜提出物を求める。  |         |                                      |
| 10. 教科書・参考書・教材          | 【教科書】小西行郎 (著)『赤ちゃんの脳科学』集英社新書。<br>池谷裕二 (著)『パパは脳研究者 子どもを育てる脳科学』クレヨンハウス<br>【参考書】池谷裕二 (監修)『最新科学が解き明かす 脳と心のしくみ』新星出版社。<br>乾敏郎 (著)『脳科学から見る子どもの心の育ち』ミネルヴァ書房。<br>リザ・エリオット (著)『赤ちゃんの脳と心で何が起きているの?』楽工社。<br>その他、最新の脳関連の資料を授業ごとに配布する。   |         |                                      |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法       | ○成績評価の規準<br>1. 脳の構造と機能分化について理解しているか。<br>2. 胎児、乳幼児、小児の脳機能の発達と、発達の必要因子および障害のリスク因子について理解しているか。<br>○評定の方法<br>1. 授業への積極的参加 (授業態度、発言) 40%<br>2. 課題レポート・発表 30%<br>3. 期末試験 30%   |         |                                      |
| 12. 受講生へのメッセージ          | 1. 一方的な講義でなく、随所で発言を求め、ディスカッションをたくさん行います。<br>2. レポートは、簡潔かつ要点を掘り下げたものを求めます。<br>3. 解りやすい口頭発表の仕方を覚えてください。<br>4. 疑問点は後に残さず、講義時間内および直後に質問してください (研究室への来訪は大歓迎)。<br>5. 予習・復習を十分行ってください。<br>6. 関連図書をたくさん読んでください。<br>7. 脳に関する最新の情報を随時紹介しますが、皆さんも関心を持ってチェックしてください。<br>8. 授業時間の開始は厳守します。<br>9. 授業時間中の私語、携帯電話の使用を禁止します。 |         |                                      |
| 13. オフィスアワー             | 別途連絡する   |         |                                      |
| 14. 授業展開及び授業内容          |  |         |                                      |
| 講義日程                    | 授業内容   | 学習課題    |                                      |
| 第1回                     | イントロダクション、脳の構造   | 事前学習    | 「乳幼児の脳機能」用の学習ノートを準備し、授業に臨む意識を高める。    |
|                         |  | 事後学習    | 脳の基本的構造と機能の概略をまとめる。                  |
| 第2回                     | 動物の進化と脳の進化、人体機能のコントロール   | 事前学習    | 事前配布資料をよく読んで、動物とヒトの脳の大きさ、機能の違いを把握する。 |
|                         |  | 事後学習    | ヒトの脳は動物と比べて、どこが発達しているのかまとめる。         |
| 第3回                     | 脳の機能分化・刺激に対する高感受性期   | 事前学習    | 教科書の該当箇所をよく読んで、乳幼児の知的発達状況を理解する。      |
|                         |  | 事後学習    | 知的・行動的発達と関係する脳部位をまとめる。               |
| 第4回                     | 脳の活動と栄養  | 事前学習    | 教科書の該当箇所をよく読んで、ヒトの活動に必要な栄養素を理解する。    |
|                         |  | 事後学習    | 脳の活動に必須の栄養素をまとめる。                    |

|                   |   |      |  |
|-------------------|---|------|--|
| 第5回               | 胎児期における脳の形成                                     | 事前学習 | 教科書の該当箇所をよく読んで、受精から出生までの、胎児の成長を理解する。             |
|                   |   | 事後学習 | 脳の発達を生物進化の過程と結びつけてまとめる。                          |
| 第6回               | 胎児期の脳に対する危険因子                                   | 事前学習 | 教科書の該当箇所をよく読んで、胎児期の成長に必要な各種要素を理解する。              |
|                   |   | 事後学習 | 胎児脳の発達に影響を及ぼす危険因子とその対策をまとめる。                     |
| 第7回               | 乳児期の脳の発達  | 事前学習 | 教科書の該当箇所をよく読んで、乳児期（出生から約1年間）における機能発達を理解する。       |
|                   |   | 事後学習 | 乳児期における機能発達と関連する脳部位をまとめる。                        |
| 第8回               | 乳児期の脳に対する危険因子                                   | 事前学習 | 教科書の該当箇所をよく読んで、乳児期の発達に必要な各種要素を理解する。              |
|                   |   | 事後学習 | 乳児脳の発達に影響を及ぼす危険因子とその対策をまとめる。                     |
| 第9回               | 幼児期における脳の形成                                     | 事前学習 | 教科書の該当箇所をよく読んで、幼児期（1～5歳）における機能発達と関連する脳部位を理解する。   |
|                   |   | 事後学習 | 幼児脳の発達に必要な各種要素をまとめる。                             |
| 第10回              | 幼児期の脳に対する危険因子                                   | 事前学習 | 教科書の該当箇所をよく読んで、幼児期の発達に影響を及ぼす危険因子とその対策を理解する。      |
|                   |   | 事後学習 | 幼児期脳の発達に影響を及ぼす危険因子とその対策をまとめる。                    |
| 第11回              | 少年期の脳   | 事前学習 | 教科書の該当箇所をよく読んで、少年期（5～12歳）における機能発達と関連する脳部位を理解する。  |
|                   |   | 事後学習 | 少年期脳の発達に必要な各種要素をまとめる。                            |
| 第12回              | 少年期の脳に対する危険因子                                   | 事前学習 | 教科書の該当箇所をよく読んで、少年期の発達に影響を及ぼす危険因子とその対策を理解する。      |
|                   |   | 事後学習 | 少年期の発達に影響を及ぼす危険因子とその対策をまとめる。                     |
| 第13回              | 乳・幼・小児の学習と記憶                                    | 事前学習 | 教科書の該当箇所をよく読んで、学習と記憶とはどういうことか理解する。               |
|                   |   | 事後学習 | 学習・記憶のメカニズムと成長についてまとめる。                          |
| 第14回              | 乳・幼・小児の感覚刺激と脳による処理                              | 事前学習 | 教科書の該当箇所をよく読んで、五感にはどのようなものがあるか、またその感受と処理過程を理解する。 |
|                   |   | 事後学習 | 脳機能の障害と感覚異常についてまとめる。                             |
| 第15回              | まとめ・課題発表  | 事前学習 | 事前に提示した課題を、口頭発表用にまとめる。                           |
|                   |   | 事後学習 | まとめを文章化して提出する。                                   |
| 期末試験              |   |      |  |
| 15.実務経験を有する教員特記事項 | 産業医学総合研究所センター長の勤務経験の知見を活かし、「7」に示す講義概要に則した講義を行う。 |      |  |

|                       |  |         |  |
|-----------------------|--|---------|--|
| 1. 科目名 (単位数)          | 発達心理学 I (2 単位)   | 3. 科目番号 | JNCS1102                                     |
| 2. 授業担当教員             | 酒井 博美  |         |  |
| 4. 授業形態               | 講義, ディスカッション, グループワーク  | 5. 開講学期 | 秋期   |
| 6. 履修条件・他科目との関係       | 特になし   |         |  |
| 7. 講義概要               | 発達心理学とは、人の加齢に伴う心身の発達の変化を多面的に学ぶ。本講義は、各発達段階(乳児期、幼児期、学童期、青年期、成人期、老年期)において、どのような心身の発達の特徴がみられるかを身体・運動、知覚や認知、言語、思考、社会性などの諸側面から学ぶ。その上で、各発達段階における発達を支え、さらに発達を促す主体的な学びのあり方について考察していく。                                     |         |  |
| 8. 学習目標               | 1.人の各発達段階における発達の過程と特徴を理解し、説明できる<br>2.各発達段階の特徴をふまえた学びの特徴について理解し、説明できる<br>3.子どもの主体的な学びを促す指導のあり方について考え、説明できる  |         |  |
| 9. アサイメント(宿題)及びレポート課題 | 各回に次回講義に向けてのキーワードを提示するので、事前学習として、下記に示した参考書などをもとに内容を確認しておくこと。毎回の授業開始時にその内容について発表してもらう。また第7回と第15回の授業では、これまでの学習内容の習熟度を確認するためのまとめとテストを行う。各回の講義内容の理解を定着させるように、毎回の復習を確実にすること。  |         |  |
| 10. 教科書・参考書・教材        | 【教科書】本郷一夫・飯島典子『シードブック 保育の心理学』建帛社 2019年。<br>【参考書】松井豊・櫻井茂他編『スタンダード発達心理学(ライブラリスタンダード心理学)』サイエンス社 2013年。ハリス, M.・ウェスターマン, G. 著『発達心理学ガイドブック—子どもの発達理解のために』明石書店 2019年。  |         |  |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法     | ○成績評価の規準<br>1.人の各発達段階における発達の過程と特徴を理解し、説明できるか<br>2.各発達段階の特徴をふまえた学びの特徴について理解し、説明できるか<br>3.子どもの主体的な学びを促す指導のあり方について考え、説明できるか<br>○評定の方法<br>1. 授業内活動(ディスカッション, グループワーク) 総合点の 40%<br>2. レポート 総合点の 30%<br>2. 試験 総合点の 30% |         |  |
| 12. 受講生へのメッセージ        | 授業で得た知見について、自身の経験および今後自身が対象とする人々、また現代社会の特徴とも関連づけられる視点を獲得するために、討論やグループワークの機会も設ける。積極的に取り組むこと。  |         |  |
| 13. オフィスアワー           | 授業内に周知する   |         |  |
| 14. 授業展開及び授業内容        |  |         |  |
| 講義日程                  | 授業内容   | 学習課題    |  |
| 第1回                   | オリエンテーション<br>発達心理学を学ぶ意義  | 事前学習    | シラバスを確認し、授業準備をする                             |
|                       |  | 事後学習    | 発達心理学の概念を理解する                                |
| 第2回                   | 発達における遺伝と環境の影響   | 事前学習    | 自分の発達に遺伝と環境がどのように影響していたかを振り返ってくる             |
|                       |  | 事後学習    | 遺伝と環境の相互作用についてまとめる                           |
| 第3回                   | 発達の諸理論: E. H. エリクソン、S. フロイトの理論   | 事前学習    | 第1回で触れたエリクソンの心理社会的発達段階説を復習する                 |
|                       |  | 事後学習    | 心の漸成発達を理解する                                  |
| 第4回                   | 胎児期と周生期の発達と運動発達  | 事前学習    | 自身の運動発達について振り返っておく                           |
|                       |  | 事後学習    | 運動における定型発達について理解する                           |
| 第5回                   | 社会性の発達1 母子関係、他児との関係  | 事前学習    | 自身の幼児期における他児との遊びを振り返っておく                     |
|                       |  | 事後学習    | 愛着理論、社会的遊びについて理解する                           |
| 第6回                   | 社会性の発達2 コミュニケーション、言語発達   | 事前学習    | 自身の言語発達について振り返っておく                           |
|                       |  | 事後学習    | コミュニケーションにおける言語の役割、言語発達について理解する              |
| 第7回                   | 認知の発達1 知的能力とは、知能の構造と分類   | 事前学習    | 認知とは何かについて復習しておく                             |
|                       |  | 事後学習    | 知能の意味と構造、分類について理解する                          |
| 第8回                   | 認知の発達2 知能の把握、発達の最近接領域  | 事前学習    | 現場で使われる知能検査にどのようなものがあるか調べておく                 |
|                       |  | 事後学習    | 主要な知能検査の概要について理解する。また、発達の現在の水準と最近接領域の意味を理解する |
| 第9回                   | 中間まとめ小テスト  | 事前学習    | これまでの授業内容について理解を深める                          |
|                       |  | 事後学習    | これまでの授業内容についての知識や考え方の定着を図る                   |
| 第10回                  | 認知の発達3 J. ピアジェの理論  | 事前学習    | ピアジェの発達の考え方における基本概念について調べておく                 |
|                       |  | 事後学習    | 4段階の認知発達について理解する                             |
| 第11回                  | 児童期の発達   | 事前学習    | 児童期に生じやすいさまざまな課題について調べておく                    |
|                       |  | 事後学習    | 生涯発達における児童期の心性およびさまざまな課題に対するサポートを考える         |

|      |                        |      |                                     |
|------|------------------------|------|-------------------------------------|
| 第12回 | 青年期の発達                 | 事前学習 | 自身の思春期から現在までの心性についてさまざまな側面から振り返っておく |
|      |                        | 事後学習 | アイデンティティーとアイデンティティー・ステイタスについて理解する   |
| 第13回 | 発達障害の理解1 発達障害とは        | 事前学習 | 発達障害児・者とかかわった経験についてまとめておく           |
|      |                        | 事後学習 | 発達障害の概要および現状について理解する                |
| 第14回 | 発達障害の理解2 ASD, ADHD, LD | 事前学習 | 主要な発達障害について調べておく                    |
|      |                        | 事後学習 | 発達障害児・者とかかわり方について考える                |
| 第15回 | まとめ                    | 事前学習 | これまでの授業を振り返り、わからないところをまとめる          |
|      |                        | 事後学習 | 授業を振り返り、期末試験に備える                    |
| 期末試験 |                        |      |                                     |

|                       |  |         |                      |
|-----------------------|--|---------|----------------------|
| 1. 科目名 (単位数)          | 発達心理学Ⅱ (2単位)   | 3. 科目番号 | JNCS2403             |
| 2. 授業担当教員             | 長谷川 有香   |         |                      |
| 4. 授業形態               | 講義、演習、グループワーク  | 5. 開講学期 | 秋期                   |
| 6. 履修条件・他科目との関係       | 発達心理学Ⅰを受講していることが望ましい。  |         |                      |
| 7. 講義概要               | 「発達心理学Ⅱ(保育の心理学Ⅱ)」では、「発達心理学Ⅰ(保育の心理学Ⅰ)」で学んだ知識をもとに、保育現場における子ども理解とそれに基づく支援の実際について、発達心理学的視点から学ぶことを目的とする。  |         |                      |
| 8. 学習目標               | ①現場における子どもの行動を、発達の視点で見ることができるようになる。<br>②子どもの発達をふまえたクラス運営についてのイメージがもてる。<br>③障害のある子どもや気になる子どもへの対応、虐待や登園しぶりへの対応についての基礎知識を身につける。<br>④保護者を支える知識を身につける。  |         |                      |
| 9. アサシメント(宿題)及びレポート課題 | 授業内で小レポートを実施します。また、学生によるグループ発表の機会を設けます。  |         |                      |
| 10. 教科書・参考書・教材        | <b>【教科書】</b> 使用しない<br><b>【資料・教材】</b> 授業にてプリントを配布します  |         |                      |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法     | ○成績評価の規準<br>1. 現場での子どもの行動について、発達の視点で説明できるか<br>2. 子どもの発達に合わせた保育活動、クラス運営について説明できるか<br>3. 「気になる子ども」の特徴を説明し、対応について考えることができるか<br>○評定の方法<br>課題への取り組み・授業態度 30%<br>グループ発表等の授業活動 30%<br>小テスト・試験 40% |         |                      |
| 12. 受講生へのメッセージ        | 発達心理学Ⅰをふまえ、子どもやその家族を取り巻く問題について、さらに心理学的な知識を深めていきます。保育者として、子どもや家族に対してどのような支援をすることができるのか、考えながら授業に参加してください。  |         |                      |
| 13. オフィスアワー           | 初回授業で指示します。  |         |                      |
| 14. 授業展開及び授業内容        |  |         |                      |
| 講義日程                  | 授業内容   | 学習課題    |                      |
| 第1回                   | ガイダンス  | 事前学習    | シラバスを読み授業内容を理解する     |
|                       |  | 事後学習    | 今後の授業内容について理解し、準備する  |
| 第2回                   | 乳児期の発達   | 事前学習    | 予習課題1                |
|                       |  | 事後学習    | 授業を振り返り内容を理解する       |
| 第3回                   | 幼児期の発達   | 事前学習    | 予習課題2                |
|                       |  | 事後学習    | 授業を振り返り内容を理解する       |
| 第4回                   | 学童期の発達   | 事前学習    | 予習課題3                |
|                       |  | 事後学習    | 授業を振り返り内容を理解する       |
| 第5回                   | 青年期の発達   | 事前学習    | 予習課題4                |
|                       |  | 事後学習    | 授業を振り返り内容を理解する       |
| 第6回                   | 家族関係・夫婦関係の理解   | 事前学習    | 予習課題5                |
|                       |  | 事後学習    | 授業を振り返り内容を理解する       |
| 第7回                   | 親としての育ち  | 事前学習    | 予習課題6                |
|                       |  | 事後学習    | 授業を振り返り内容を理解する       |
| 第8回                   | 子育てを取り巻く社会的状況  | 事前学習    | 予習課題7                |
|                       |  | 事後学習    | 授業を振り返り内容を理解する       |
| 第9回                   | ライフコースと仕事・子育て  | 事前学習    | 予習課題8                |
|                       |  | 事後学習    | 授業を振り返り内容を理解する       |
| 第10回                  | 多様な家庭とその理解   | 事前学習    | 予習課題9                |
|                       |  | 事後学習    | 授業を振り返り内容を理解する       |
| 第11回                  | 発表の準備  | 事前学習    | 発表準備について班で相談しておく     |
|                       |  | 事後学習    | 発表の準備を進める            |
| 第12回                  | 発表会①0~1歳児の発達とその支援  | 事前学習    | 発表に該当する部分のプリントを読んでおく |
|                       |  | 事後学習    | 発表資料を見直して内容を理解する     |
| 第13回                  | 発表会②2~3歳児の発達とその支援  | 事前学習    | 発表に該当する部分のプリントを読んでおく |
|                       |  | 事後学習    | 発表資料を見直して内容を理解する     |
| 第14回                  | 発表会③4~5歳児の発達とその支援  | 事前学習    | 発表に該当する部分のプリントを読んでおく |
|                       |  | 事後学習    | 発表資料を見直して内容を理解する     |
| 第15回                  | まとめとテスト  | 事前学習    | これまでの授業内容を復習しテストに備える |
|                       |  | 事後学習    | テストで解答できなかった点を見直す    |

|                         |  |         |  |                      |
|-------------------------|--|---------|--|----------------------|
| 1. 科目名 (単位数)            | 保育・教職実践演習 (2 単位)   |         | 3. 科目番号                                    | JEPR3403<br>JNPR2403 |
| 2. 授業担当教員               | 八重樫 幸雄・鈴木 美子・他未定   |         |  |                      |
| 4. 授業形態                 | 講義、演習、発表   | 5. 開講学期 | 秋期   |                      |
| 6. 履修条件・他科目との関係         |  |         |  |                      |
| 7. 講義概要                 | 保育・教育実習での体験や、履修科目で学んだことを振り返り、自己課題を見出して、問題を解決する力を養う。そして、こども理解や学級経営、子育て支援やインクルーシブ保育等の演習をとおして学びを深めるようにする。これらを踏まえて使命感や責任感、教育的愛情に裏打ちされた実践的指導力を有する保育者を目指す。   |         |  |                      |
| 8. 学習目標                 | 1. 保育者に求められる資質（職務への使命感や責任感、乳幼児に対する愛情）を理解し、実際の行動に移すことができるようになる。<br>2. 乳幼児期にふさわしい保育内容・保育方法等に関する理解を深め、実践的指導力を高める。<br>3. 組織の一員としての自覚をもち、社会性や対人関係能力を身につける。<br>4. 乳幼児理解や学級経営等に関する基礎的な能力を身につける。   |         |  |                      |
| 9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題 | ( ) 各回の事後学習を配付したワークシートにまとめ提出する。第8回授業終了後は、提示された保育事例についての分析と考察、具体的な対応策をレポートにまとめる。(1200字以上1600字)<br><b>(八重樫)</b> 第9回から第13回の講義を通して、自分の関心のある課題（テーマ）を設定し、自分の考えも述べながらレポートを作成する。(1200字以上1600字)<br><b>(鈴木)</b> 保育・教職実践演習を含め、大学での学びをとおして自分がどのように変容したかについて述べる。次に自己の保育観、保育者観を述べて、今後、どのような課題をもってどのように取り組むかを述べる。(1600以上2000字)  |         |  |                      |
| 10. 教科書・参考書・教材          | <b>【教科書】</b> 必要に応じて資料を配付する。<br><b>【参考書】</b> 必要に応じて随時紹介する。  |         |  |                      |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法       | ○成績評価の規準<br>1. 保育者に求められる資質（職務への使命感・責任感、乳幼児に対する愛情）を理解し、説明することができるか。また、実際に行動に移そうとする姿勢が見られるか。<br>2. 乳幼児期にふさわしい保育内容・保育方法等に関する理解を深め、実践的指導力を身に付けているか。<br>3. 保育者として、社会性や対人関係に関する基礎的な能力を身に付けているか。<br>4. 乳幼児理解や学級経営に関する基礎的な能力を身に付けているか。<br>○評定の方法<br>[授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。<br>1 授業への積極的参加 総合点の30%<br>2 日常の学習状況 総合点の30%<br>3 課題レポート 総合点の40%<br>本学の規定に定められている 3/4 以上の出席が単位の修得の条件であることに配慮する。 |         |  |                      |
| 12. 受講生へのメッセージ          | 未定担当：第4・5・6・7・8回 八重樫担当：第9・10・11・12・13回 鈴木担当：第1・2・3・14・15回<br>主体的・積極的な姿勢で授業に取り組み、自ら学ぶようにしましょう。実習の体験を踏まえ、反省点を明確にし、他の発表を聞いて「自分だったらこうする」という向上心をもてるようにしましょう。近年では、子どもやその保護者、そして保育者をめぐる社会情勢が目まぐるしく変化しています。保育者として子どもを取り巻く様々な問題や課題に真摯に向き合う姿勢をもち、保育の実践の場で出会う今日的な課題から社会的な背景を読み取って、子どもとその生活の場である園と家庭を総合的にとらえながら取り組む力を培ってください。<br>遅刻・早退については厳しく減点します。正当な欠席の場合であっても、書面によって理由を教員へ報告してください。                    |         |  |                      |
| 13. オフィスアワー             | 第1回の時に知らせる。  |         |  |                      |
| 14. 授業展開及び授業内容          |  |         |  |                      |
| 講義日程                    | 授業内容   | 学習課題    |  |                      |
| 第1回                     | 実践演習の位置づけと制度<br>これまでの学修の振り返り   | 事前学習    | 「履修カルテ」を読み返し、必要内容を記入してどのような学びを重ねてきたかを確認する。 |                      |
|                         |  | 事後学習    | 実習を振り返り、自分の課題を明らかにする。                      |                      |
| 第2回                     | 保育・教育職の使命感と責任感、教育的愛情および倫理観 ロールプレイングをとおして学ぶ   | 事前学習    | 資料を読み、使命感と責任感、教育的愛情および倫理観をまとめておく。          |                      |
|                         |  | 事後学習    | 感じたこと、考えたこと、学んだことをまとめる。                    |                      |
| 第3回                     | 実践事例ロールプレイングのグループ発表  | 事前学習    | グループの捉えを具体的に明らかにしておく                       |                      |
|                         |  | 事後学習    | 平等感をもって保育を行うこととは具体的にはどのようなことかをまとめる         |                      |
| 第4回                     | 外部講師を招いて 幼稚園や保育所の一日と保育者の仕事、留意事項、学級担任の職務、職員間の連携   | 事前学習    | 幼稚園・保育所の一日の職務を挙げ、知りたいことを整理しておく。            |                      |
|                         |  | 事後学習    | 保育者の職務と職場の人間関係の在り方についてまとめる。                |                      |
| 第5回                     | 子どもの見方・捉え方と子どもへの働きかけ方<br>ビデオ視聴を通して   | 事前学習    | 実習中における印象に残った子どもの様子を幼児の視点からまとめておく。         |                      |

|      |  |      |   |
|------|--|------|---|
|      |  | 事後学習 | ビデオの話し合いや他の発表を聞いて、よりよい指導や支援の在り方についてまとめる。                |
| 第6回  | 子ども同士の交流と集団づくり ―個性の伸長と人間関係の育成と― 事例研究を通して           | 事前学習 | 実習中に経験した子どもの育ち合いについてまとめておく。                             |
|      |  | 事後学習 | 個性の伸長と人間関係の育成についてまとめる。                                  |
| 第7回  | 保護者との連携<br>子育て相談の進め方、学級だよりの作成、保育参観や保護者会の運営         | 事前学習 | 保護者との人間関係の事例を調べる。                                       |
|      |  | 事後学習 | ロールプレイや協議等を通して理解した保護者との関係の在り方についてまとめる                   |
| 第8回  | 子どもの発達保障のための保育実践の在り方<br>環境の構成や援助の在り方、保育の反省・評価の在り方  | 事前学習 | 幼児期の発達、小学校以降の生活や学びの基盤とは何か確認しておく。                        |
|      |  | 事後学習 | 幼児期の発達を保障する環境の構成や援助、保育の評価等について確認し、実践力の向上についてまとめる。       |
| 第9回  | 安全管理、危機管理を踏まえた保育                                   | 事前学習 | 今までに学んだ、安全管理、危機管理に関連する教科書や資料などから大切なポイントをまとめておく。         |
|      |  | 事後学習 | 事前学習を整理してまとめ、演習をとおして新たに気づいて、自分で意識しなければならないと認識したことをまとめる。 |
| 第10回 | 特別支援教育に基づく幼児理解<br>「アセスメントと保育」の再確認                  | 事前学習 | 実習中や文献から支援を必要とする子どもの保育について調べる。                          |
|      |  | 事後学習 | 特別な支援を必要とする子どもの保育のポイントについてまとめる。                         |
| 第11回 | インクルーシブ保育の実際<br>子どもの遊びをインクルーシブ保育に活かす               | 事前学習 | インクルーシブ保育について調べておく。                                     |
|      |  | 事後学習 | インクルーシブ保育の現状を探り、インクルーシブ保育の意義や進め方についてまとめる。               |
| 第12回 | 特別支援教育の実際<br>ムーブメント教育の演習（多目的室）<br>―保育に活かす教材研究の在り方― | 事前学習 | ムーブメント教育について調べておく。                                      |
|      |  | 事後学習 | 演習の実体験から、子どもにとっての適時性、適切性に応じた、教材研究のポイントをまとめる。            |
| 第13回 | 保育課題の検討 幼保小の連携<br>外部講師を招いて 接続期の保育・教育の諸課題から         | 事前学習 | 接続期の問題点について調べる。   |
|      |  | 事後学習 | 講師の話から接続期をめぐっての課題について自分なりの考えをまとめる。                      |
| 第14回 | 履修カルテの確認と今後の課題の洗い出し                                | 事前学習 | カルテを持参する。   |
|      |  | 事後学習 | ワークシートをまとめ、総合的な振り返りと課題を考え、箇条書きにして書き出しておく。               |
| 第15回 | 履修カルテの提出、まとめ                                       | 事前学習 | カルテの提出  |
|      |  | 事後学習 | レポート課題をまとめる。  |



|                         |   |         |                                 |          |
|-------------------------|---|---------|---------------------------------|----------|
| 1. 科目名 (単位数)            | 保育者・教師論／保育士・教師論 (2 単位)  |         | 3. 科目番号                         | JNGM1404 |
| 2. 授業担当教員               | 坂本 真理子  |         |                                 |          |
| 4. 授業形態                 | 講義、グループ討議、発表  | 5. 開講学期 | 秋期                              |          |
| 6. 履修条件・他科目との関係         |   |         |                                 |          |
| 7. 講義概要                 | 乳幼児期が人間形成の基礎としてきわめて重要な意味をもつことは、今日ますます強調されている。その乳幼児期に関わる人的環境として保育者の存在は非常に重要である。保育者に求められる役割や資質・能力、保育者の職務内容や組織の一員としての保育者の在り方等について、保育原理を基本にしてより深く学ぶ。また、現代社会が求めている幼保小連携や障害児保育・統合保育などについても理解する。   |         |                                 |          |
| 8. 学習目標                 | 1.保育者の専門性について理解し、説明できるようになる。<br>2.保育者の職務内容や職務への取り組み方について理解し、説明できるようになる。<br>3.現代社会における保育ニーズについて理解し、説明できるようになる。   |         |                                 |          |
| 9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題 | レポート<br>自分の長所・短所を述べ、将来どのような保育者になりたいか考察しまとめる。  |         |                                 |          |
| 10. 教科書・参考書・教材          | 【教科書】<br>汐見稔幸・大豆生田啓友編 最新保育講座2『保育者論』 ミネルヴァ書房<br>【参考書】 文部科学省『幼稚園教育要領』<br>厚生労働省『保育所保育指針』<br>内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型人的こども園 教育・保育要領』   |         |                                 |          |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法       | ○成績評価の規準<br>1.保育者の専門性について理解し、具体的に説明できるようになったか。<br>2.保育者の職務内容や職務への取り組み方について理解し、具体的に説明できるようになったか。<br>3.現代社会における保育ニーズについて理解し、具体的に説明できるようになったか。<br>○評定の方法<br>【授業への取り組み姿勢、授業内での課題提出、期末レポート等を総合して評価する。】<br>1. 授業への取り組み姿勢 総合点の20%<br>2. 授業内での課題提出 総合点の30%<br>3. 期末レポート 総合点の50% |         |                                 |          |
| 12. 受講生へのメッセージ          | 保育者の意義および役割、職務内容に関する知識について理解を深め、保育者に対する自らの適性を考察するとともに、自分を振り返りながら保育者への意欲や自覚を養いましょう。  |         |                                 |          |
| 13. オフィスアワー             | 別途通知します   |         |                                 |          |
| 14. 授業展開及び授業内容          |   |         |                                 |          |
| 講義日程                    | 授業内容  | 学習課題    |                                 |          |
| 第1回                     | オリエンテーション<br>ー保育・教育とはー  | 事前学習    | 自分の幼児期の体験を資料として保育者の資質について考えておく。 |          |
|                         |   | 事後学習    | シラバス全体に目を通し授業計画を確認しておく。         |          |
| 第2回                     | 保育者の仕事ー保育者の一日を知るー   | 事前学習    | 教科書の該当箇所を読んでくる。                 |          |
|                         |   | 事後学習    | 保育者の様々な一日の仕事を理解する。              |          |
| 第3回                     | 保育という仕事の実態①   | 事前学習    | 免許、資格要件を調べておく。                  |          |
|                         |   | 事後学習    | 保育者の在り方を確認する。                   |          |
| 第4回                     | 保育という仕事の実態②   | 事前学習    | 園生活に必要な保育者の仕事について調べておく。         |          |
|                         |   | 事後学習    | 保育者の仕事の意味、内容を理解する。              |          |
| 第5回                     | 保育者の役割  | 事前学習    | 現代の子どもの生活から特に必要な保育者の役割を調べておく。   |          |
|                         |   | 事後学習    | 子どもと共に生活する保育者の大切な役割について理解する。    |          |
| 第6回                     | 保育者の倫理  | 事前学習    | 関連法律の予習をしておく。                   |          |
|                         |   | 事後学習    | 保育をする上で大切な倫理について、倫理綱領をもとに考察する。  |          |
| 第7回                     | 職務内容の理解①  | 事前学習    | 関連法律の予習をしておく。                   |          |
|                         |   | 事後学習    | 現在の福祉関連制度の確認をする。                |          |
| 第8回                     | 職務内容の理解①  | 事前学習    | 関連法律の予習をしておく。                   |          |
|                         |   | 事後学習    | 現在の学校制度の確認をする。                  |          |
| 第9回                     | 保育者の専門性ー保育者に求められる能力ー  | 事前学習    | 教科書の該当箇所を読んでくる。                 |          |
|                         |   | 事後学習    | 事例から求められる保育者の姿について理解する。         |          |
| 第10回                    | 保育者の専門性ー保育の実践と自己評価ー   | 事前学習    | 教科書の該当箇所を読んでくる。                 |          |
|                         |   | 事後学習    | 自分の持つ子ども観、保育観について改めて考えたことをまとめる。 |          |
| 第11回                    | 保育者の専門性ー保育者としての成長と学びー   | 事前学習    | 教科書の該当箇所を読んでくる。                 |          |
|                         |   | 事後学習    | 保育者としての成長とともに培われていく専門性についてまとめる。 |          |
| 第12回                    | 地域の中の保育者の役割   | 事前学習    | 地域の中での園の役割について調べておく。            |          |
|                         |   | 事後学習    | 地域の中での園の役割や子育て支援について理解する。       |          |

|      |                |      |                                  |
|------|----------------|------|----------------------------------|
| 第13回 | 保育者に求められる幅広い資質 | 事前学習 | 園の組織や役割について調べておく。                |
|      |                | 事後学習 | 専門職間の連携の仕方、幅広い資質についてまとめる。        |
| 第14回 | 保育の現状と今後の課題    | 事前学習 | 教科書の該当箇所を読んでくる。                  |
|      |                | 事後学習 | 現代保育の課題を理解し、保育者に求められる責務について理解する。 |
| 第15回 | 振り返りとまとめ       | 事前学習 | 保育者の専門性、チームとしての保育職についてまとめる。      |
|      |                | 事後学習 | 授業で学んだことを踏まえ保育者の役割や専門性についてまとめる。  |

|                                |  |         |                                  |
|--------------------------------|--|---------|----------------------------------|
| 1. 科目名 (単位<br>数)               | 保育実習指導 I (施設) (1 単位)   | 3. 科目番号 | JNPR1413                         |
| 2. 授業担当教員                      | 中嶋 一郎  |         |                                  |
| 4. 授業形態                        | 演習、ディスカッション、グループ学習、発表  | 5. 開講学期 | 秋期                               |
| 6. 履修条件・<br>他科目との関係            |  |         |                                  |
| 7. 講義概要                        | <p>実習は計画的なカリキュラムとして単位取得を伴ったものであり、必修であることから誰にも不安要素は尽きない。事前の事務準備からはじまり、最低求められる専門的知識や技術、そして心構え、さらには実習で直面する予期せぬ現実的な問題や事後の課題にいたるまで何から手をつけて行くべきか、段取りよく進まないのが実態であるため、この段取りを十分に理解して充実した実習を行い、保育者としての質の向上を図るための授業展開とする。</p>   |         |                                  |
| 8. 学習目標                        | <p>保育関連実習において必ずしなければならないこと、してはいけないこと等、実習の常識を具体的に学び、実習が行えるようになる。(施設実習を特にポイントとする)</p>  |         |                                  |
| 9. アサシメント<br>(宿題) 及びレポ<br>ート課題 | <p>1. 実習先の施設と利用者に対する知識を理解し、実践に活かす。<br/>2. 実習日誌の作成方法を理解し、実践する。<br/>3. 施設実習における今日的課題を調べて発表する。</p>  |         |                                  |
| 10. 教科書・参考<br>書・教材             | <p>【教科書】 関口はつ江(編著)『保育実習ハンドブック』大学図書出版、2018 年。<br/>【教材】 「保育実習の手引き」</p>   |         |                                  |
| 11. 成績評価の規準<br>と評定の方法          | <p>○成績評価の規準<br/>1. 実習記録の意義・方法を理解し、実習から得た学習内容を具体的に記録することができるか。<br/>2. 指導案の立案とそれに基づく模擬保育演習を行い、実践力を身につけるか。<br/>○評定の方法<br/>期末試験・レポート 30% 施設実習・部分実習発表 30%<br/>授業態度 20% 授業まとめ発表(グループ) 20%</p>  |         |                                  |
| 12. 受講生への<br>メッセージ             | <p>携帯電話等の使用や私語等を慎むことは、守るべきマナーです。(減点の対象)<br/>授業等で不満があれば個人的に受け付けておりますので、いつでもご相談ください。<br/>自分の意見を持つことは、共に学ぶ学友との相互理解を深めるための道具です。自分の意見はワークシートにまとめ、それを元に他人と議論を交わしてください。<br/>(以下、加点の対象)<br/>他の学生を尊重し、その意見をしっかりと受け止めてください。<br/>発表の際には、他の学生に伝わる大きさの声で行ってください。<br/>わからないことがあれば、授業内、外で積極的に質問をしてください。</p> |         |                                  |
| 13. オフィスアワー                    | 別途通知する。  |         |                                  |
| 14. 授業展開及び授業内容                 |  |         |                                  |
| 講義日程                           | 授業内容   | 学習課題    |                                  |
| 第 1 回                          | 授業の概要と学習態度について・保育実習の時期及び準備等〔実習の手引き〕  | 事前学習    | シラバスを確認しておく。                     |
|                                |  | 事後学習    | 保育実習 I (施設) 授業の目的の確認・整理をノートにする。  |
| 第 2 回                          | 福祉施設実習とは<br>①実習の意義 ②実習の目的 ③実習の理解   | 事前学習    | 福祉施設実習について調べる(予習)。               |
|                                |  | 事後学習    | 施設実習の目的・意義の確認・整理をノートにまとめる。       |
| 第 3 回                          | 施設実習の保育士の役割・福祉施設の専門職について   | 事前学習    | 福祉施設実習の専門職についてテキストを参考に読解しておく。    |
|                                |  | 事後学習    | 福祉施設における保育士の役割について確認整理しておく。      |
| 第 4 回                          | 福祉施設実習の実習生の立場と心構えについて  | 事前学習    | 福祉施設実習生の立場についてテキストを読解しておく。       |
|                                |  | 事後学習    | 福祉施設実習の心構えをテキストで学んでおく。           |
| 第 5 回                          | 事前の施設訪問・施設見学について   | 事前学習    | 福祉施設実習事前の確認を詳細に読解しておく。           |
|                                |  | 事後学習    | 施設見学についての計画を立ててみる。               |
| 第 6 回                          | 実習期間中の施設実習の流れについて  | 事前学習    | 福祉施設実習の流れを確認・整理する。               |
|                                |  | 事後学習    | 第 1 回～第 6 回までの授業内容をまとめて、確認してみる。  |
| 第 7 回                          | 参加実習の内容と記録の意味  | 事前学習    | 福祉施設実習の形態とは何かテキスト読解しておく。         |
|                                |  | 事後学習    | 福祉施設実習日誌について確認し、実際に書いてみる。        |
| 第 8 回                          | 実習日誌の書き方について①  | 事前学習    | 福祉実習日誌の書き方について確認しておく。            |
|                                |  | 事後学習    | 福祉施設実習日誌記録のポイントをノートにまとめておく。      |
| 第 9 回                          | 実習日誌の書き方について②  | 事前学習    | 子どもの権利、子どもの 10 の姿について確認してまとめておく。 |
|                                |  | 事後学習    | 福祉施設実習日誌記録のポイントをノートにまとめておく。      |

|      |                            |      |  |
|------|----------------------------|------|--|
| 第10回 | 施設種別ごとの実習の内容と問題点（各自発表）①    | 事前学習 | 各自実習場所の確認をする。                            |
|      |                            | 事後学習 | 福祉実習施設の種別と特徴を文献から確認する。                   |
| 第11回 | 施設種別ごとの実習の内容と問題点（各自発表）②    | 事前学習 | 福祉施設の今日的な問題点についてテキスト・雑誌・新聞等で調べる。         |
|      |                            | 事後学習 | 福祉施設の今日的な課題をまとめて整理する。                    |
| 第12回 | 各福祉施設実習での指導計画①（グループ学習）     | 事前学習 | 福祉施設実習の企画案作成・テキストを参考文献にしながら指導計画を実施する。    |
|      |                            | 事後学習 | 福祉施設実習の企画案作成・テキストを参考文献にしながら、指導計画を複数作成する。 |
| 第13回 | 各福祉施設実習の振り返り               | 事前学習 | 福祉施設実習での実習を振り返り、反省点を考えておく                |
|      |                            | 事後学習 | 福祉施設実習振り返りシートを作成し、各自発表の準備を進める            |
| 第14回 | 施設別の実習の内容と今日的課題（各自・発表）まとめ① | 事前学習 | 福祉施設の問題点と課題の各自発表準備をする。                   |
|      |                            | 事後学習 | 福祉施設の問題点と課題の各自発表の反省と課題をまとめる。             |
| 第15回 | 施設別の実習の内容と今日的課題（各自・発表）まとめ② | 事前学習 | 福祉施設の問題点と課題の各自発表準備をする。                   |
|      |                            | 事後学習 | 福祉施設の問題点と課題の各自発表の反省と課題をまとめる。             |
| 期末試験 |                            |      |  |

|                         |   |         |  |
|-------------------------|---|---------|--|
| 1. 科目名 (単位数)            | 保育実習指導 I (保育所) (1 単位)   | 3. 科目番号 | JNPR1411   |
| 2. 授業担当教員               | 山口 恵美子  |         |  |
| 4. 授業形態                 | 演習、ディスカッション、グループ学習、発表   | 5. 開講学期 | 秋期   |
| 6. 履修条件・他科目との関係         |   |         |  |
| 7. 講義概要                 | 保育実習の意義・目的・内容・方法を理解する。かつ、実習課題の明確化、実習記録の意義・方法の理解、実習施設の理解を図るとともに、実習後には、実習総括・評価を行い、新たな学習目標・課題を明確化する。   |         |  |
| 8. 学習目標                 | 1. 児童福祉施設の内容、機能等を実践現場での体験を通して理解できるようになる。<br>2. 既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養う。<br>3. 保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学び、説明ができることができる。   |         |  |
| 9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題 | アサイメント (宿題)<br>・事前学習部分に示した事柄に取り組んだ上で授業に臨むこと。<br>・実践に役立つ教材製作の課題を提示する。(授業中に指示する)<br>レポート課題設題<br>・「保育実習 I に向けての課題とそれに対する今後の取り組み」について   |         |  |
| 10. 教科書・参考書・教材          | 【教科書】『保育実習の手引き』<br>小櫃智子他『幼稚園・保育所 パーフェクトガイド』わかば社、2017 年<br>【参考書】厚生労働省編『保育所保育指針解説書』<br>※その他、必要に応じてプリント教材を配布する。  |         |  |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法       | ○成績評価の規準<br>1. 児童福祉施設の内容、機能等を実践現場での体験を通して理解できるようになったか。<br>2. 既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養えたか。<br>3. 保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学び、説明ができることができたか。<br>○評定の方法<br>授業態度 (個別学習・グループ学習における意欲的な取り組み) (60%)、課題レポート (20%)、提出物とその内容 (20%) の配分で総合的に評価する。<br>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 |         |  |
| 12. 受講生へのメッセージ          | 保育実習は、これまで履修した科目の学習を前提として行われます。今までの学習全てを現場でフル活用していく心構えで授業に臨んで下さい。さらに実習終了後は、実習での学びを活かして今後履修する科目の学習の糧にして欲しいと願います。実際に子どもの目の前に立つ皆さんは、子どもにとってひとりの大人のモデルとなります。保育者は全人格を問われる職業であることを自覚して、実習事前・事後それぞれに自己課題を明確にもって向上していけるよう頑張ってください。日々の弛まぬ努力を期待しています。   |         |  |
| 13. オフィスアワー             | 別途通知します。  |         |  |
| 14. 授業展開及び授業内容          |   |         |  |
| 講義日程                    | 授業内容  | 学習課題    |  |
| 第 1 回                   | 授業概要の説明・支援室より配属先発表、調書配布。<br>保育実習ガイダンス (保育実習の開始にあたり、保育実習 I・II・III それぞれの実習目標と内容、実習の流れを理解する。保育実習における基礎知識を学習する。)  | 事前学習    | 『保育実習の手引き』『本学の保育実習の概要』(pp. 1-7) を読み、授業に備える。  |
|                         |   | 事後学習    | 保育実習 I (保育所) の実習目標と内容を復習し、ワークシートにまとめる。<br>『保育実習の手引き』『実習に関する基本的ルール』(pp. 9-11) を読み、理解する。調書の下書きを作成する。 |
| 第 2 回                   | 実習に臨む心構えについて (保育実習におけるマナーと勤務の留意点を確認し、実習に臨むうえでの自らの課題を明確にする。)   | 事前学習    | 『保育実習の手引き』『保育実習の留意事項』(pp. 20-23) を読み、理解する。   |
|                         |   | 事後学習    | 保育実習における自己課題を明確にするとともに、今後の具体的な取り組み内容と計画をワークシートにまとめる。   |
| 第 3 回                   | 太陽保育園見学、体験<br>保育園の環境、保育士の仕事、援助等を学習する  | 事前学習    | 太陽保育園について調べておく   |
|                         |   | 事後学習    | 要点を整理し、実習生としてのあるべき姿必要な準備を理解する。   |
| 第 4 回                   | 保育実習における記録の意義について<br>実習記録の望ましい記述方法①子どもの活動場面から   | 事前学習    | 『保育実習の手引き』『実習記録について』(pp. 26-28) を読み、理解する。  |
|                         |   | 事後学習    | 子どもの活動場面を捉える視点を再確認し、『保育所保育指針』『第 2 章 子どもの発達』を熟読する。  |
| 第 5 回                   | 実習記録の望ましい記述方法②クラスの 1 日から  | 事前学習    | 『保育所保育指針』『第 3 章 保育の内容』を読み、理解する。  |
|                         |   | 事後学習    | 規定の書式にまとめて保育所生活の一日の流れを把握するとともに、実習記録を記述する練習を行う。   |
| 第 6 回                   | 保育所実習オリエンテーションへの準備を通して、自らの実習課題を明確にする。   | 事前学習    | 『保育実習の手引き』の「実習生オリエンテーションについて」(pp. 12-15) を読み、理解する。実習オリエンテーションに必要なものを準備する。                          |
|                         |   | 事後学習    | 自身の実習目標を明確にし、ワークシートにまとめる。  |
| 第 7 回                   | 乳幼児の発達の特徴と年齢別による保育の留意点を理解する。  | 事前学習    | 保育内容総論等の教科書で年齢別に集団保育をする際の留意点について調べる。   |
|                         |   | 事後学習    | 年齢・発達過程に応じた援助の考え方についてワークシートにまとめる。  |

|      |  |      |  |
|------|--|------|--|
| 第8回  | 部分実習について理解し、手遊び、読み聞かせ、弾き歌いを実践し、必要な技術について理解する。  | 事前学習 | 手遊びの下調べと絵本・紙芝居、弾き歌いの準備をして授業に持参する。      |
|      |  | 事後学習 | 課題とする指導案を立案し、グループで模擬保育に備えて検討する。        |
| 第9回  | 保育演習①手遊び、読み聞かせ、弾き歌いを実践し省察を行い、望ましい援助とは何かを理解する。  | 事前学習 | 模擬保育に向けてグループ学習を行う。                     |
|      |  | 事後学習 | 模擬保育の反省を行い、実践に関する自己課題を明確にする。           |
| 第10回 | 保育演習②手遊び、読み聞かせ、弾き歌いを実践し、省察を行い、望ましい援助とは何かを理解する。 | 事前学習 | 模擬保育に向けてグループ学習を行う。                     |
|      |  | 事後学習 | 模擬保育の反省を行い、実践に関する自己課題を明確にする。           |
| 第11回 | 保育演習③手遊び、読み聞かせ、弾き歌いを実践し、省察を行い、望ましい援助とは何かを理解する。 | 事前学習 | 模擬保育に向けてグループ学習を行う。                     |
|      |  | 事後学習 | 模擬保育の反省を行い、実践に関する自己課題を明確にする。           |
| 第12回 | 保育演習④リトミック体験を通して、1つの曲で様々な楽しみ方ができることを理解する。      | 事前学習 | リトミックについて調べておく。                        |
|      |  | 事後学習 | リトミック体験の反省をふまえて、スキップや動作、言葉のかけかたを確認しておく |
| 第13回 | 作製したものをグループで確認し互いに練習する中で望ましい援助とは何かを理解する。       | 事前学習 | 自己課題の準備をして授業に持参する。                     |
|      |  | 事後学習 | グループでの自己課題の練習をふまえて発表に備えて検討する。          |
| 第14回 | 保育演習⑤作製したものを発表し模擬保育を実践し、省察を行い、望ましい援助とは何かを理解する。 | 事前学習 | 自己課題発表の練習をしておく。                        |
|      |  | 事後学習 | 互いに発表した内容から、自身の学びにつながることをまとめる。         |
| 第15回 | 実習に向けて最終準備を行い、実習への心構えを再確認する。                   | 事前学習 | 『保育実習の手引き』『実習における留意事項』を再度確認しておく。       |
|      |  | 事後学習 | お礼状の練習、持参する持ち物や必要書類を準備する。              |

|                         |  |         |   |           |     |                  |     |                |     |
|-------------------------|--|---------|---|-----------|-----|------------------|-----|----------------|-----|
| 1. 科目名 (単位数)            | 法学 (憲法を含む) (2 単位)  | 3. 科目番号 | JNGC1402  |           |     |                  |     |                |     |
| 2. 授業担当教員               | 山本 豊   |         |   |           |     |                  |     |                |     |
| 4. 授業形態                 | 講義 (学生への質問、討議、学生の発表、レポート)  | 5. 開講学期 | 秋期  |           |     |                  |     |                |     |
| 6. 履修条件・他科目との関係         | 今後、学ぶことになる法に関する科目の基礎となるものである。すなわち、この科目は法学概論、民法、行政法及び教育法規を学修するときの基礎知識ともなるものである。   |         |   |           |     |                  |     |                |     |
| 7. 講義概要                 | <p>本科目は、国家の基本法である日本国憲法を学習するものである。既に小学校・中学校・高等学校の社会科学・公民・政治経済などの教科等において日本国憲法の内容については、一応学習していることが、前提である。</p> <p>大学での憲法学習は、憲法の意義、日本国憲法の制定の経緯、日本国憲法に規定されている人権や統治機構に関する主な条文及びそれに関連する判例などについて学習する。</p>   |         |   |           |     |                  |     |                |     |
| 8. 学習目標                 | <p>学生には下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 法一般の決まりや法規学習についての基礎知識を身に付けることができる。</li> <li>2. 日本国憲法の基本原理について理解し、説明できる。</li> <li>3. 日本国憲法の人権規定や統治機構について理解し、説明できる。</li> <li>4. 日本国憲法に関する主要な判例を理解する。</li> <li>5. 国家試験 (社会福祉士や精神保健福祉士) や公務員試験 (一般行政職、公立学校教員、公立保育所・認定こども園、警察官など) の受験の基礎となる科目である。試験合格に対応できる力を身に付ける。</li> </ol>   |         |   |           |     |                  |     |                |     |
| 9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎回の授業内容に相当する部分の教科書を読んでおくこと。</li> <li>・ 事前に配布されたレジュメの空欄を埋めておくこと。</li> <li>・ 難解な法律用語は調べておくこと。</li> </ul>  |         |   |           |     |                  |     |                |     |
| 10. 教科書・参考書・教材          | <p>【教科書】<br/>山本豊著『判例・通説を基調とした 法学・憲法』学校図書<br/>授業内容に即したレジュメを配布する。</p> <p>【参考書】<br/>『ポケット六法 平成 31 年度版』有斐閣<br/>東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規</p>   |         |   |           |     |                  |     |                |     |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法       | <p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 法体系における憲法の位置を理解できたか。</li> <li>2. 日本国憲法の体系および重要な条文の内容を理解できたか。</li> <li>3. 憲法の具体的な条文と社会生活の関わりについて関連付けて考えられたか。</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <table border="0"> <tr> <td>授業態度・発表など</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>学習カードの内容・事前学習の内容</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>理解度テスト・事後学習の内容</td> <td>40%</td> </tr> </table>  |         |   | 授業態度・発表など | 30% | 学習カードの内容・事前学習の内容 | 30% | 理解度テスト・事後学習の内容 | 40% |
| 授業態度・発表など               | 30%  |         |   |           |     |                  |     |                |     |
| 学習カードの内容・事前学習の内容        | 30%  |         |   |           |     |                  |     |                |     |
| 理解度テスト・事後学習の内容          | 40%  |         |   |           |     |                  |     |                |     |
| 12. 受講生へのメッセージ          | <p>本科目では、学生個人の思考力、判断力、問題解決能力を養成し、より実践的で具体的な知識を得ることを目的としている。目的を達成するために受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業中は、良き緊張感と集中力を保持して積極的な態度で授業に臨むこと。</li> <li>2. 講義内容について事前に教科書を読み、レジュメの空欄を記入するなどの予習を必ず行い、課題意識をもって講義に臨むこと。</li> <li>3. 自ら進んで発表したり、質問したりして講義内容の理解に努めること。</li> <li>4. 欠席、遅刻、早退をした場合は学習カードにその理由を記入すること。緊急事態が生じない限り、定刻に授業は開始する。</li> <li>5. 授業中の着帽、私語、飲食 (ガムを含む) 等は認めない。また、スマートフォンは机上には置かず、バッグにしまっておくこと。</li> </ol> <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。</li> <li>2. 受講生全体に聞こえる声で話をするとともに、専門用語はわかりやすく説明する。</li> <li>3. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を目指す。</li> <li>4. 遅刻、早退、授業中の着帽、居眠り、私語、スマートフォンの使用など、授業に臨むうえで不適切な言動が見受けられた場合は、厳格に対処する。</li> <li>5. 授業開始前には教室にいるように心がけているので、質問がある人は早めに来室して疑問の解消に努めること。</li> </ol> |         |   |           |     |                  |     |                |     |
| 13. オフィスアワー             | 授業中に別途通知する   |         |   |           |     |                  |     |                |     |
| 14. 授業展開及び授業内容          |  |         |   |           |     |                  |     |                |     |
| 講義日程                    | 授業内容   | 学習課題    |   |           |     |                  |     |                |     |
| 第 1 回                   | 法学の基礎に関する内容  | 事前学習    | 授業内容に相応する教科書の pp. 28~41 を読み、難解な言葉について調べる。                                     |           |     |                  |     |                |     |
|                         |  | 事後学習    | 配布されたレジュメに沿って空欄を埋める。<br>学習カードに理解した内容を書く。                                      |           |     |                  |     |                |     |
| 第 2 回                   | 日本国憲法の成立と構成に関する内容<br>国民主権と象徴天皇制に関する内容  | 事前学習    | 授業内容に相応する教科書の pp. 190~194 を読み、難解な言葉について調べる。配布されたレジュメの空欄を埋めたり、質問内容の答えを記入したりする。 |           |     |                  |     |                |     |
|                         |  | 事後学習    | 本時に学修した内容、理解した内容及び自己課題学習内容などを学習カードに書く。  |           |     |                  |     |                |     |

|      |  |      |   |
|------|--|------|---|
| 第3回  | 日本国憲法の平和主義に関する内容<br>国民の権利義務に関する内容 ①<br>人権総論、包括的基本権と法の下での平等 | 事前学習 | 授業内容に相応する教科書の pp. 196～208 を読み、難解な言葉について調べる。配布されたレジュメの空欄を埋めたり、質問内容の答えを記入したりする。 |
|      |  | 事後学習 | 本時に学修した内容、理解した内容及び自己課題学習内容などを学習カードに書く。  |
| 第4回  | 理解度テスト①<br>国民の権利義務に関する内容 ②<br>精神的自由権                       | 事前学習 | 授業内容に相応する教科書の pp. 208～223 を読み、難解な言葉について調べる。配布されたレジュメの空欄を埋めたり、質問内容の答えを記入したりする。 |
|      |  | 事後学習 | 本時に学修した内容、理解した内容及び自己課題学習内容などを学習カードに書く。  |
| 第5回  | 国民の権利義務に関する内容 ③<br>経済的自由権                                  | 事前学習 | 授業内容に相応する教科書の pp. 223～227 を読み、難解な言葉について調べる。配布されたレジュメの空欄を埋めたり、質問内容の答えを記入したりする。 |
|      |  | 事後学習 | 本時に学修した内容、理解した内容及び自己課題学習内容などを学習カードに書く。  |
| 第6回  | 国民の権利義務に関する内容 ④<br>社会権、参政権                                 | 事前学習 | 授業内容に相応する教科書の pp. 227～235 を読み、難解な言葉について調べる。配布されたレジュメの空欄を埋めたり、質問内容の答えを記入したりする。 |
|      |  | 事後学習 | 本時に学修した内容、理解した内容及び自己課題学習内容などを学習カードに書く。  |
| 第7回  | 国民の権利義務に関する内容 ⑤<br>国務請求権、身体的自由権                            | 事前学習 | 授業内容に相応する教科書の pp. 235～242 を読み、難解な言葉について調べる。配布されたレジュメの空欄を埋めたり、質問内容の答えを記入したりする。 |
|      |  | 事後学習 | 本時に学修した内容、理解した内容及び自己課題学習内容などを学習カードに書く。  |
| 第8回  | 国民の権利義務に関する内容 ⑥<br>国民の義務                                   | 事前学習 | 授業内容に相応する教科書の pp. 242～244 を読み、難解な言葉について調べる。配布されたレジュメの空欄を埋めたり、質問内容の答えを記入したりする。 |
|      |  | 事後学習 | 本時に学修した内容、理解した内容及び自己課題学習内容などを学習カードに書く。  |
| 第9回  | 理解度テスト②<br>統治機構と三権分立に関する内容 ①<br>国会 ①                       | 事前学習 | 授業内容に相応する教科書の pp. 246～256 を読み、難解な言葉について調べる。配布されたレジュメの空欄を埋めたり、質問内容の答えを記入したりする。 |
|      |  | 事後学習 | 本時に学修した内容、理解した内容及び自己課題学習内容などを学習カードに書く。  |
| 第10回 | 統治機構と三権分立に関する内容 ②<br>国会 ②                                  | 事前学習 | 授業内容に相応する教科書の pp. 256～260 を読み、難解な言葉について調べる。配布されたレジュメの空欄を埋めたり、質問内容の答えを記入したりする。 |
|      |  | 事後学習 | 本時に学修した内容、理解した内容及び自己課題学習内容などを学習カードに書く。  |
| 第11回 | 統治機構と三権分立に関する内容 ③<br>内閣                                    | 事前学習 | 授業内容に相応する教科書の pp. 260～267 を読み、難解な言葉について調べる。配布されたレジュメの空欄を埋めたり、質問内容の答えを記入したりする。 |
|      |  | 事後学習 | 本時に学修した内容、理解した内容及び自己課題学習内容などを学習カードに書く。  |
| 第12回 | 統治機構と三権分立に関する内容 ④<br>裁判所 ①                                 | 事前学習 | 授業内容に相応する教科書の pp. 268～274 を読み、難解な言葉について調べる。配布されたレジュメの空欄を埋めたり、質問内容の答えを記入したりする。 |
|      |  | 事後学習 | 本時に学修した内容、理解した内容及び自己課題学習内容などを学習カードに書く。  |
| 第13回 | 理解度テスト ③<br>統治機構と三権分立に関する内容 ⑤<br>裁判所②                      | 事前学習 | 授業内容に相応する教科書の pp. 275～277 を読み、難解な言葉について調べる。配布されたレジュメの空欄を埋めたり、質問内容の答えを記入したりする。 |
|      |  | 事後学習 | 本時に学修した内容、理解した内容及び自己課題学習内容などを学習カードに書く。  |
| 第14回 | 統治機構と三権分立に関する内容 ⑥<br>財政、地方自治                               | 事前学習 | 授業内容に相応する教科書の pp. 277～283 を読み、難解な言葉について調べる。配布されたレジュメの空欄を埋めたり、質問内容の答えを記入したりする。 |
|      |  | 事後学習 | 本時に学修した内容、理解した内容及び自己課題学習内容などを学習カードに書く。  |
| 第15回 | 統治機構と三権分立に関する内容 ⑦<br>理解度テスト ④                              | 事前学習 | 授業内容に相応する教科書の pp. 283～284 を読み、難解な言葉について調べる。配布されたレジュメの空欄を埋めたり、質問内容の答えを記入したりする。 |
|      |  | 事後学習 | 授業を振り返り学習目標が達成できたかどうか自己評価する。課題が残った場合は今後の学習で解決を図る。                             |



|                         |   |         |   |
|-------------------------|---|---------|---|
| 1. 科目名 (単位数)            | ボランティア論 (2単位)   | 3. 科目番号 | GELA1350  |
| 2. 授業担当教員               | 佐藤 惟  |         |   |
| 4. 授業形態                 | 講義 (ディスカッションを含む)  | 5. 開講学期 | 秋期  |
| 6. 履修条件・他科目との関係         |   |         |   |
| 7. 講義概要                 | <p>今日、わが国においてボランティア活動は大きな注目を集めている。阪神・淡路大震災においてボランティアの貢献度が新たに見直され、以後、学問的なボランティア論としての研究も活発になされるようになった。ボランティア活動は今日、様々な内容に拡大化、多様化しているが、同時にいくつかの課題も浮き彫りにされてきている。本講義において、福祉ボランティアを中心に、活動の現状と課題を探り、今後ボランティアコーディネーターとしての活躍も期待されている福祉系の学生が、必要な知識を会得するよう、講義、視聴覚教材、受講生による発表とディスカッションを通して学習する。</p>  |         |   |
| 8. 学習目標                 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ボランティアの意味と特徴、活動の歴史を理解し、説明できるようになる。</li> <li>2. 今日のボランティア活動の現状と、そこにおける課題を理解し、説明できるようになる。</li> <li>3. 実際に行われているボランティア活動のひとつに着目し、深く掘り下げて学習し理解を深める。</li> <li>4. ボランティアコーディネーターに求められているボランティア指導の方法を理解することができる。</li> </ol>  |         |   |
| 9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題 | <p>授業で示されたテーマのうち自分の関心のあるもの一つを選び、各自で調べた内容についてパワーポイントを用いてグループごとにプレゼンテーションを行ってもらおう。また、自分のこれまでのボランティア経験を振り返りレポートを作成する。プレゼンテーションおよびレポートの形式については授業内で指示する。</p>   |         |   |
| 10. 教科書・参考書・教材          | <p>【教科書】<br/>指定しない (プリント資料を毎回配布する)。<br/>【参考書】<br/>小倉常明・松藤和生編著『いちばんはじめのボランティア』樹村房、2005。<br/>巡静一・早瀬昇編『基礎から学ぶボランティアの理論と実際』中央法規出版、1997。<br/>田中優著『幸せを届けるボランティア 不幸を招くボランティア』河出文庫、2017。<br/>岡本榮一・菅井直也・妻鹿ふみ子編『学生のためのボランティア論』大阪ボランティア協会、2006。</p>  |         |   |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法       | <p>○成績評価の規準<br/> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ボランティアの意味と特徴、活動の歴史を理解し、説明できるようになったか。</li> <li>2. 今日のボランティア活動の現状と、そこにおける課題を理解し、説明できるようになったか。</li> <li>3. 実際に行われているボランティア活動のひとつに着目し、深く掘り下げて学習し理解を深めることができたか。</li> <li>4. ボランティアコーディネーターに求められているボランティア指導の方法を理解することができたか。</li> </ol> ○評定の方法<br/>           授業への積極的参加度 40% 課題レポート 30% 期末評価 (レポート・試験等) 30%<br/>           ※ 東京福祉大学の学則 (第 36 条) に則り、成績評価に必要な出席時間数を満たしていない受講生の評価は行わない。</p> |         |   |
| 12. 受講生へのメッセージ          | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 正当な理由なく授業を欠席・遅刻・早退をしないこと。やむを得ない事情で欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教師に書面をもって報告すること。</li> <li>2. 授業中は携帯電話やPHS等の電源は切り、私語・居眠りは慎み、常に緊張感と集中力を保つこと。</li> <li>3. 授業での積極的な取り組みを評価するので、グループ・ディスカッションや意見の発表時には間違いを恐れず、主体的に取り組むこと。</li> <li>4. 授業中に指示された課題の提出期限は守ること。</li> <li>5. 可能な範囲で、自ら積極的にボランティア活動に取り組むこと。施設ボランティアだけがボランティアではない。エコキャップや使用済み切手の収集と提供などもボランティアである。</li> </ol>   |         |   |
| 13. オフィスアワー             | 授業内で別途通知する。   |         |   |
| 14. 授業展開及び授業内容          |   |         |   |
| 講義日程                    | 授業内容  | 学習課題    |   |
| 第1回                     | 授業ガイダンス (教員の自己紹介、受講生の自己紹介—ボランティア体験や関心のあるボランティアについて、授業の進め方の説明など)   | 事前学習    | これまでの自分のボランティア経験や、ボランティアについて自分が持っているイメージを書き出しておく。 |
|                         |   | 事後学習    | 自分が関心を持っているボランティア活動について考え、まとめる。                   |
| 第2回                     | ボランティア活動の理念、ボランティア活動の現状；映像視聴  | 事前学習    | ボランティア活動の理念および社会の現状について調べておく。                     |
|                         |   | 事後学習    | 学習した内容を整理し、ボランティア活動について学んだ点をまとめる。                 |
| 第3回                     | 東京オリンピック・パラリンピックとボランティア   | 事前学習    | 東京オリンピック・パラリンピックのボランティアについて調べておく。                 |
|                         |   | 事後学習    | 東京オリンピック・パラリンピックのボランティアについて学んだ点をまとめる。             |
| 第4回                     | 外部講師による講演：傾聴ボランティアについて  | 事前学習    | 電話相談ボランティアや傾聴ボランティアについて調べておく。                     |
|                         |   | 事後学習    | 講演を聞いて学んだ内容を復習する。                                 |
| 第5回                     | 教育とボランティア   | 事前学習    | 教育に関わるボランティアについて調べておく。                            |
|                         |   | 事後学習    | 教育に関わるボランティアについて授業で学んだ要点をまとめる。                    |

|                   |  |      |   |
|-------------------|--|------|---|
| 第6回               | 子どもとボランティア   | 事前学習 | 子どものボランティアについて調べておく。                                      |
|                   |  | 事後学習 | 子どものボランティアについて授業で学んだ要点をまとめる。                              |
| 第7回               | 高齢者とボランティア、障害者とボランティア  | 事前学習 | 高齢者および障害者のボランティアについて調べておく。                                |
|                   |  | 事後学習 | 高齢者および障害者のボランティアについて授業で学んだ要点をまとめる。                        |
| 第8回               | 外国人とボランティア   | 事前学習 | 外国人を対象としたボランティアについて調べておく。                                 |
|                   |  | 事後学習 | 外国人を対象としたボランティアについて授業で学んだ要点をまとめる。                         |
| 第9回               | 町内会・自治会とボランティア、ボランティア活動の実際   | 事前学習 | 町内会・自治会について調べておく。ボランティアを始めるにあたって留意すべき点について自分で考え、まとめる。     |
|                   |  | 事後学習 | 町内会・自治会について授業で学んだ要点をまとめる。ボランティア活動を始めるにあたって留意すべき点についてまとめる。 |
| 第10回              | 民生委員・児童委員、保護司、その他の地域のボランティア  | 事前学習 | 民生委員・児童委員および保護司について調べておく。                                 |
|                   |  | 事後学習 | 民生委員・児童委員および保護司について授業で学んだ要点をまとめる。                         |
| 第11回              | ボランティアコーディネーターとボランティアマネジメント  | 事前学習 | ボランティアを受け入れる立場に立って、ボランティア活動を考えてみる。                        |
|                   |  | 事後学習 | ボランティアコーディネーターに求められる能力について考え、まとめる。                        |
| 第12回              | 日本におけるボランティアの歴史、海外におけるボランティアの歴史  | 事前学習 | 日本および欧米におけるボランティアの起源や歴史、発展について、調べておく。                     |
|                   |  | 事後学習 | 欧米のボランティア活動の歴史の変遷について、授業で学んだ要点をまとめる。                      |
| 第13回              | 災害ボランティア；グループ発表①   | 事前学習 | 災害ボランティアについて調べておく。  |
|                   |  | 事後学習 | 災害ボランティアについて授業で学んだ要点をまとめる。                                |
| 第14回              | NPOと企業の社会貢献(CSR)；グループ発表②   | 事前学習 | NPOと企業の社会貢献(CSR)について各自で調べ、簡潔にまとめてくる。                      |
|                   |  | 事後学習 | 企業が社会貢献を行うことの意義について、ポイントをまとめる。                            |
| 第15回              | まとめ；グループ発表③  | 事前学習 | これまでに学んだ内容を改めて振り返り、関心のあるテーマについてまとめておく。                    |
|                   |  | 事後学習 | 「人はなぜボランティアを行うのか？」について考え、自分の経験も踏まえてレポートにまとめる。             |
| 15.実務経験を有する教員特記事項 | 民間の訪問介護事業者での訪問介護員、及び病院における生活相談員、介護職員等の業務経験の知見を活かし、「7」に示す講義概要に則した講義を行う。 |      |   |

|                         |   |      |                                     |          |      |     |          |     |     |     |
|-------------------------|---|------|-------------------------------------|----------|------|-----|----------|-----|-----|-----|
| 1. 科目名 (単位数)            | 幼児教育方法論 (2 単位)  |      | 3. 科目番号                             | JEEL1402 |      |     |          |     |     |     |
| 2. 授業担当教員               | 瑞穂 優  |      |                                     |          |      |     |          |     |     |     |
| 4. 授業形態                 | 講義と演習 (事前学習成果の報告や協議) を通して幼児教育の方法を理解し、豊かな教育実践の基礎を身に付けることを重視する。   |      | 5. 開講学期                             | 秋期       |      |     |          |     |     |     |
| 6. 履修条件・他科目との関係         |   |      |                                     |          |      |     |          |     |     |     |
| 7. 講義概要                 | 幼児期の遊びと学び 保育所や幼稚園の役割、保育者の意識改革、子どもの側に立った指導方法、教材の検討、保護者との連携、地域の活用、指導案の作成方法等について学習する。  |      |                                     |          |      |     |          |     |     |     |
| 8. 学習目標                 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児教育・保育の方法の基本について理解する。</li> <li>2. どのように幼児を理解するか、その在り方を様々な角度から考えられる眼を養う。</li> <li>3. 幼児の発達にふさわしい保育内容及び指導法の在り方について理解し、説明できる。</li> <li>4. 幼児理解を深めるための記録の方法について理解し、習得する。</li> <li>5. 保育に生かす情報メディアについて学び、習得する。</li> <li>6. 幼小の学びの関連性を理解し、説明できる。</li> </ol>  |      |                                     |          |      |     |          |     |     |     |
| 9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ワークシート (授業で配布します) を仕上げ提出する。</li> <li>2. 模擬保育記録を作成し、提出する。</li> </ol>   |      |                                     |          |      |     |          |     |     |     |
| 10. 教科書・参考書・教材          | <p>【教科書】<br/>小田豊・青井倫子 編著『幼児教育の方法』北大路書房。</p> <p>【参考資料】<br/>保育所保育指針 (平成 29 年 3 月告示 厚生労働省)<br/>幼稚園教育要領、幼稚園教育要領解 (平成 29 年 3 月告示 文部科学省)<br/>幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 (平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)</p>  |      |                                     |          |      |     |          |     |     |     |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法       | <p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 幼児教育・保育の方法の基本について理解できているか。</li> <li>2 環境を通して行う教育や遊びの指導における保育者の役割に関する基礎的な能力を身に付けているか。</li> <li>3 様々な教材、指導法のメリットやデメリットを理解し、実践に生かそうとする姿勢が見られるか。</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <table border="0"> <tr> <td>授業態度</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>提出物、レポート</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>テスト</td> <td>30%</td> </tr> </table> |      |                                     |          | 授業態度 | 40% | 提出物、レポート | 30% | テスト | 30% |
| 授業態度                    | 40%   |      |                                     |          |      |     |          |     |     |     |
| 提出物、レポート                | 30%   |      |                                     |          |      |     |          |     |     |     |
| テスト                     | 30%   |      |                                     |          |      |     |          |     |     |     |
| 12. 受講生へのメッセージ          |   |      |                                     |          |      |     |          |     |     |     |
| 13. オフィスアワー             | 別途通知する。   |      |                                     |          |      |     |          |     |     |     |
| 14. 授業展開及び授業内容          |   |      |                                     |          |      |     |          |     |     |     |
| 講義日程                    | 授業内容  | 学習課題 |                                     |          |      |     |          |     |     |     |
| 第 1 回                   | 授業の概要とすすめ方  | 事前学習 | シラバスを読んでくる。                         |          |      |     |          |     |     |     |
|                         |   | 事後学習 | 自分の幼児期を振り返り、幼児教育や保育について考える。         |          |      |     |          |     |     |     |
| 第 2 回                   | 保育とは何か  | 事前学習 | 教科書 pp2-3 を読んでくる。                   |          |      |     |          |     |     |     |
|                         |   | 事後学習 | 幼稚園と保育所の保育の違いをまとめる。                 |          |      |     |          |     |     |     |
| 第 3 回                   | 環境を通しての保育   | 事前学習 | これまでの授業で学んだ「環境を通しての保育」について、振り返ってくる。 |          |      |     |          |     |     |     |
|                         |   | 事後学習 | 乳幼児期にふさわしい環境についてまとめる。               |          |      |     |          |     |     |     |
| 第 4 回                   | 遊びを通しての保育   | 事前学習 | これまでの授業で学んだ「遊びを通しての保育」について、振り返ってくる。 |          |      |     |          |     |     |     |
|                         |   | 事後学習 | 乳幼児期にふさわしい遊びについてまとめる。               |          |      |     |          |     |     |     |
| 第 5 回                   | さまざまな保育形態   | 事前学習 | 自分の通った園の保育形態を思い出してくる。               |          |      |     |          |     |     |     |
|                         |   | 事後学習 | さまざまな保育形態について整理する。                  |          |      |     |          |     |     |     |
| 第 6 回                   | 子どもの主体性とは   | 事前学習 | 主体性と自発性という言葉について調べてくる。              |          |      |     |          |     |     |     |
|                         |   | 事後学習 | 子どもの主体性、自主性について自分の考えをまとめる。          |          |      |     |          |     |     |     |
| 第 7 回                   | 主体性をはぐくむ保育  | 事前学習 | 教科書 pp30-32 を読んでくる。                 |          |      |     |          |     |     |     |
|                         |   | 事後学習 | 主体性をはぐくむために保育者がすべきことについてまとめる。       |          |      |     |          |     |     |     |
| 第 8 回                   | 主体性をはぐくむ保育者のかかわり  | 事前学習 | 教科書 p p 32-35 を読んでくる。               |          |      |     |          |     |     |     |
|                         |   | 事後学習 | 主体性をはぐくむ保育者のかかわりについて振り返りまとめておく。     |          |      |     |          |     |     |     |
| 第 9 回                   | 遊びのなかの学び  | 事前学習 | 自分の好きだった遊びを書きだしてくる。                 |          |      |     |          |     |     |     |
|                         |   | 事後学習 | 子どもにとっての学びとはどのようなものかまとめる。           |          |      |     |          |     |     |     |
| 第 10 回                  | 乳幼児の遊びの発達   | 事前学習 | これまでに学んだ遊びを発達に従って書き出してくる。           |          |      |     |          |     |     |     |
|                         |   | 事後学習 | 子どもの遊びと発達との関係についてまとめる。              |          |      |     |          |     |     |     |
| 第 11 回                  | 指導計画と保育の展開  | 事前学習 | 実習園について調べてくる。                       |          |      |     |          |     |     |     |
|                         |   | 事後学習 | 指導案の作成方法について確認しておく。                 |          |      |     |          |     |     |     |
| 第 12 回                  | 保育における省察  | 事前学習 | 教科書 pp87-88 を読んでくる。                 |          |      |     |          |     |     |     |
|                         |   | 事後学習 | 保育を振り返る意義についてまとめる。                  |          |      |     |          |     |     |     |

|      |                   |      |                                 |
|------|-------------------|------|---------------------------------|
| 第13回 | 幼児期の教育と小学校教育の連携   | 事前学習 | 幼児期の教育と小学校教育の違いについて考えてくる。       |
|      |                   | 事後学習 | 幼児期の保育が小学校教育とどのように繋がっていくのかまとめる。 |
| 第14回 | 保育におけるカウンセリングマインド | 事前学習 | 教科書 pp14-145 の事例を読んでくる。         |
|      |                   | 事後学習 | 保育者として必要なカウンセリングマインドについてまとめる。   |
| 第15回 | まとめ               | 事前学習 | これまでの授業を振り返ってくる。                |
|      |                   | 事後学習 | これまでの授業で学んだことをまとめ、実習にむけて整理する。   |
| 期末試験 |                   |      |                                 |

|                         |   |         |   |
|-------------------------|---|---------|---|
| 1. 科目名 (単位数)            | 幼稚園教育実習指導 I (1 単位)  | 3. 科目番号 | JNEL1431  |
| 2. 授業担当教員               | 山本 健志郎  |         |   |
| 4. 授業形態                 | 講義や演習 (基本的な実習の内容、心構えと準備、日誌の記入等)、部分保育についてグループで討議し、計画と実践、反省を具体的に体験して実践的に学び合うことを重視します。   | 5. 開講学期 | 秋期  |
| 6. 履修条件・他科目との関係         |   |         |   |
| 7. 講義概要                 | 幼稚園教育実習は、幼稚園において幼児とともに生活する中で、保育者の援助を受けながら保育の実際を経験することによって、学習で身につけた知識や技術をより確実なものとし、幼稚園教育の理解を深める場となる機会である。<br>授業を通して保育者としての資質や能力、使命感について認識を深め、実習に臨む際の課題を明確にする。  |         |   |
| 8. 学習目標                 | 以下のような観点から学習し、身に付けたり理解を図ることによって、実習を行えるようにすることを学習目標とします。<br>1. 実習に必要な心構えと準備について理解し、行動に移すことができるようになる。<br>2. 保育者に求められる資質、態度、マナーを理解し、説明できるようになる。<br>3. 実習記録の意味と方法を理解し、記入できるようになる。<br>4. 指導計画の立て方を知り、保育者の具体的な指導の仕方を体験的に理解して説明できるようになる。<br>5. 実習に向けての自己課題を設け、実習に向けて準備をする。 |         |   |
| 9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題 | 部分保育の指導 (保育) 計画を作成し提出する。<br>模擬保育の体験を通して学んだことを中心に、教育実習に生かしていきたい保育者の心構え、幼児理解、環境の構成や援助などをまとめる。   |         |   |
| 10. 教科書・参考書・教材          | 【教科書】<br>玉置哲淳・島田ミチコ監修『幼稚園教育実習』建帛社<br>文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018 年<br>内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2018 年<br>東京福祉大学編『幼稚園教育実習の手引き』  |         |   |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法       | ○成績評価の規準<br>1 実習に必要な心構えや実習日誌の書き方などを理解し、教育実習の課題や目標を設定できる。<br>2 保育の内容や方法について理解を深め、部分保育の指導計画を作成できる。<br>○評定の方法・・・授業態度、課題やレポートの提出等を総合して評価する。<br>授業態度 30%、<br>提出物・レポート 70%  |         |   |
| 12. 受講生へのメッセージ          | 幼稚園教育の基本、幼児理解や環境の構成、一人一人の幼児への援助等について体験を通して具体的に理解を深め、幼稚園教育実習 I に目標をもち、意欲的に臨めるようにしましょう。   |         |   |
| 13. オフィスアワー             | 別途通知  |         |   |
| 14. 授業展開及び授業内容          |   |         |   |
| 講義日程                    | 授業内容  | 学習課題    |   |
| 第 1 回                   | 授業の概要、授業計画。<br>幼児期の特性、幼稚園教育の役割、教育の基本等について確認する。<br>幼稚園における教育実習の目的と内容   | 事前学習    | 『幼稚園教育実習の手引き』を読み、概要を理解して授業に臨む。                            |
|                         |   | 事後学習    | 『幼稚園教育実習の手引き』を読み直し、ワークシートに教育実習の基本事項を記述しまとめる。              |
| 第 2 回                   | 教育実習に臨む姿勢について<br>保育者としてのマナー (あいさつ、言葉づかい、服装、生活習慣、社会的習慣など)  | 事前学習    | 『幼稚園教育要領解説』、『幼保連携型認定こども園教育保育要領解説』を読み、教育実習を行う際の基本的事項を確認する  |
|                         |   | 事後学習    | ワークシートに自身の教育実習への期待等を記入する。初めて実習園を訪問する際のあいさつの仕方について文章化しておく。 |
| 第 3 回                   | 実習記録の意義について、<br>実習日誌の内容や様式等について理解する。<br>実習の課題や実習園への礼状の書き方   | 事前学習    | HP 等で自分が行く実習園の概要、特色、大まかな一日の流れ等を調べておき、実習日誌に記入できるようにしておく。   |
|                         |   | 事後学習    | 決められた書式にあてはめ、お礼状を書く。<br>(レポート)                            |
| 第 4 回                   | 観察実習・参加実習の意義、目的、方法<br>実習日誌の書き方 (1)<br>記録の取り方との表記の仕方   | 事前学習    | 教科書の該当するページを読み、実習日誌の様式や内容など全体像を把握しておく。                    |
|                         |   | 事後学習    | 授業中に提示された具体例をもとに仮の 1 日の実習記録を書いてみる。                        |
| 第 5 回                   | 実習日誌の書き方 (2)<br>一日の反省とまとめ方と表記の仕方<br>模擬保育のグループ活動班を決める。   | 事前学習    | 実習記録を書く上での疑問や課題を口頭で発表できるようにしておく。                          |
|                         |   | 事後学習    | 仮の実習記録を修正し、清書して提出する。<br>(レポート)                            |
| 第 6 回                   | 部分実習の意義、目的、方法<br>部分実習の活動選定の視点と指導上の工夫<br>模擬保育の活動について協議 (グループ活動)  | 事前学習    | 幼稚園や認定こども園の一日の流れを把握し、部分保育の内容に何があるか調べておく。                  |

|      |   |      |  |
|------|---|------|--|
|      |   | 事後学習 | グループで取り組みたい模擬保育の活動（対象学年も）に関する資料を教科書や様々な文献、情報機器から探す。        |
| 第7回  | 部分実習の指導計画の立て方（ねらいや内容の設定の仕方）<br>模擬保育のねらいや内容の設定（グループ活動）                     | 事前学習 | 教科書の該当するページを読み、指導計画を作成する上での疑問や課題を口頭で発表できるようにしておく           |
|      |   | 事後学習 | 授業で配付された指導計画用紙に、グループで協議した結果（ねらいや内容）を鉛筆でメモ書きしておく。           |
| 第8回  | 部分実習の指導計画の立て方（環境構成や援助・留意点）<br>指模擬保育の環境構成と予想される幼児の活動<br>保育者の援助・留意点（グループ活動） | 事前学習 | 模擬保育に必要な素材や用具、場や空間を考えておく。                                  |
|      |   | 事後学習 | 指導計画に環境の構成、予想される幼児の活動、保育者の援助・留意点を検討し、記入して完成させる。            |
| 第9回  | 模擬保育（1）の実施と観察・記録<br>模擬保育（1）の協議と反省評価                                       | 事前学習 | 模擬保育（1）の提案者は指導計画を前日までに提出し、授業前までに教材や用具等を準備しておく。             |
|      |   | 事後学習 | 模擬保育（1）の記録を整理して、次回に提出できるようにしておく                            |
| 第10回 | 模擬保育（2）の実施と観察・記録<br>模擬保育（2）の協議と反省評価                                       | 事前学習 | 模擬保育（2）の提案者は指導計画を前日までに提出し、授業前までに教材や用具等を準備しておく。             |
|      |   | 事後学習 | 模擬保育（2）の記録を整理して、次回に提出できるようにしておく                            |
| 第11回 | 模擬保育（3）の実施と観察・記録<br>模擬保育（3）の協議と反省評価                                       | 事前学習 | 模擬保育（3）の提案者は指導計画を前日までに提出し、授業前までに教材や用具等を準備しておく。             |
|      |   | 事後学習 | 模擬保育（3）の記録を整理して、次回に提出できるようにしておく                            |
| 第12回 | 模擬保育（4）の実施と観察・記録<br>模擬保育（4）の協議と反省評価                                       | 事前学習 | 模擬保育（4）の提案者は指導計画を前日までに提出し、授業前までに教材や用具等を準備しておく。             |
|      |   | 事後学習 | 模擬保育（4）の記録を整理して、次回に提出できるようにしておく                            |
| 第13回 | 模擬保育（5）の実施と観察・記録<br>模擬保育（5）の協議と反省評価                                       | 事前学習 | 模擬保育（5）の提案者は指導計画を前日までに提出し、授業前までに教材や用具等を準備しておく。             |
|      |   | 事後学習 | 模擬保育（5）の記録を整理して、次回に提出できるようにしておく                            |
| 第14回 | 模擬保育を通して学んだこと、幼稚園教育実習Ⅰの目標や課題についての発表と協議                                    | 事前学習 | 模擬保育を通して学んだこと、疑問や課題等を発表できるようにしておく。                         |
|      |   | 事後学習 | 協議も含めて幼稚園教育実習Ⅰに生かしていきたいことなどをまとめる。                          |
| 第15回 | 実習園でのオリエンテーション、実習準備事項の確認<br>実習中の連絡・報告について、巡回指導について、実習事後指導について             | 事前学習 | 今までの学習を整理しておく。   |
|      |   | 事後学習 | 第13回・14回にまとめたレポートに、幼稚園教育実習Ⅰの課題や目標を記入し、期末レポートとして提出する。（レポート） |

|                         |   |         |  |
|-------------------------|---|---------|--|
| 1. 科目名 (単位数)            | 幼稚園教育実習指導 I (1 単位)  | 3. 科目番号 | JNEL1431   |
| 2. 授業担当教員               | 荒木 由紀子  |         |  |
| 4. 授業形態                 | 講義や演習 (基本的な実習の内容、心構えと準備、日誌の記入等)、部分保育についてグループで討議し、計画と実践、反省を具体的に体験して実践的に学び合うことを重視します。   | 5. 開講学期 | 秋期   |
| 6. 履修条件・他科目との関係         |   |         |  |
| 7. 講義概要                 | 幼稚園教育実習は、幼稚園において幼児とともに生活する中で、保育者の援助を受けながら保育の実践を経験することによって、学習で身につけた知識や技術をより確実なものとし、幼稚園教育の理解を深める場となる機会である。<br>授業を通して保育者としての資質や能力、使命感について認識を深め、実習に臨む際の課題を明確にする。  |         |  |
| 8. 学習目標                 | 以下のような観点から学習し、身に付けたり理解を図ることによって、実習を行えるようにすることを学習目標とします。<br>1. 実習に必要な心構えと準備について理解し、行動に移すことができるようになる。<br>2. 保育者に求められる資質、態度、マナーを理解し、説明できるようになる。<br>3. 実習記録の意味と方法を理解し、記入できるようになる。<br>4. 指導計画の立て方を知り、保育者の具体的な指導の仕方を体験的に理解して説明できるようになる。<br>5. 実習に向けての自己課題を設け、実習に向けて準備をする。 |         |  |
| 9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題 | 部分保育の指導 (保育) 計画を作成し提出して下さい。<br>模擬保育の体験を通して学んだことを中心に、教育実習に生かしていきたい保育者の心構え、幼児理解、環境の構成や援助などをまとめていきます。  |         |  |
| 10. 教科書・参考書・教材          | 教科書<br>玉置哲淳・島田ミチコ監修『幼稚園教育実習』建帛社<br>文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018 年<br>内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2018 年<br>東京福祉大学編『幼稚園教育実習の手引き』  |         |  |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法       | ○成績評価の規準<br>1 実習に必要な心構えや実習日誌の書き方などを理解し、教育実習の課題や目標を設定できる。<br>2 保育の内容や方法について理解を深め、部分保育の指導計画を作成できる。<br>○評定の方法・・・授業態度、課題やレポートの提出等を総合して評価する。<br>授業態度 30%、<br>提出物・レポート 70%  |         |  |
| 12. 受講生へのメッセージ          | 幼稚園教育の基本、幼児理解や環境の構成、一人一人の幼児への援助等について体験を通して具体的に理解を深めます。授業中のマナーや意欲を大切にしたいと思います。幼稚園教育実習 I に目標をもち、意欲的に臨めるようにしましょう。  |         |  |
| 13. オフィスアワー             | 別途通知します。  |         |  |
| 14. 授業展開及び授業内容          |   |         |  |
| 講義日程                    | 授業内容  | 学習課題    |  |
| 第 1 回                   | 授業の概要、授業計画。<br>幼児期の特性、幼稚園教育の役割、教育の基本等について確認する。<br>幼稚園における教育実習の目的と内容   | 事前学習    | 『幼稚園教育実習の手引き』を読み、概要を理解して授業に臨む。                           |
|                         |   | 事後学習    | 『幼稚園教育実習の手引き』を読み直し、教育実習の基本事項を記述しまとめる。                    |
| 第 2 回                   | 教育実習に臨む姿勢について<br>保育者としてのマナー (あいさつ、言葉づかい、電話のかけ方、服装、生活習慣、社会的習慣など)   | 事前学習    | 『幼稚園教育要領解説』、『幼保連携型認定こども園教育保育要領解説』を読み、教育実習を行う際の基本的事項を確認する |
|                         |   | 事後学習    | 自身の教育実習への期待等を記入する。初めて実習園を訪問する際のあいさつや自己紹介の仕方について文章化しておく。  |
| 第 3 回                   | 実習記録の意義について、<br>実習日誌の内容や様式等について理解する。<br>実習の課題   | 事前学習    | HP 等で自分が行く実習園の概要、特色、大まかな一日の流れ等を調べておき、実習日誌に記入できるようにしておく。  |
|                         |   | 事後学習    | 自分の課題を文章化しておく。   |
| 第 4 回                   | 実習でであろう子どもたち・保育場面を知る<br>～DVD を視聴し、記録を書いてみる～   | 事前学習    | 子どもの発達の流れを理解しておく。  |
|                         |   | 事後学習    | 授業中に提示された具体例をもとに生活の一部分の記録を書いてみる。                         |
| 第 5 回                   | 観察実習・参加実習の意義、目的、方法<br>実習日誌の書き方 (1) 記録の取り方との表記の仕方  | 事前学習    | 第 4 回までで学んだことを基にして、更に内容を深める。                             |
|                         |   | 事後学習    | 自他の発表の良いところを記録しておく。                                      |
| 第 6 回                   | 実習日誌の書き方 (2)<br>一日の反省とまとめ方と表記の仕方  | 事前学習    | 実習記録を書く上での疑問や課題を口頭で発表できるようにしておく。                         |
|                         |   | 事後学習    | 仮の実習記録を修正し、清書して提出する。(レポート)                               |
| 第 7 回                   | 部分実習の意義、目的、方法<br>部分実習の活動選定の視点と指導上の工夫  | 事前学習    | 幼稚園や認定こども園の一日の流れを把握し、部分保育の内容にどのようなものがある                  |

|      |   |      |   |
|------|---|------|---|
|      | 模擬保育の活動について協議と発表<br>(グループ活動)  |      | か調べておく。   |
|      |   | 事後学習 | グループで取り組みたい模擬保育の活動(対象学年も)に関する資料を教科書や様々な文献、情報機器から探す。                 |
| 第8回  | 部分実習の指導計画の立て方(ねらいや内容の設定の仕方)<br>模擬保育のねらいや内容の設定、発表<br>(グループ活動)  | 事前学習 | 教科書の該当するページを読み、指導計画を作成する上での疑問や課題を口頭で発表できるようにしておく                    |
|      |   | 事後学習 | グループで協議した結果(ねらいや内容)を鉛筆でメモ書きしておく。                                    |
| 第9回  | 部分実習の指導計画の立て方(環境構成や援助・留意点)<br>指模擬保育の環境構成と予想される幼児の活動<br>保育者の援助・留意点などの発表(グループ活動)<br>模擬保育のグループ活動班を決める。 | 事前学習 | 模擬保育に必要な素材や用具、場や空間を考えておく。   |
|      |   | 事後学習 | 指導計画に環境の構成、予想される幼児の活動、保育者の援助・留意点を検討し、記入して完成させる。                     |
| 第10回 | 模擬保育(1)満3歳児対象の実施と観察・記録<br>模擬保育(1)の協議と反省評価   | 事前学習 | 模擬保育(1)の提案者は指導計画を前日までに提出し、授業前までに教材や用具等を準備しておく。                      |
|      |   | 事後学習 | 模擬保育(1)の記録を整理して、次回に提出できるようにしておく                                     |
| 第11回 | 模擬保育(2)3歳児対象の実施と観察・記録<br>模擬保育(2)の協議と反省評価  | 事前学習 | 模擬保育(2)の提案者は指導計画を前日までに提出し、授業前までに教材や用具等を準備しておく。                      |
|      |   | 事後学習 | 模擬保育(2)の記録を整理して、次回に提出できるようにしておく。                                    |
| 第12回 | 模擬保育(3)4歳児対象の実施と観察・記録<br>模擬保育(3)協議と反省評価   | 事前学習 | 模擬保育(3)の提案者は指導計画を前日までに提出し、授業前までに教材や用具等を準備しておく。                      |
|      |   | 事後学習 | 模擬保育(3)の記録を整理して、次回に提出できるようにしておく                                     |
| 第13回 | 模擬保育(4)5歳児対象の実施と観察・記録<br>模擬保育(4)協議と反省評価   | 事前学習 | 模擬保育(4)の提案者は指導計画を前日までに提出し、授業前までに教材や用具等を準備しておく                       |
|      |   | 事後学習 | 模擬保育(4)の記録を整理して、次回に提出できるようにしておく                                     |
| 第14回 | 模擬保育を通して学んだこと、幼稚園教育実習Ⅰの目標や課題についての発表   | 事前学習 | 模擬保育を通して学んだこと、疑問や課題等を発表できるようにしておく。                                  |
|      |   | 事後学習 | 模擬保育を通して学んだこと、疑問や課題等を発表できるようにしておく。                                  |
| 第15回 | 実習園でのオリエンテーション、実習準備事項の確認<br>実習中の連絡・報告について、巡回指導について、実習事後指導、礼状の書き方について                                | 事前学習 | 今までの学習を整理しておく。  |
|      |   | 事後学習 | 第10～14回のまとめのレポートに、幼稚園教育実習Ⅰの課題や目標を記入及び礼状の下書きを行い、期末レポートとして提出する。(レポート) |



|                       |   |         |                     |
|-----------------------|---|---------|---------------------|
| 1. 科目名 (単位数)          | レクリエーション理論 (2 単位)   | 3. 科目番号 | GEBS2303            |
| 2. 授業担当教員             | 相原 豊  |         | GEHL2314            |
| 4. 授業形態               | 講義・演習 (配布資料または参考書を用い、ディスカッションやワーク、実技を行う)  | 5. 開講学期 | 秋期                  |
| 6. 履修条件・他科目との関係       | レクリエーション関係の授業を履修すると理解が深まる。  |         |                     |
| 7. 講義概要               | <p>健康づくり、保育、教育、地域づくりなど幅広い領域で用いられているレクリエーションについて、これからの社会の課題などと関連させながら学習する。また、様々な対象(幼児・児童・生徒・成人・高齢者など)に対応したレクリエーション援助の意義について理解するとともに、多様な場面での対象者にふさわしいレクリエーション支援の技術(個別・グループ・環境)を実践的に身に付け、活用できるようにする。</p> <p>授業では基礎理論とその実践を、対象者を挙げながら講義していく。また、レクリエーションの企画・運営の演習を交えながらレクリエーションの意義を学ぶ。特に、対象の背景や特性からレクリエーションの目的・目標や、どのようなレクリエーションプログラムが適切かを考え、それを実践し評価・反省することにより、レクリエーション支援の理論を学習していく。</p>  |         |                     |
| 8. 学習目標               | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本レクリエーション協会公認レクリエーション・インストラクターの資格の取得を目指す(取得希望者)。</li> <li>2. レクリエーションの基礎理論を理解し、説明できる。</li> <li>3. 様々な現場での様々な対象者にあつたレクリエーションの援助方法を知る。</li> <li>4. レクリエーションの企画・運営ができる理論・知識を身につける。</li> </ol>   |         |                     |
| 9. アサイメント(宿題)及びレポート課題 | <p>課題1 レクリエーションの基本的理論と概念のレポート</p> <p>課題2 レクリエーションの企画と運営の実施</p>  |         |                     |
| 10. 教科書・参考書・教材        | 必要に応じて適宜資料を配布します  |         |                     |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法     | <p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. レクリエーションの特質を捉えて、自己への挑戦・前向きな姿勢(出席状況含む)を評価基準とする。</li> <li>2. 実技発表への取り組み姿勢と分かりやすい表現・明瞭かつ論理的なレポートを作成できたか。</li> <li>3. 授業を振り返り、レクリエーションへの考え方や自己への課題を前向きに捉えることができたか。</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業への積極的参加態度 50% (出席状況や意見発表を含む)</li> <li>2. 実技発表・課題レポート 40%</li> <li>3. 振り返りのレポート 10%</li> </ol> <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。<br/>以上の結果を総合して評価をする。</p> |         |                     |
| 12. 受講生へのメッセージ        | <p>本講義はレクリエーションの基本的意義からレクリエーションの概念等まで理解し応用技術の実践ができることを目的とします。また自分の人生においてどのようにレクリエーションと関わっていくかというライフサイクルプランの作成も行うことで現場での企画、運営が可能となる指導者を目標とします<br/>なお運動時はジャージで参加すること。ジーンズ・スウェット等は禁止です。また室内では体育館シューズを使用します。</p>  |         |                     |
| 13. オフィスアワー           | 講義内で周知します   |         |                     |
| 14. 授業展開及び授業内容        |   |         |                     |
| 講義日程                  | 授業内容  | 学習課題    |                     |
| 第1回                   | オリエンテーション：概要や進め方、目的確認   | 事前学習    | レクリエーションの意味を考える     |
|                       |   | 事後学習    | レクリエーションの目的と意味を考える  |
| 第2回                   | レクリエーションの基礎理論①<br>○レクリエーションの意義と役割   | 事前学習    | レクリエーションの意義を考える     |
|                       |   | 事後学習    | レクリエーションの課題を考える     |
| 第3回                   | レクリエーションの基礎理論②<br>○各発達段階のレクリエーション   | 事前学習    | 各発達段階を調べる           |
|                       |   | 事後学習    | 各発達段階のレクリエーションをまとめる |
| 第4回                   | レクリエーションの体験①<br>○様々な基礎的レクリエーション   | 事前学習    | 基本的なレクリエーションを調べる    |
|                       |   | 事後学習    | 実践したレクリエーションをまとめる   |
| 第5回                   | レクリエーションの体験②<br>○ニュースポーツを用いたレクリエーション  | 事前学習    | ニュースポーツを調べる         |
|                       |   | 事後学習    | 実践したニュースポーツをまとめる    |
| 第6回                   | レクリエーションの体験③<br>○発達段階に適したレクリエーション   | 事前学習    | 3回目の資料に目を通す         |
|                       |   | 事後学習    | 実践したレクリエーションをまとめる   |
| 第7回                   | グループワーク①<br>○目的・対象に応じたレクリエーションの考案<br>「青年期におけるチーム力 UP について」  | 事前学習    | 初期発達段階のレクリエーションを考える |
|                       |   | 事後学習    | 実践したレクリエーションをまとめる   |
| 第8回                   | グループワーク②<br>○目的・対象に応じたレクリエーションの考案<br>「老年期における他者との関わりについて」   | 事前学習    | 中・壮年期レクリエーションを考える   |
|                       |   | 事後学習    | 実践したレクリエーションをまとめる   |
| 第9回                   | グループによる企画①<br>乳幼児期を考慮した企画   | 事前学習    | レクリエーション大会の企画を行う    |
|                       |   | 事後学習    | 実践結果から改善案をまとめる      |
| 第10回                  | グループによる企画②<br>児童期を考慮した企画  | 事前学習    | レクリエーション大会の企画を行う    |
|                       |   | 事後学習    | 実践結果から改善案をまとめる      |
| 第11回                  | グループによる企画③<br>中壮年期を考慮した企画   | 事前学習    | レクリエーション大会の企画を行う    |
|                       |   | 事後学習    | 実践結果から改善案をまとめる      |
| 第12回                  | グループによる企画④<br>障害を考慮した企画   | 事前学習    | レクリエーション大会の企画を行う    |
|                       |   | 事後学習    | 実践結果から改善案をまとめる      |
|                       | グループによる企画⑤  | 事前学習    | レクリエーション大会の企画を行う    |

|                   |                    |  |                    |
|-------------------|--------------------|--|--------------------|
| 第13回              | 街づくり、地域活性を考慮した企画   | 事後学習   | 実践結果から改善案をまとめる     |
| 第14回              | レクリエーション大会①        | 事前学習   | レクリエーション大会の準備      |
|                   |                    | 事後学習   | 大会の反省から次回の改善を考える   |
| 第15回              | レクリエーション大会②<br>まとめ | 事前学習   | レクリエーション大会の準備      |
|                   |                    | 事後学習   | 適切なレクリエーション方法を考察する |
| 15.実務経験を有する教員特記事項 |                    | オリンピック体操選手としての出場経験、また体操教室(体操クラブ)の体操指導の実務経験の知見を活かし、「7」に示す講義概要に則した講義を行う。 |                    |